

旧上郷町の小字名の意味・由来

【道下】

ミチシタ。

黒田のJR飯田線に近く、野底川を東から渡る付近にある。南西向きの傾斜地にある。

ミチシタとは文字通り「道路の下側にある土地」を意味する。現地もその通りになっている。

国土地理院の2.5万分の1地図には、ミチシタ地名は21カ所に挙げられており、その全てに「道下」の字が宛てられている。

【東・東ノ上】

ヒガシ・ヒガシノウエ。

ヒガシ小字はJR飯田線を跨いでおり、ヒガシノウエ小字はヒガシ小字の傾斜地の上側にある。

ヒガシは方角を表していると思われるが、その基準、つまり何に対して“東の方”になるのだろうか。基準は二つ考えられるが、一つは飯田町の大宮諏訪神社でありもう一つはこれも飯田町の大雄寺である。知名度からみれば、諏訪神社を指すものと思われるが、どうであろうか。

全国地図には、ヒガシ地名は196カ所に中・大字として挙げられているが、ヒガシノウエ地名は当然のことながら記載は無い。

【庚申原】

コウシンバラ。

この小字はヒガシノウエ小字とハラノジョウ小字の間の傾斜地にある。

コウシンは庚申供養塔や庚申講に関係するのであろう。ハラはヒラ（平）の転で「神聖な地でもある傾斜地」のことか。従って、コウシンバラとは「庚申塔があったり、あるいは庚申講が行われていた場所」を意味するものと思われる。

全国地図には、コウシンバラ地名は1カ所に、中・大字として記載があるだけで、意外と少ない。中字や大字にはなりにくいのであろうか。

【西ノ城】

ニシノシロ。

この小字は小さな小字で、ハラノジョウ（原ノ城）小字に北東側から囲まれている。

ニシノシロとは、字面の通りで「西の方にある城」を意味するのであろう。基準となるのは、東の方500から600mのところにある飯沼城と思われる。

西ノ城＝原ノ城、と考えたい。黒田氏の居城ではなかったかという（上郷史）。

【久保田】

クボタ。

クボタ小字は大小の小字が二ヶ所にある。大きなクボタ小字は中井と思われる井水に沿った細長い形をしており、小さな小字も近くに井水がある。

クボタとは「水田のある窪地」をいうのであろうか。

クボタ地名は全国的にも多く、81カ所に中・大字として挙げられている。

【栗屋元】

クリヤモト。

この小字はJR飯田線を挟んだ凹地にある。

クリヤモトとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①クリヤはクリ（涅）・ヤ（菴）で「湿地」のこと、モトはモト（許）で「そば」をいう。従って、クリヤモトとは「湿地帯の傍の土地」をいうか。凹地となっていることと関わっているのであろう。

②クリヤは御厨のことで「神社の直轄地」をいう。モトは「物事の主要な部分」（広辞苑）。以上から、クリヤモトとは「神社の直轄地の中心地」を意味するか。とす

れば、神社は飯沼諏訪神社をいうのであろうか。

全国地図には、クリヤモト地名はないが、クリヤ地名は11カ所の中・大字として挙げられている。

【向垣外】

ムコウガイト。

この小字を含めてカイト小字群がハラノジョウ小字の南側に並んでいる。

ムコウガイトとは、「向にある有力者の居住地」かその跡を意味するものと思われる。「向」とは原ノ城からみでの表現であらうか。

全国地図には、ムコウガイト地名が1件だけ中・大字として記載があり、「向垣外」の字が宛てられている。

【北・北垣外】

キタ・キタガイト。

キタ小字は小さな面積で、キタガイト小字に接している。

キタとは何か。一般的にはキタは方角の北を表す。方角の基準になるのは、すぐ南側にあるカイト小字と思われる。カイト小字には、この地域のかんりの有力者の屋敷があったのでないだろうか。すなわち、キタとは「有力者の屋敷の北にあった土地」をいうのであろう。キタを固有名詞とすることも考えられるが、キタガイトもあるので、解釈が難しくなるので、採り上げないことにした。

キタガイトとは、「北側にある有力者の屋敷跡」であらうか。カイト小字の有力者の分家クラスの有力者と思われる。

全国地図には、キタ地名は127カ所、キタガイト地名は10カ所に、いずれも中・大字として挙げられている。

【下垣外】

シモガイト。

ハラノジョウ小字南側の傾斜地の麓の緩傾斜地にある。

シモガイトとは、「原ノ城を南側に下った所にある有力者の屋敷跡」か。黒田氏の有力家臣であった可能性もある。

全国地図には、シモガイト地名が7カ所に中・大字として挙げられている。

【原ノ城】

ハラノジョウ。

見晴山にある大きな小字で、城跡であらう。

原ノ城は、飯沼所に対して西ノ城とも呼んだらしい。ハラノジョウの一面に小字として名称が残っている。

黒田氏の居城であるといわれている（上郷史）。

天草の城と同名で、全国地図には1カ所に中・大字として記載がある。

【十メ・十メ垣外】

ジッカン・ジッカンガイト。

ジッカンガイト小字はシモガイト小字の南東隣で、原ノ城の南西麓にある。ジッカン小字はジッカンガイト小字に囲まれていて小さい。JR飯田線の伊那上郷駅の周辺になる。

カン（貫）といえは重量の単位であるが、この場合は土地の面積をいう。「中世以後、土地面積の表示に用いられた単位。租税として収取する米を銭に換算して表示するもの。田地の広さは一定ではない。」（国語大辞典）というカン（貫）であらう。

田地の広さは一定ではないというが、これらの二つの小字の広さは全く異なる。ジッカンの面積はジッカン小字よりかなり広がったのではないだろうか。

ジッカンとは「貢租として10貫文の米を納める田地のあったところ」をいうか。

ジッカンガイトとは、「かつては10貫文の貢租が収取されていた田地であった、有力者の屋敷跡」であらうか。

ジッカンとは中・大字とはなりにくい地名であったためか、ジッカン地名もジッカンガイト地名も、全国地図には無い。

【堀】

ホリ。

原ノ城の南西麓にあつて、カイト小字群の中にある、小さな小字である。

原ノ城の空堀の一部であつたと思われるが、はっきりしない。

全国地図には、ホリ地名は21カ所に中・大字として挙げられている。

【目光・目光原】

メッカリ・メッカリバラ。

メッカリ小字は高松保育園のあるところでジッカンガイト小字の南西隣にある。メッカリバラ小字はその南東隣で瀬口病院がある。

メヒカリは四国・中国地方の方言で野葡萄のことらしいが、食べられないということもあり、ここでは採り上げない。

では、メッカリとは何を意味するのか。これもよくわからない小字であるが、敢えて二説を挙げておきたい。

①メッカリ←メタカリと転じたもの。この促音便化は未確認であるが、ありそうな転訛とみて採り上げた。メタは「むやみやたらであるさま」(広辞苑)で上伊那でもよく使われているという。カリは動詞カル(刈)の連用形。以上から、メッカリとは「いつでも自由に草刈ができる場所」すなわち、入会草刈地のことかもしれない。

②メッカリ←メリカリと促音便化したもので、メリは動詞メル(減)の連用形で、カリ=束刈で「田地の反別を刈り取った稲の束数によって計ること」(広辞苑)をいう。従つて、メッカリとは、「刈り取る稲が少なくなっている田地」をいうか。井水が流れていなかった時期であつたのであろうか。

メッカリバラのハラ(原)は「緩い傾斜地」を意味するのであろう。

全国地図には、メッカリバラ地名は勿論のこと、メッカリ地名も載っていない。

【大土】

ダイド。

ムコウガイト小字の北西隣にある小字で、北西-南東に延びる道路の北東側に沿っている。

ダイドとは何か。二説を挙げたい。

①ダイド←タヒトと転じた語。タヒはタヒラ(平)で「平坦地」をいい、トはト(処)のこと(以上は語源辞典)。すなわち、ダイドとは「平坦地」を意味するか。なお、タイはタイ(代)でシロの字音とすると、これは赤石山地では「緩傾斜地」を表しているという(語源辞典)。とすると、ダイドには「平坦に近い緩い傾斜地」を表している可能性もある。

②ダイド←ダイドウ(大道)と転じたものではないだろうか。ダイドウ(大道)には、単に「道路」の意味もある(国語大辞典)。従つて、ダイドとは「道路のあつた所」を意味する。この古い街道と思われる道筋には、ミチシタ(道下)・ミチゾエ(道添)・カンノン(観音)・カマコウジ(釜小路)などの小字が並んでいる。

全国地図には、ダイド地名は記載が無い。

【梶田】

カジタ。

この小字は、ダイド小字とカマコウジ小字の間にある。

カジタとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①カジタ←カシタと濁音化した語で、カシ(傾)・タ(処)から(語源辞典)、カジタとは「傾斜地」をいうか。

②カジタはカジ(鍛冶)・タ(処)で、「鍛冶職人が住んでいた場所」をいうのかも

しれない。

全国地図には、カジタ地名は4カ所に中・大字として挙げられており、うち2カ所では「梶田」の字が宛てられている。

【釜小路】

カマコウジ。

メッカリ小字の南西側に接している、細長い小字である。

カマコウジとは何を意味するのか。これも二説を挙げたい。

①カマコウジはカハ（川）・マ（間）・コウジ（道路）から転じたもので（語源辞典）、「流水の間に道路が通っているところ」を意味するか。現地は井水に挟まれている場所である。

②カマコウジはカマ（鎌）・コウジ（小路）かもしれない。中世には農具の鍛冶に鎌鍛冶が発生し（日本職人史の研究）、鎌そのものも、近世後期には行商商品となり地域的な小生産地もたくさん生まれたという（民俗大辞典）。隣のカジタ小字に鍛冶職人がいたとすれば、この解釈には可能性はあると思われる。

カマコウジ地名は、全国地図には無い。

【ネブノ木・ネブノキサワ】

ネブノキ小字は別府地区に、ネブノキサワ小字は黒田地区にあるが、二つの小字は接している。

ネブノキとは、字面の通りで「ネブノキ（合歓木）が自生している場所」をいうのであろう。ネムノキ（合歓木）は山地や川原に自生するマメ科の落葉小高木で、材は胴丸火鉢・下駄歯に、樹皮は打撲傷・駆虫に用いたという（広辞苑）。

ネブノキサワも文字通り「ネブノキ沢のほとりの土地」をいうのであろう。

【車輪・車輪場】

クルマワ・クルマバ。

これらの小字は、原ノ城・見晴山の南側にある。

クルマワとは何か。これも二説を挙げる。

①一般的には、クルマワとは「円形に回り込んだ場所」をいうのであろう。見晴山を廻る傾斜地が、弧状になっており、それを車に見立てたのであろう。クルマとは水車とか牛車か。

②クルマはクル（刳）・マ（間）で「浸食された土地」（語源辞典）、ワはワ（回）で「山裾などの曲がりくねったあたり」（国語大辞典）をいう。従って、クルマワとは「崩崖のある曲がりくねった山裾」を意味するとも考えられる。

クルマバもクルマワと同じ意味を持つものと思われる。あるいは、クルマワ⇔クルマバと転訛した可能性もある。

全国地図には、クルマワ地名は記載が無い。

【外垣外】

ソトガイト。

ジッカンガイト小字やクルマバ小字の南側にある。原ノ城周辺のカイト小字群の中では最外殻部分に、二カ所の小字となっている。

ソトガイトとは、「（原ノ城からみて）最も外側にあった有力者の屋敷跡」であろうか。

ソトガイト地名も、全国地図には無い。

【三反田・二反田・五反田】

サントンダ・ニタンダ・ゴタンダ。

いずれも黒田地区にある小字であり、水田の面積を表しているものと思われる。必ずしも数字通りの面積にはなっていないが、命名時から時間の経過と共に増減があったのであろう。

【高松・高松原】

タカマツ・タカマツバラ。

飯田高校がある台地がタカマツバラ小字で、その北側に続く台地にタカマツ小字がある。

タカマツとは何か。三説を挙げたい。
①タカマツとは、字面の通りで「たけの
高い松のあったところ」(国語大辞典)で
あろうか。

②タカには「限界。限度」の意があり「台
地の端」を示すこともある(語源辞典)。
すなわち、タカマツとは「台地に端に自
生のアカマツ林があるところ」をいうの
であらうか。

③日下部新一さんが触れられているよう
に、タカマツはタカ(鷹)・マツ(待)で、
「鷹狩りしていた場所」であったかもし
れない。鷹狩をしたのは、もちろん飯田
の殿様であらう。

全国地図には、タカマツ地名は69カ
所に挙げられており、うち66カ所には
「高松」の字が宛てられている。

【イカニ洞】

イカニボラ。

上郷小学校のグラウンドとプールの間に
ある細長い小字である。

イカニボラとは何をいうのであろうか。
難しい地名であるが、語源辞典に依りな
がら三説を挙げたい。

①イカニボラはイカ・ニ・ボラ(洞)で、
イカは動詞イカル(埋)の語幹で「(土砂
などで)埋まった土地」をいい、ニはナ
に通じ「土地」のこと。以上から、イカ
ニボラとは「土砂で埋まったことのある
洞」をいうのであろうか。

②イカニは井(井)・カハ(川)・ナ(土
地)から転じた語で、イカニボラとは「流
水のある洞」の意かもしれない。

③イカニ←イ(井)・カナ(矩)と転訛し
た語で、イカニボラとは「流水が真っ直
ぐに流れている洞」とも考えられる。

全国地図にはイカニボラ地名はもちろ
ん、イカニ地名も記録されていない。

【中畑】

ナカハタ。

ナカハタ。

高陵中学校の北～西側に二ヶ所ある。

ナカハタとは、「西の台地と東の段丘崖
の中ほどにある畑」をいうのであろうか。
簡単なようでわかりにくい地名である。

全国地図には、中・大字として、ナカ
ハタ地名は48カ所に挙げられている。

【善五郎田】

ゼンゴロウダ。

上郷小学校の北方、JR飯田線の北側
にある。

ゼンゴロウは固有名詞で、ゼンゴロウ
ダとは「ゼンゴロウの所有田」であらう。

【砂原畑】

スナハラバタ。

ゼンゴロウダの北隣、高陵中学校の西
側にある。

スナハラバタとは、字面の通りで「砂
地の畑」であらう。

スナハラ小字の中には、地震による液
状化現象によるものもあったと思われる
が、はっきりはしていない。

【あら田・荒田】

アラタ・アラダ。

これらの小字は、上郷運動場と上郷体
育館の間にある。

アラタ小字とアラダ小字は接している
ことから、アラタとアラダとは同じこ
とを意味しているものと思われる。

アラタとは何か。国語大辞典によりな
がら、二説を挙げる。

①アラタはアラタ(新田)で「新たに開
墾した田」であらうか。井水が流れてい
るので、水が利用できるようになって新
田となった土地であらうか。

②アラタ(荒田)であることも考えられ
る。「荒れている田」であるが、開墾され
たばかりの水田でまだ十分な生産をあげ
ることのできない水田を指しているのか
もしれない。

全国地図には、アラタ地名は41カ所に中・大字として挙げられており、うち34カ所に「荒田」が、5カ所に「新田」の文字が宛てられている。

【道平】

ドウダイラ。

ハラノジョウ小字の北東側に二ヶ所ある。

ドウダイラはドウダイラ（堂平）であろう。一方のドウダイラ小字には大念寺がある。二つの小字は、かつては繋がっていたのであろう。

ダイラはダイラ（平）で「山頂または中腹の平らな場所」（語源辞典）をいう。すなわち、ドウダイラとは「仏堂のあった平らな場所」をいうのであろう。

全国地図には、ドウダイラ地名は、中・大字として13カ所に記載があり、うち3カ所に「道平」の字が使われている。残りの10カ所は「堂平」となっている。

【道下・道下北】

ミチシタ・ミチシタキタ。

これらの小字は、大念寺の南方の段丘崖傾斜地にある。

ミチシタとは文字通りに解せば、「（段丘端を廻る）道の下方にある土地」をいうのものとされる。

しかし、これもまた、ドウ（堂）→ドウ（道）と変化したとも考えられるが、この小字の位置からみて難しいと判断して採り上げないことにした。

ミチシタキタは、これも字面の通りで、「ミチシタ小字の北側の土地」であろう。

全国地図には、ミチシタ地名は21カ所で中・大字になっている。

【寺ノ下】

テラノシタ。

この小字は大念寺の下方に当たる北東側にある。

テラノシタも字面の通りで、「大念寺の

下の方にある土地」を意味する。

大念寺は下黒田の斉藤氏が内庵として建て、雲彩寺の永久和尚が入って開山となり、永久和尚は天正年間に亡くなっているという（上郷史）。

全国地図にも、テラノシタ地名は19カ所で中・大字として記載がある。

【福岡】

フクオカ。

原ノ城を廻る段丘崖とその麓部分にも及ぶ広い小字になっている。

フクオカをは何か。語源辞典によりながら、三説を挙げる。

①フクは動詞フクル（脹）の語幹で「（山裾などの）脹らんだ所」。従って、フクオカとは「山裾が脹らんだ所の近辺の丘」をいうか。確かにハラノジョウ小字がフクオカ小字側にふくらんでいる所に当たる。

②フク←はフケ（沮）の転訛した語で、「湿地」をいう。すなわち、フクオカとは「湿地のある丘」をいうか。この小字を二本の井水が流れている。

③フクは美称地名とみることできる。フクオカとは、単に「美しい丘」か。

全国地図には、フクオカ地名は49カ所にも中・大字として挙げられており、うち46カ所に「福岡」が宛てられている。

【道又木】

ミチマタギ。

原ノ城を廻る段丘崖の麓にある。

マタギは「ふたまたに分かれた木」（国語大辞典）をいう。ミチマタギとは、「道路をマタギに見立てたのであろう。「道路が分岐している場所のあるところ」を意味するか。

全国地図には、ミチマタギ地名は無い。

【庚申畑】

コウシンバタ。

この小字は原ノ城の南西側段丘崖にある。

コウシンバタとは「庚申塔のある畑地」か、ハタをハタ（端）とみれば「庚申塔のある段丘の縁部分の土地」ということになる。畑に桑が植えられておれば、傾斜地でも畑になるので、前者の可能性が高いか。

全国地図には、なぜかコウシンバタ地名は記載されていない。

【古田】

コダ。

この小字も原ノ城丘陵の南西側山麓にあり、両側に流水がある。

コダとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①コダはコ（小）・タ（処）の濁音化した語で、「小平地」をいう。

②コダ←コウ・タ←カハ（川）・タ（処）と転じたもので、コダとは「流水のあるところ」をいうか。

全国地図には、コダ地名は41カ所も中・大字として記載があり、うち6カ所に「古田」が宛てられている。

【見城垣外】

ケンジョウガイト。

原ノ城台地の南側にあるカイト小字群の一つ。カイト小字群の中では面積の大きな小字である。

ケンジョウガイトとは何をいうのか、はっきりしない。国語大辞典に依りながら、敢えて二説を挙げたい。

①ケンジョウ←ケンショウ（剣匠）と濁音化したもので、ケンジョウガイトとは「有力な刀鍛冶の屋敷があった所」であろうか。

②ケンジョウ←ゲンジョウ（原上）と転じた語で、ケンジョウガイトとは「野原のほとりにある有力者の屋敷跡地」かもしれない。

全国地図にはケンジョウ地名は5カ所に中・大字として挙げられているが、「見城」の文字が宛てられているところはない。

【鳥目田】

トリメダ。

原ノ城丘陵の南西側の麓にある。

トリメダとは何を意味するのか、はっきりしない小字である。二説を挙げる。

①トリメダ←トリ（鳥）・ミ（見）・ダ（処）と転じた語か。イ段→エ段の母音交替は極めて多く、特に中世ごろに目立って多いという（国語学大辞典）。以上から、トリメダとは「飯田藩の鳥見役が鳥見をした場所」を意味するものと思われる。鷹場でもあったのであろう。鳥見役は江戸幕府の職名の一つで鷹に捕獲させる鳥の群生状態を確かめる役で、各藩にもこの役はあったという（国語大辞典）。

②トリメダはトリメダ（取目田）で、取目とは「収穫量」をいう。江戸時代の諸役は石高に賦課されるのを原則としたが、無高村や前時代の石高が改まっていない村に対しては、この鳥目を課役の対象にしたという（国語大辞典）。従って、トリメダとは「そこの収穫量が課役の対象となっていた水田」ということになるが、どうであろうか。

全国地図には、トリメダ地名は記録されていないが、トリメは1カ所に中・大字として挙げられており、「鳥目」の字が宛てられている。

【原城道下】

ハラノジョウミチシタ。

この小字は、原ノ城丘陵の南西側傾斜地にある。

ハラノジョウミチシタとは、文字通り、「原ノ城丘陵の縁辺にある道の下方の土地」をいうのであろう。

【南平】

ミナミヒラ。

原ノ城丘陵の南側傾斜地にある。

ヒラは黄泉比良坂のヒラで「傾斜地」をいう。ミナミヒラとは「(原ノ城の) 南側の傾斜地」をいうのであろう。

全国地図には、ミナミヒラ地名は4カ所に挙げられている。

【今村】

イマムラ。

この小字は、原ノ城丘陵の北西側にある、より高い丘陵になっている。

イマムラとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ムラはムラ(斑)と関連して「凹凸の多い土地」をいう。すなわち、イマムラとは「新たに開墾された凹凸の多い土地」をいうのであろうか。

②ムラ←ムレ(群)と転じた語で「集落」を意味する。イマムラとは「新しい集落」をいうか。

全国地図には、イマムラ地名は37カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「今村」の字が宛てられている。

【南田】

ミナミダ。

原ノ城丘陵の南麓に二ヶ所あり、その一つを新しい県道飯島・飯田線が貫いている。

ミナミダとは「(原ノ城の) 南側にある水田のあるところ」をいうのであろう。

ミナミダ地名は全国地図に15カ所記載があり、いずれも「南田」となっている。

【星クリ畑】

ホシクリバタ。

原ノ城丘陵の南方で野底川に近いところにある。

ホシクリバタとは何を意味するのか。これも二説を挙げておきたい。

①ホシクリバタ←ホジクリバタと清音化

した語であらう。ホジクル(穿)は「隠れたものをわずかなことまでさがし出す。あばきたてる」の意(国語大辞典)。従って、ホシクリバタとは「あばきたてられた隠し畑であったところ」であらうか。貢租逃れをしていた畑であったが摘発されたものであらう。詳細は不明。

②ホジクルには「掘ってつつきまわす」という意味もある。ホシクリバタとは「大雨で掘り崩されたことのある畑」であらうか。ここにある流水が暴れたのであらうか。

全国地図には、ホシクリバタ地名もホジクリバタ地名も記載されていない。

【張原】

ハリワラ。

この小字は、イマムラ丘陵の南側傾斜地にある。

ハリワラとは何を意味するのか。語源辞典などに依りながら三説を挙げる。

①ハリはハリ(墾)で「開墾地」をいい、ワラ(原)は「山腹」のこと。つまり、ハリワラとは「開墾された山腹」となるが、どうであらうか。

②ハリはハリ(張)で、ハリワラとは「(山裾など) 出っ張ったところ」をいうのであらうか。

③ハリワラ=ハリハラで、「榛の木が生い茂った山腹」をいうのかもしれない。かつては焼畑耕作が行われていたところであらうか。

全国地図には、ハリワラ地名は無いが、ハリハラ地名は4カ所に中・大字として挙げられている。

【藤ノ木】

フジノキ。

この小字は、新しい県道飯島・飯田線の北側でハリワラ小字の南西隣にある。イマムラ丘陵の野底川側の麓になる。

フジノキとは何をいうのか。二説を挙

げたい。

①ノキは動詞ヌク（抜）の連用形で名詞化した語。すなわち、フジノキとは「藤のある崩崖地」をいうか。

②フジはフジ（富士）で、ノキは伊那郡や水窪で使われていたという「家の裏手の土地」を示す語（語源辞典）。従って、フジノキとは「家の裏手で富士講が行われていた土地」というのは考えられないであろうか。北側の傾斜地の上部に祠があるのが気になる。

全国地図には、フジノキ地名は31件が中・大字として挙げられている。

【河原田・横河原田・下河原田・上河原田】

カワラダ・ヨコカワラダ・シモカワラダ・カミカワラダ。

これらのカワラダ小字群は、イマムラ丘陵と野底川の間にある。

ヨコ・シモ・カミはカワラダ小字に対する位置を示しているのであろう。

カワラダとは、「川辺の水がなくて砂石の多い所」（広辞苑）をいう。野底川の川原である。

全国地図には、カワラダ地名は18カ所に中・大字として記録がある。

【竹井ノ免・井ノ沢・竹ノ免・井ノ免】

タケイノメン・イノサワ・タケノメン・イノメン。

これらの小字は竹井という井水に関わる小字と思われる。イノサワ小字はBlueMapにその地番が載ってはいないが、その地籍番号からイノメン小字とタケイノメン小字に挟まれていたものと判断した。

イノサワ（井ノ沢）は地名発生時には、イノメン小字とタケイノメン小字の間を流れていた井水と思われる。

タケイノメン・タケノメン・イノメンはいずれも、それらの土地からあがる収

益が竹井を維持管理するための費用に使われていたので、免租されていたところであったのであろう。

全国地図にはイノメン地名は記載が無い。

【カジヤ・鍛屋坂】

カジヤ・カジヤザカ。

カジヤ小字はカンランジ小字とタケノメン小字の間にある。

鍛冶屋は「鉄を打ち鍛えて刀剣・刃物・農具・馬具・碇・釘などを製作し、あるいは修理にあたる職人の総称」（民俗大辞典）である。寺社などでの需要が多かったのは釘であったという。そのためか、カジヤ関係の小字は寺社の周辺に多い。

ここ黒田のカジヤ小字の近くには、隣のカンランジ小字にあったと思われる観音寺や地図上でも近くに光福寺や薬師寺などを確かめることができる。

カジヤとは「鍛冶職人が居住していた所」であろうし、カジヤザカとは「鍛冶屋へ登る坂道のあるところ」であろう。

全国地図でもあ、カジヤ地名は中・大字として82カ所に記載がある。

【桜垣外】

サクラガイト。

県道飯島・飯田線がこの小字の中を通過しており、中にはJA黒田支店がある。

サクラガイトとは何か。二説を挙げる。

①サクラガイトとは、字面の通りとすれば、「桜の木があった有力者の屋敷跡」か。近隣でも評判の桜であったのであろうか。

②サクラはサク（作）・ラ（場所を示す接尾語）で、「耕作地もあった有力者の屋敷跡」かもしれない。

全国地図にはサクラガイト地名は記録されていない。

【赤羽根】

アカバネ。

ハラノジョウ小字の北隣で、上郷変電

所のあるところ。

アカバネとは「赤土のところ」をいう(国語大辞典)。

全国地図には、アカバネ地名は29カ所で中・大字としての記載がある。

【観音田】

カンノダ。

アカバネ小字の北西隣に二ヶ所あり、新しい県道飯島・飯田線が通っている。

カンノダとは何か。二説を挙げる。

①カンノダとは「観音様が祀られていた場所の田んぼ」をいうのであろうか。しかし、この地で観音様に関わると思われるのは、かつて観音堂と呼ばれていたことのある光福寺しかない。

②カンノダとは「観音堂を維持し仏事が続けられるように、免租になっていた田んぼ」をいうのかもしれない。この田から挙がる収益は観音堂を支える費用になっていたのであろうか。観音堂とは現在の光福寺であろう。

全国地図には、なぜかカンノダ地名は記録されていない。

【横枕】

ヨコマクラ。

この小字はハラノジョウ小字の北側に二ヶ所ある。

ヨコマクラとは何を意味するのか。各地にある小字名であるが、分かりにくい小字でもある。

ヨコマクラとは「地形の都合上、地割りの幹線に併行して区分できなかった部分の土地」(語源辞典)だという。とすれば、小字の形は単純な長方形をしていないのではないだろうか。それが、枕の形になっていることが多いのであろう。ここ黒田のヨコマクラも、そう思ってみればそれらしい程度の形をしているが、明瞭ではない。

全国地図には、ヨコマクラ地名は18

カ所に中・大字として挙げられている。

【森下】

モリシタ。

この小字は、黒田の県道飯島・飯田線を挟んで、北西側と南東側に一つずつある。

モリ(森)は「神社などのある神域で、神霊の寄りつく樹木が高く群がり立ったところ」(国語大辞典)をいう。すなわち、モリシタとは「お宮のある神聖な森を下ったところ」をいうのであろう。

モリに該当するお宮はダイミュジンバラ小字かミカド小字にあるお宮であろうが、はっきりはしない。

全国地図には、モリシタ地名は35カ所が中・大字として挙げられている。

【待張・町バリ】

マチバリ。

「待張」小字は二つのモリシタ小字の間にあり、「町バリ」小字はミカド小字の北隣にある。

マチバリ=マチハリであろうが、何を意味しているのか。

①マチは「区画した田地」をいい、ハリはハリ(墾)のことから、マチバリとは「区画された新墾田地」をいうか(長野県の地名 その由来)。

②マチは「祭り場」の意もある。バリ←ハラ(原)の転とすれば(以上は語源辞典)、マチバリとは「祭り場である平坦地」となる。近くにはお宮が複数ある可能性もあるので、ありうる解釈と思われる。

全国地図には、マチバリ地名もマチハリ地名も記載されていない。

【赤田】

アカダ。

モリシタ小字の近くに二ヶ所ある、いずれも小さな小字である。

アカダについても二説を挙げたい。

①アカダは「赤土の土地にある田んぼ」

をいう。一般的な解釈で、問題がないように思える。

②もしかしたら、アカダとは「赤米を栽培していた田んぼ」ではなかったか。どこにもない解釈であるが、近くには神社の痕跡が何ヶ所もある地域で、神に供える赤米を、小字発生時ころまで作っていたのではないかと、ふと思ったがどうであろうか。

全国地図には、アカダ地名は15カ所の中・大字として記載されている。

【四ツ田】

ヨツダ。

黒田にはナカジマ小字を挟んで二ヶ所にある。

ヨツダとは何か。二説を挙げる。

①ヨツダは「四枚の田んぼ」を意味するのであろう。ここ黒田のヨツダは二ヶ所を合わせて四枚としていたのかもしれない。

②もう一つ、別の解釈もありそうだ。ヨツはヨ（節）・ツ（助詞）で「二つのものに区切られた土地」の意もある（語源辞典）。すなわち、ヨツダとは「二枚に分けてある田んぼ」をいう。この解釈は一つずつのヨツダ小字について成立することになる。

全国地図には、ヨツダ地名は記載が無い。

【長通り】

ナガドオリ。

この小字は県道飯島・飯田線の近く、二ヶ所のマチバリ小字に隣接して二ヶ所にある。

ナガドオリとは何か。語源辞典によりながら二説を挙げる。

①ナガは動詞ナガル（流）の語幹で「傾斜地」をいい、トオリは「道路」をいう。従って、ナガドオリとは「傾斜地を通る道路のある所」であろうか。

②トオリには「新田」の意味もあるという。ナガドオリとは「傾斜地に拓かれた新田のある所」となる。

全国地図には、ナガドオリ地名は1カ所であり「中通り」の字が宛てられている。

【中川】

ナカガワ。

ナガドオリ小字に隣に、この小字も三ヶ所にある。

ナカガワとはナカイ（中井）のことであろうか。ナカガワ小字の近くを中井が流れている。

全国地図にはナカガワ地名は144カ所も中・大字として挙げられている。

【豊田】

トヨダ。

ナカガワ小字の近くにある、小さな小字である。

トヨはトヒ（樋）の転じた語で「水路」をいう。従って、トヨダとは「水路が近くにある田んぼ」のことであろうか。

全国地図には、トヨダ地名は29カ所に、トヨタ地名は22カ所に挙げられている。

【クレ沼】

クレヌマ。

ナカガワ小字やトヨダ小字の近くにある。

クレ←クリ（小石）と転じたもの。特に中世には目立って多くなっているというイ段→エ段という母音交替である（国語学大辞典）。

従ってクレヌマとは「小石まじりの湿地」を意味する。

全国地図には、クレヌマ地名は載っていない。

【中田】

ナカタ。

新しい県道飯島・飯田線がこの小字の

中を貫いている。長い小字である。

ナカタとは何か。「中ほどにある田んぼ」という曖昧な解釈ではなくて、この場合は「中井が近くを流れている田んぼ」としておきたい。

ナカタ地名は、全国地図の中・大字として35カ所に挙げられている。

【円正】

エンショウ。

ナカタ小字の南東隣に付いている小さな小字である。

エンショウとは何をいうのか。分かりにくい小字である。

エン←エ(江)・ノ(助詞)・ショウ(庄)で、ショウ(庄)は「穀物を貯蔵する倉屋と付属する園地」をいうのかもしれない(語源辞典)。以上から、エンショウとは「井水の傍で、かつて穀物を貯蔵した倉屋があったちいわれている所」をいうのであろうか。

全国地図には、エンショウ地名は記載が無い。

【田島】

タジマ。

この小字の中には上郷体育館がある。

タジマは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①タは単に語調を整える接頭語、ジマ＝シマで「周囲を水に囲まれた所」をいう。すなわち、タジマとは「周囲を流水に囲まれた土地」をいうか。この小字の廻りの半分ほどには流水がある。

②タジマ←タチマと転訛したか。タチ(館)は「屋敷のあった所」、マ(間)は「場所」を表す。以上から、タジマとは「屋敷のあった土地」と考えることもできそうだ。

全国地図には、タジマ地名が中・大字として47カ所に挙げられている。

【梶垣外】

カジガイト。

高陵中学・上郷体育館の北側に広がる大きな面積の小字である。

カジガイトとは何か。ここでも二説を挙げたい。

①カジはカジ(鍛冶)で、カジガイトとは「鍛冶職人の屋敷があった所」か。鍛冶関係の小字が多いが、それだけ多くの寺社があったということであろうか。

②カジは動詞カジル(嚙)の語幹で「引っ搔かれたような地形」をいう(語源辞典)。カジガイトとは、「(大雨などで)崩れた斜面がある屋敷跡」か。大部分は緩傾斜地であるが、西側に登る斜面がある。

全国地図には、カジガイト地名は2カ所に中・大字として記載があるだけ。

【福島】

フクシマ。

エンショウ小字の北東隣で黒田研修センターの北西の方にある。

フクシマについても語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①フク←フケ(沮)と転じたもので「湿地」をいう。シマ(島)は「周囲を水に囲まれた所」。以上から、フクシマとは「周囲を水に囲まれた湿地」か。

②フクは美称地名。すなわち、フクシマとは「周囲に流水がある土地」をいうか。

全国地図には、フクシマ地名が57カ所と少なくない。

【下夕川】

シモタガワ。

フクシマ小字の北東隣にあり、周辺にはイシタ小字やオオイバ小字など、井水関係の小字がある。

シモタガワも分かりにくい小字であるが、これも二説。

①シモタガワはシモ(下)・タ(処)・ガワ(川)で、「下の方にある川」であるが、基準になっているのは、黒田の諏訪神社か。とすれば、シモタガワとは「(諏訪神

社の)下流の方を流れている川のある所」を意味することになりそうだ。

②語源辞典によれば、シモタはシ(「下」の意の接頭語)・モタ(湿地)で、シモタガワとは「(諏訪神社の)下の方にある湿地で川が流れている所」をいうのかもしれない。

全国地図には、シモタガワ地名は3カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「下田川」の字が宛てられている。

【石田】

イシダ。

東の方と西の方にそれぞれ一つずつイシダ小字がある。東のイシダ小字の周辺にはフクシマ・イシタ・シモタガワなどの小字があり、西のイシダ小字は野底川に近い。

イシダについても二説。

①イシダとは、文字通り「小石まじりの水田(ところ)」であろうか。西のイシダ小字に該当しそうな解釈である。

②東の方は、イシダ←イシタ(井下)と濁音化したもので、「井水の下方の土地」をいう。隣にイシタ(井下)小字があり、全国地図にもイシタ地名が2カ所にあり、いずれも「石田」の字が宛てられている。この解釈を支持する傍証であろう。

イシダ地名は多い地名で、80件も全国地図の中・大字に挙げられている。

【増田】

マスダ。

ハラノジョウ小字の北方にあって、中を新しい県道飯島・飯田線が通っている。

マスダとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説。

①マスはマス(柘)で「四角形の形状」をいい、ダはタ(処)で「場所」を示す。つまり、マスダとは「ほぼ長方形の形をした土地」をいうか。地名発生時には現在よりも長方形に近い形であったらう。

②マスダはマ(接頭語)・ス(砂)・ダ(処)で、「砂地の土地」をいうのかもしれない。

全国地図には、マスダ地名は22カ所に中・大字として記録されており、うち12カ所で「増田」になっている。

【新屋】

シンヤ。

マスダ小字の南西隣にある小さな小字である。

シンヤは「分家」をいう(語源辞典)。従って、シンヤとは「分家した家のある土地」を意味するのであろう。

全国地図には、シンヤ地名は6カ所に中・大字として挙げられている。

【中島】

ナカジマ。

県道飯島・飯田線の南側で、二つのヨツダ小字に挟まれている。

ナカジマとは「流水に取り巻かれている土地」をいうのであろう。

ナカジマ地名はどこにでもあり、全国地図には、中・大字として、262カ所にも記載がある。

【三角・ミカド】

ミカド。

県道飯島・飯田線添いで黒田の選果場がある。

ミカドとは何を意味しているのか。語源辞典に依りつつ二説。

①ミカドは屋敷をいう尊敬語で「豪族の屋敷のあった所」をいうか。原ノ城関係の有力者の屋敷があったのであろうか。

②ミカド←ミヤ(宮)・カド(門)と転じたもので「神社境内」の意もある。すなわち、ミカドとは「近くにお宮のあった所」となる。どんなお宮があったのかは明らかではない。近くには、ダイミョウジンバラ・ニシノミヤ・タイザ・ハクサンなどの神社関係の小字が多い。

全国地図には、ミカド地名は25件が

中・大字とえて挙げられており、うち7カ所に「三角」、12カ所に「御門」の字が宛てられている。

【岩下】

イワシタ。

この小字はミカド小字の南東隅にある。イワシタとは何を表しているのか。これもあまりはっきりしない地名である。

イワは「小石まじりの土地」をいう(語源辞典)。であれば、イワシタとは「小石まじりの土地の下方にあるところ」をいうのであろうか。

全国地図には、イワシタ地名は48カ所と少なくはない。

【竹ノ越・竹腰】

タケノコシ・タケコシ。

いずれも黒田にある。

タケノコシについても二説を挙げておきたい。

①タケは「信仰と関係ある山の称」で上伊那の方言とか(国語大辞典)。つまり、タケノコシとは「お宮の境内の下方の土地」をいうのであろうか。コシはコシ(腰)で人体に見立てたのであろう。お宮の境内とは、ミカド小字のこと。

②タケはタケ(竹)で竹藪のことを指しているのかもしれない。すなわち、タケノコシとは「竹藪の近くにある土地」となるがどうであろうか。

タケコシもタケノコシと同じ由来であると思われる。

全国地図には、タケノコシ地名は2カ所に中・大字として挙げられており、「竹之腰」と「竹越」の字が宛てられている。

【榎戸】

エノキド。

黒田のマネガイト小字の南隣にある。

エノキドとは何か。二説を挙げる。

①字面の通りとすれば、エノキドはエノキ(榎)・ド(処)で「榎が植えられてい

た所」となる。一里塚とか道祖神の傍に植えられる神聖な樹であった。ここ黒田ではどうであったのか。

②エノキドとはエ(家)・ノ(助詞)・キド(門)ではなかったか。であれば、エノキドとは「有力者の屋敷の門のあったところ」となる。有力者とはすぐ北隣のマネガイト小字にあった屋敷にいた人か。

全国地図には、エノキド地名は15カ所にあり、うち13カ所で「榎戸」の字が用いられている。

【間根垣外】

マネガイト。

周辺には、サカイガイト・ミカド・キズクチ・エノキドなどの小字がある。

マネガイトとは何か。わかりそうで分りにくい小字が続く。これも二説を挙げておきたい。

①マネはマ(単なる接頭語)・ネ(尾根)で(語源辞典)、マネガイトとは「尾根状の微高地にある有力者の屋敷跡」か。明瞭な尾根ではないが、ここは両側より少し高めにはなっている。

②マは接頭語、ネはネ(根)で「裾」をいう(語源辞典)。マネガイトとは「(お宮の)裾にある有力者の屋敷跡」とも思える。お宮はミカド小字にあったと思われる神社である。

全国地図にはマネガイト地名は無い。

【境垣外】

サカイガイト。

黒田のシュクザイケ小字とミカド小字の間にある。西保育園のある所。

サカイガイトは何か。

①文字通りに考えれば、サカイガイトとは「境界地にある有力者の屋敷跡」となるが、何の境になるのかははっきりしない。

②サカイはサカ(坂)・イ(井)か。すなわち、サカイガイトとは、「井水の流れている斜面にある有力者の屋敷跡」となる

が、どうであろうか。

全国地図には、サカイガイト地名も記載は無い。

【中曾根】

ナカソネ。

マネガイト小字の東隣にある小字。

ソネは「石が多く地味のやせた土地」(国語大辞典)をいう。ナカはナカ(中)で「傾斜地の中腹部」をいうのであろうか。

以上から、ナカソネとは「斜面の中腹部にある石が多く地味のやせた土地」となる。ここは多くのソネのように微高地にはなっていない。

全国地図には、ナカソネ地名は12カ所に中・大字として挙げられている。

【沢又木】

サワマタギ。

黒田のナカソネ小字の東隣に二ヶ所があり、一つは新しい県道飯島・飯田線に接している。

マタギは「又になった木」(広辞苑)で、サワマタギとは①「流水が二つに分かれているところ」か、あるいは②「流水があって、道路が分岐しているところ」であらう。しかし、流水が枝分かれしているところは確認していない。

全国地図には、サワマタギ地名は載っていない。

【井下】

イシタ。

黒田の二つのドウエン小字に挟まれている。

イシタとは「井水の下方にある土地」を意味する。流れている井水は北井であらうか。

全国地図にはイシタ地名は2カ所にあり、先述のようにいずれも「石田」の字を宛てている。

【南下リ】

ミナミサガリ。

この小字は、二つのイシタ小字の間にある。

サガリは動詞サガル(下)の連用形が名詞化した語で、「下がった地形」をいう(語源辞典)。

従って、ミナミサガリとは「南向きに下がる傾斜地」をいうのであろう。

全国地図にはミナミサガリ地名は1カ所だけであるが、中・大字として記録され、「南下里」の字が宛てられている。

【大井場】

オオイバ。

シモタガワ小字の南隣にあり、シモタガワ小字からの二本の井水をそのまま引き取っている。

オオイバとは「大井すなわち北井が流れているところ」をいう。大井は上流で北・中・南の三本の井水に分かれている。

全国地図には、オオイバ地名は載っていない。

【山ノ神】

ヤマノカミ。

黒田のオオイバ小字の下流側にある。

山ノ神は「山を守り、つかさどる神」(国語大辞典)であるが、神格等も多様である。ここ黒田の山神がどのように祀られていたのかは不明。

全国地図には、ヤマノカミ地名は70カ所にも中・大字として記載がある。

【中畑】

ナカハタ。

この小字は二ヶ所にある。一つはJR飯田線やタカマツ小字に接しており、もう一つの小さい方は高陵中学の北西側にある。

ナカハタとは「西の原ノ城丘陵と東の低地との間にある畑地」を意味するのであろう。

全国地には、ナカハタ地名は中・大字

として48カ所に記載がある。

【南畑】

ミナミバタ。

高陵中学の北側にある小さな小字である。

ミナミバタとは「南の方にある畑」を意味するものと思われるが、基準になるものがはっきりしない。ここでは大明神原の南、としておきたい。

【大手畑】

オオテバタ。

飯沼諏訪神社の北側にある。

オオテとは「城の表門。それに通じる道路」をいう（語源辞典）。従って、オオテバタとは「飯沼城の表門とそれに通ずる道路の近くにある畑」あるいは「大手門に通じる道の傍の土地」をいうのであろう。

全国地図には、オオテバタ地名は記載が無い。

【高越】

タカコシ。

オオイバ小字とヤマノカミ小字の北隣、カイト小字の南隣にある。

タカコシ＝タカゴシで、「腰の上部の、腰の骨の張っているところ」をいう（国語大辞典）。日葡辞書にもある。

従って、タカコシとは、「カイト小字の腰に見立てた土地」を意味しているのであろうか。カイトには有力者の屋敷があったので、基準にしたものと思われる。

全国地図には1カ所にタカコシ地名があり、「高越」の字が宛てられている。

【藪田路】

ヤブタロ。

タカコシ小字とカイト小字に挟まれている。

タロはタル(垂)と関係し、「緩傾斜地」で、ヤブは「低木、竹などが生い茂っている所」をいう（以上は語源辞典）。以上

から、ヤブタロは「低木や竹が繁っている緩傾斜地」をいうか。このヤブには藪神の境内になっていることも考えられる。

全国地図には、ヤブタロ地名もヤブタロ地名も記載されていない。

【垣外・五郎平垣外】

カイト・ゴロウダイラカイト。

カイト小字は二カ所で、いずれもゴロウダイラカイト小字の近くにある。

カイトは「かなりの有力者の屋敷があった所」であり、ゴロウダイラカイトは「五郎という有力者の屋敷があった平坦地」を意味するのであろうか。

【衾きや平】

ネギヤダイラ。

カイト小字やゴロウダイラカイト小字などに囲まれている。

ネギヤダイラとは何か。二説を挙げる。

①ネギヤ＝ネゴヤ（根小屋）で、中世の山城の麓にあった豪族の屋敷があったところという（語源辞典）。従って、ネギヤダイラとは「山城の麓の家臣等の屋敷があった平坦地」をいうのであろう。山城は原ノ城のことになるが、やや離れているのが気になる。

②ネギ（衾宜）は神職のこと。ネギヤダイラとは「神職の居住地があった平坦地」ということになる。諏訪神社の神職と思われる。

全国地図には、ネギヤ地名は6カ所にあるが、ネギヤダイラ地名は記載されていない。

【道円】

ドウエン。

黒田諏訪神社の南の方に二ヶ所ある。

ドウエンは何を意味するのか。広辞苑に依りながら二説をあげる。

①ドウはドウ(堂)で、「神仏を祀る建物」のこと、エンはエン(縁)で「へり」をいう。以上から、ドウエンとは「神社の

周辺部の土地」をいうか。

②エンはエン（苑）で「果樹・野菜・花などを植えた畑」であろうか。すなわち、ドウエンとは「お宮の野菜・花などを栽培していた畑」をいうのかもしれない。

全国地図には、ドウエン地名は載っていない。

【新屋敷】

アラヤシキ。

黒田に二ヶ所ある。

アラヤシキとは①「新しい屋敷があった所」か、②「荒廃した屋敷があったところ」か。

全国地図には、アラヤシキ地名は中・大字として116カ所にも記載がある。うち70カ所に「新屋敷」、45カ所に「荒屋敷」の字がそれぞれ宛てられている。

【大下】

オオシタ。

アラヤシキ小字やドウエン小字に接している。

オオ（大）には「中心となる」の意もある（語源辞典）。従って、オオシタとは「中心となる土地の傾斜地を下ったところ」を意味するのであろうか。中心となっているのは、黒田諏訪神社である。

全国地図には、オオシタ地名は14カ所に中・大字として挙げられており、うち12カ所には「大下」が宛てられている。

【乗鞍】

ノリクラ。

オオシタ小字の東隣にある。

ノリクラは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら、二説を挙げておきたい。

①ノリクラ（乗鞍）は「馬の鞍を置いたような形の山」をいう。しかし、この小字のある所は緩傾斜地で、馬の鞍の形を想像することはできない。ただ近くにそ

んな山があれば、それがこの小字名の起源にはなり得る。その点は未確認。

②ノリクラはノリ（反）・クラ（倉）で、ノリは動詞ノル（反）の連用形が名詞化した語。従って、ノリクラとは「緩傾斜地で倉庫があったところ」だろうか。

全国地図にはノリクラ地名は記録されていない。

【橋都】

ハシヅメ。

黒田のカイト小字群に取り囲まれている。

ハシヅメは「橋のつきるところ。橋のたもと。はしぎわ」（広辞苑）である。従って、ここのハシヅメとは「橋のたもとになっている場所」をいう。橋が架かっていたのは北井という井水であろう。

全国地図には、ハシヅメ地名は33カ所に中・大字として挙げられている。

【小橋垣外】

コバシガイト。

北井を挟んで、ハシヅメ小字の北隣にある。

コバシは「小さい橋」（国語大辞典）をいう。コバシガイトとは、「小さい橋が架けられている場所で、有力者の屋敷があったところ」であろう。

全国地図には、コバシガイト地名は無い。

【立坂】

タツザカ。

この小字は複数箇所にあるが、最も大きなタツザカ小字はダイミョウジンバラの広大な小字の南隣にある。

タツザカとは何か。語源辞典によりながら考えられる二説を挙げる。

①タツはタツ（辰）で、十二支の辰の方角（東南東）をいう。つまり、タツザカとは「辰の方角にある坂地」をいうのであろう。

②タツはタツ（竜）で竜神信仰が残っていたところであろうか。タツザカとは、「水神様を祀ってある所」をいうのかもしれない。まだ水神碑の確認はしていない。

全国地図には、タツザカ地名は2カ所に中・大字として記録されており、いずれも「立坂」の文字になっている。

【原】

ハラ。

タツザカ小字やコバシガイト小字に接している。下黒田東消防コミュニティセンターがある。

ハラは語数が少ない地名なので、全国地図には450カ所も中・大字として挙げられている。

ハラ（原）とは「広い平坦な土地」をいうのであろう。

小字発生時には「耕地や宅地として利用されていない平坦地あるいは緩傾斜地。野以上に水利の便が悪く、採集や狩猟の場」（民俗大辞典）であったと思われる。

【桜畑】

サクラバタ。

黒田の飯沼境にある小字。

サクラバタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①サクには「窪くて長く平らな所」の意がある。ラは「場所」を示す接尾語。緩傾斜地になっているので、等高線をたどれば、畑地は長く平らなところになるし、一方から見れば窪地にもなる。以上から、サクラバタとは「長く平らな畑になっている所」であろうか。サクは房総の方言であるというのが問題かもしれない。

②サクはサク（柵）で、飯沼城の柵が築かれていた場所かもしれない。とすれば、サクラバタとは「（飯沼城の）柵があった所にある畑地」となる。

全国地図には、サクラバタ地名は2カ

所に、中・大字として挙げられており、いずれも「桜畑」の字が宛てられている。

【石トビ】

イシトビ。

タツザカ小字とコバシガイト小字の間にある。

イシトビとは何をいうのであろうか。二説を示したい。

①イシトビは「川の浅瀬などで飛石づたいになっている所」（国語大辞典）である。ここのイシトビも「北井を飛石で渡る場所があるところ」をいうのかもしれない。確かに北井はここで幅が広がっている。

②トビはドブ（泥）と関係し、「湿地。泥地」をいう（語源辞典）。すなわち、イシトビとは「小石まじりの泥地のあるところ」であろうか。

全国地図にはイシトビ地名が6カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「石飛」の字となっている。

【北田】

キタダ。

黒田北部のタナカ小字の南隣にあり、キタノハラ小字を挟んで二ヶ所にある。

キタダとは字面の通りで、「黒田の北部にある所（水田）」をいうのであろう。

全国地図にはキタダ地名は中・大字として29カ所に挙げられており、すべてが「北田」になっている。

【北原・北ノ原】

キタノハラ。

いずれも黒田北部にあり、キタダ小字に挟まれている。

キタノハラも文字通りで、「黒田の北部にある平坦地」を意味する。

全国地図にはキタノハラ地名は5カ所にあるだけであるが、キタハラ地名になると91カ所を数える。

【宮下・宮ノ脇・宮ノ上・宮ノ越】

ミヤシタ・ミヤノワキ・ミヤノウエ・

ミヤノコシ。

これらの小字は黒田諏訪神社の周辺にあり、いずれも諏訪社を基準にした位置を示している。

ミヤノシタは「緩傾斜地の諏訪社の下の方の土地」をいい、ミヤノワキは「諏訪社の横手にある土地」を、ミヤノウエは「緩傾斜地の諏訪社の上の土地」を、ミヤノコシは「諏訪社を人体の頭とすれば、腰の部分にある土地」を、それぞれ意味しているものと思われる。

全国地図の中・大字として採られている数は、ミヤシタが最も多く84カ所、続いてミヤノウエ29カ所、ミヤノワキ26カ所、ミヤノコシ5カ所と少なくなっている。

【柳坪】

ヤナギツボ。

ミヤシタ小字の南西隣に細長く延びている小字で、大小が二ヶ所にある。

ヤナギツボとは何か。これも語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ツボは動詞ツボム（窄）の語幹で「窪地」をいう。つまり、ヤナギツボとは「柳が自生している窪地」をいうか。

②ヤナギはヤナ（斜面）・ギ（場所を示す接尾語）で、ツボ（田の区画）をいう。

以上から、ヤナギツボとは「緩傾斜地にある田んぼ」を意味するとも考えられる。

全国地図には、ヤナギツボ地名は載っていない。

【田中】

タナカ。

この小字の中に上郷北保育園がある。

タナカとは「水田に囲まれた集落のあるところ」（語源辞典）をいうのであろうか。

タナカ地名は多く、全国地図にも中・大字として339カ所が挙げられている。

【池ノ尻】

イケノジリ。

ダイミョウジンバラ小字の南隣にあり、新しい県道飯島・飯田線が通っている。

イケノジリとは何か。二説を挙げる。

①イケは「水路」をいう。すなわち、イケノジリとは「水路の出口で、二本の北井が合流しているところ」であろうか。

②黒田諏訪神社周辺は湧水の多いところであるという。かつて、この湧水を集めた池があって、その末端部をイキジリと呼んでいたのかもしれない。イケジリとは「池の末端部」をいう。

全国地図には、イケノジリ地名は2カ所にしかないが、イケジリ地名は中・大字として26カ所が挙げられている。

【矢落】

ヤオチ。

黒田のマネガイト・ナカソネ・ツルサシの小字に囲まれている。

ヤオチとは何を意味しているのか。

ヤはヤツ（菴）の略で「湿地」をいい、オチ（落）は「傾斜地」のこと（以上は語源辞典）。従って、ヤオチとは「傾斜地になっている湿地」をいのであろう。

全国地図にはヤオチ地名は2カ所に中・大字として記載があり、いずれも「矢落」の字が宛てられている。

【鶴指】

ツルサシ。

黒田諏訪神社の南方にある小字。

ツルサシも分かりにくい地名であるが何を意味するのであろうか。

ツルは「鶴のクビのように細長い土地」をいうのであろうか。サシ（指）は「真直に伸びた状態」（語源辞典）をいう。以上から、ツルサシとは「細長く真っ直ぐに伸びた土地」を意味するのであろうか。

全国地図には、ツルサシ地名は記載されていない。

【水口】

ミズグチ。

ツルサシ小字の西隣にある。

ミズグチとは、「井水を取り入れる口と井水に落とす口がある土地」をいうのであろうか。

ミズグチ地名は、全国地図に6カ所が中・大字として挙げられている。

【宿在家】

シュクザイケ。

ミズグチ小字の西隣にあり、県道飯島・飯田線が貫いていて、西方にある薬師寺に通じる道と交差している。

ザイケ(在家)は「中世の通常の家で、在家役の賦課の単位」(岩波日本史辞典)であるという。宿を職業とする家々をまとめて公事を割り当てられている集団の一員ということであろうか。

以上から、シュクザイケとは「旅籠を業としている家のあったところ」か。ここを主要な街道が通っていたことになる。それは三州街道であろうか。

全国地図にはシュクザイケ地名は載っていない。

【北沼】

キタヌマ。

諏訪神社に近いミヤノワキ小字の間にある。

キタヌマは文字通りで、「黒田の北部にある湿地」をいうのであろう。キタヌマ小字の南北両端には北井と思われる流水がある。

全国地図には、キタヌマ地名は2カ所に中・大字として挙げられており、「北沼」の字が宛てられている。

【五本木】

ゴホンギ。

黒田の中央道から県道飯島・飯田線の間にある大きな小字で、南西側はジュウオウドウ・サンマイショの小字に接している。

ゴホンギとは何か。はっきりはしないが、二説を挙げておく。

①字面の通りに考えれば、ゴホンギとは「五本の樹木が目立っていた所」か。sの樹木は多分、アカマツではなかったかと思われる。

②ゴホンはゴホン(五品)かもしれない。「仏滅後の弟子が得る五種の功德を得た僧の位」(国語大辞典)をいう。ギはギ=キで「場所」を示す接尾語(語源辞典)。以上から、ゴホンギは「僧侶が居住していたところ」もありえないわけではないが、どうであろうか。

全国地図には、ゴホンギ地名は1カ所に中・大字として挙げられており、「五本木」の字になっている。

【清水】

シミズ。

黒田諏訪神社の北側にある。

シミズとは「湧水のあるところ」であろう。段丘の中腹で自然湧水があったと思われる。

どこにでもある地名で、全国地図には、中・大字として236カ所が挙げられている。

【大明神原】

ダイミョウジンバラ。

黒田諏訪神社の北東側にある広大な小字である。

ダイミョウジンバラとは「大明神を祀ってある原野」を指すのであろう。大明神は諏訪社の祭神で、小字名発生当時には、ここは耕作をしてない緩傾斜地であったと思われる。

全国地図には、ダイミョウジンバラ地名は1カ所にあり、「大明神原」の字が宛てられている。

【浅間上ノ平・浅間西平・浅間南平・浅間中通り】

センゲンウエノタイラ・センゲンニシ

ダイラ・センゲンミナミダイラ・センゲンナカドオリ。

これらの小字はダイミョウジン小字の東～南東隣に集まっている。もう一つセンゲンヅカ（浅間塚）小字もあるが、地番がBlueMapに欠けていて、場所を特定できないが、これらの浅間小字群のなかにあったと思われる。

この浅間塚（富士塚）で、富士講が行われていたものと思われる。

ダイラは「山の中腹から麓のあたり」（語源辞典）をいい、上・西・南は浅間小字群のなかの位置を表し、ナカドオリは二本の尾根の間の谷をいうのかもしれない。

【権現】

ゴンゲン。

黒田の北部、センゲンナカドオリ小字の北隣にある。飯沼にもゴンゲン小字があるが、後に触れる。

権現は神仏習合の時代に仏が化身して日本の神々として現れた姿をいうのであるが、この地にどんな権現様が祀られていたのだろうか。浅間信仰の場が近いので熊野権現か、あるいは飯沼の田藪社に祀られている白山権現か。

明治元年の新政府による神仏分離令を耐えて生き残った地名ではある。

全国地図には、ゴンゲン地名は18カ所に中・大字として記載されており、いずれも「権現」の字が宛てられている。

【沢ノ田】

サワノタ。

黒田ダイミョウジンバラ小字の北隣にある小字で、土曾川と栃ヶ洞川のあいだの低地にある。現在は水田と果樹園が多い。

サワは西日本では「湿地」の意味で使われ、東日本では「谷。溪谷」の意味とされているようである（語源辞典）。

サワノタとは「谷の底部にある所（水田）」をいうのであろうか。

全国地図には、サワノタ地名は記載がない。

【社宮司原】

シャグジバラ。

黒田諏訪社の北西方向にあり、ダイミョウジンバラ小字の西隣にあたる。

シャグジは諏訪～伊那谷を中心に三遠南信に広がる地名だある。古代諏訪信仰に関わる地名とされている。

シャグジバラとは「地主神であるシャグジの神を祀る土地」であろうか。

御柱祭は諏訪明神のお告げが地主神である社宮司の神に下る。社宮司の神は郷民に諏訪明神の御意志を伝えて祭典に取りかかる。御柱年に社宮司を祀るのはその名残だという（上郷史）。

全国地図には、シャグジバラ地名は載っていない。

【久保田沼】

クボタヌマ。

黒田のゴホンギ小字とシュクザイケ小字の間にあるクボタ小字に囲まれている。

クボタヌマとは、字面の通りで「窪んだ所にある沼地」をいうのであろう。

自然湧水が多いといわれている黒田諏訪社の西方にある。

全国地図にはクボタヌマ地名は無い。

【三味所】

サンマイショ。

この小字は、上記のクボタ小字とジュウオウドウ小字に挟まれている。

サンマイショ＝三味場か。すなわちサンマイショとは「葬場もしくは墓地」を意味しているものと思われる。

全国地図には、サイマイショ地名もサンマショ地名も記載されていない。

【コバシ】

県道飯島・飯田線と中央道の間で、サ

イマイシヨ小字の南西隣にある。

コバシとは何か。国語大辞典に依りながら二説を挙げる。

①コバシ（小橋）で「小さい橋」をいうことから、コバシというのは「井水に小さな橋が架かっているところ」をいうのであろうか。

②コバシ（扱箸）で「稲をこいて実を落とす用具。鉄の歯を並べ植えたもの」をいう。長野・岐阜・三河・静岡の方言である。以上から、コバシとは「扱箸を製作しているところ」をいうのかもしれない。

全国地図にはコバシ地名が中・大字として、11カ所挙げられており、そのすべてに「小橋」の字が宛てられている。

【木戸口】

キドグチ。

黒田のアカサカ小字とコバシ小字に挟まれている。近くには薬師寺がある。

キドグチは砦や家の出入り口だという（国語大辞典）。少し離れているが、コジロ（小城）小字があるので、ここに砦があったのかもしれない。とすれば、キドグチとは「砦の出入り口で柵があったところ」であらうか。

全国地図には、キドグチ地名は4カ所に中・大字として挙げられており、全てに「木戸口」の字が宛てられている。

【林ノ腰】

ハヤシノコシ。

コバシ小字とシュクザイケ・サカイガイト小字に挟まれている。

ハヤシノコシとは「樹木の生い茂ったところの近く」をいうのであろうか。シュクザイケ小字かサカイガイトであったのであろうか。

全国地図にはハヤシノコシ地名は載っていない。

【井ノ下】

イノシタ。

この小字は、ハヤシノコシ小字の南隣にある。

イノシタとは「井水の下側にある土地」をいうのであろう。北側のハヤシノキ小字との間には、今でも井水が流れている。

イノシタ地名も、全国地図にはなぜか記載が無い。

【マエ】

この小字はミカソ小字と小さなダイミョウジン小字の南側にある。

マエとは「寺社か豪族の屋敷の前のところ」を指すのであろう。

全国地図には、マエ地名は16カ所に中・大字として挙げられており、うち15カ所で「前」の字が用いられている。

【土城垣外】

ドジョウガイト。

マエ小字とカジヤ小字の間にある。

ドジョウガイトとは何をいうのであろうか。二説を挙げたい。

①ドジョウガイトとは「土塁のある有力者の屋敷跡」か。いかな有力者でも土塁までは造らないのではないか、という疑問もある。

②ドジョウガイト←トジョウ（外城垣外）と濁音化した語か。すなわち、「本城の外にある砦のあった所」であらうか。本城となっているのは、コジロ（小城）小字にあった城か。小城にこの外城があったであらうか、という思いもある。

全国地図には、ドジョウガイト地名は1カ所に中・大字として挙げられていて、宛てられている文字は「土城谷戸」。

【カンランジ】

カンノンジ。

光福寺のあるハタナカ小字の南隣にある。

カンノンジとは何か。二説を挙げておきたい。

①カンノンジ（観音寺）で、「観音堂のあった寺院」か。しかし、上郷史をみるかぎり、大きな観音寺にかかわるような記述はない。

②カンノンジ（観音地）で、「観音堂の所有地」を意味するのだろうか。

全国地図には、カンオンジ地名は10カ所に中・大字として挙げられ通り、うち9カ所には「観音寺」の字が宛てられている。

【畑中】

ハタナカ。

この小字を中央道が通っており、光福寺がある。

ハタナカとは字面の通り「周辺が畑の多い土地」であろう。

全国地図には中・大字として、ハタナカ地名は17カ所に挙げられており、うち16カ所には「畑中」の字が宛てられている。

【丸山・下丸山】

マルヤマ・シモマルヤマ。

これらの小字は中央道の北西側にあり近くには野底の谷がある。

マルヤマとは文字通り、「丘が半円形に張り出している土地」をいうのであろう。

シモマルヤマは、「マルヤマ小字の下方にあって、やはり半円形に張り出している丘のある所」であろうか。

丸山には山神を祀るなど、信仰の山であった可能性がある。すぐ北東隣にはシロヤマ小字があるが、それ以外には神聖な所であることを示すものはないと思われる。

マルヤマ小字は伊那谷南部にも多く、全国地図にも中・大字として352カ所が挙げられている。

【白山】

シロヤマ。

この小字は黒田の二ヶ所にある。一つ

は中央道の北西側に接し、南西側にはマルヤマ小字がある。もう一つは北部のヤクシマエ小字の西隣にある。

シロヤマとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①シロヤマはシロヤマ（城山）で、「中世、戦場が近づいたときに村人達が逃れ籠もった砦があった所」か。こうした中世の城についてはジョウヤマという呼び名の方が多。

②シロヤマ（白山）で「白山比咩神を祀るお宮があったところ」か。しかし、上郷史には記載が無い。

全国地図には、シロヤマ地名は223カ所に中・大字として挙げられており、うち5カ所に「白山」が、218カ所に「城山」の字が宛てられている。

【ヨウゾコ】

この小字は中央道とほぼ重なっており、シロヤマ・ハタナカ・ニシノミヤ小字に囲まれている。

ヨウゾコとは何か。難しい地名で全国地図にも記載がない。語源辞典に依りながら二説を。

①ヨウ←ヨコ（横）と長音化した語で、ゾコはソコ（底）で「窪地」をいう。ヨウゾコとは「横に長い窪地」か。等高線に沿った凹地を表現したものと判断したがどうであろうか。

②ヨウは副詞ヤウヨ（漸）から「緩傾斜地」をいい、ゾコは動詞ソコナフ（損）の語幹で「傷つけられた地形」を意味する。以上から、ヨウゾコとは「崩れた所がある緩傾斜地」をいうのであろうか。

【家ノ上・家ノキ】

イエノウエ・イエノキ。

いずれも黒田にある小字。

イエノウエ小字は原ノ城丘陵周辺の傾斜地にあり、フクオカ小字の南西隣にある小さな小字である。

イエノウエとは「有力者の屋敷の上の方にある土地」をいうのであろう。有力者の屋敷はフクオカ小字にあったと思われる。

イエノキ小字は中央道に沿っており、ニシノミヤ・アミダ・シロヤマなどの小字に囲まれている。

イエノキとは「有力者の屋敷の裏手にある土地」をいうのであろうか。この場合の有力者は寺社に関わっていたのであろうか。

【アレジ田】

アレジダ。

中央道の南東側、上黒田盾集落センターの近くにある。

アレジダはアレチ(荒地)・ダ(処)で、アレチは「田畑や宅地にしないで、そのまま打ち捨ててある田畑」(国語大辞典)の意があり、ダは「場所」をいうのであろう。以上から、アレジダとは「なんらかの理由で打ち捨てられた田畑」をいうのであろうか。うちすてられている理由は災害と思われるがはっきりしない。

アレジダ地名は、全国地図には記載されていない。

【西ノ宮】

ニシノミヤ。

周辺には光福寺のあるハタナカ小字やシロヤマ・コジロ・アミダなどの小字がある。

ニシノミヤとは「(黒田諏訪神社の)西の方にあるお宮か仏堂」をいう。しかし、ここにどんな寺社があったのかあきらかではないが、隣のアミダ小字に係する仏堂ではないかと思われる。

全国地図には、ニシノミヤ地名は、中・大字として11カ所が挙げられている。

【アミダ】

上黒田の中央道南東側にあり、周辺にはニシノミヤ・コジロ・アレジダなどの

小字がある。

アミダとは何を意味しているのか。敢えて二説を挙げておきたい。

①アミダといえば、一般的には「阿彌陀堂のあった所」である。平安中期以降、各地に阿彌陀堂が造営され、念仏聖の活躍もあって浄土往生信仰や死霊供養に念仏興行が盛行し、浄土宗・真宗などの念仏諸宗派が日本仏教の主流を占めるに至ったという(仏教民俗辞典)。既存の寺院宗教とは異なった民俗宗教として広まったのであろうか。上郷史にも阿彌陀堂の影は見えない。

②敢えてもう一説を挙げておきたい。アミダはアミ・ダ(処)で、アミはアビの転で「浸食地形」を示すという(語源辞典)。であれば、アミダとは「浸食地形のあるところ」となる。

全国地図には、アミダ地名は3カ所に中・大字として記載があり、いずれも「阿彌陀」の字が宛てられている。

【小城】

コジロ。

上黒田にあり、ニシノミヤ・アミダ・ダイザ・バンバ・ハタナカなどの小字に囲まれている。

コジロとは「小さな砦」を意味する(国語大辞典)。原ノ城の外城としての砦があったのであろうか。

全国地図には、コジロ地名は3カ所に中・大字として記載があるが、うち1ヶ所に「小城」の字が使われている。

【タイザ】

この小字は黒田のコジロ小字とミカド小字の間にある。

タイザとは「寺社や貴人の屋敷とは別棟になっていて、芸能集団が芸能を奉納したり、居住していた場所」をいうのであろうか。あるいは水田などが付属しているタイザも伊那谷にはあったかもしれ

ない。

伊那谷南部の特徴的な地名である。全国的には、2カ所で中・大字となっているが、間人皇女（はしひとのひめみこ）に付会している。

【バンバ】

黒田の小字で、コジロ・タイザ・ミカド・カンノンジ・ハタナカなどの小字に囲まれている。

バンバとは何か。北の方にあるシロヤマに白山神社があれば、「白山社の参道」と解することもできるが、少し離れていることもあって、ここでは採り上げない。

バンバについては、語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①バンバ＝ババで「馬の調練場」をいうか。原ノ城か飯沼城に関わる調練場であろう。

②バンバ＝ハバで、単に「傾斜地」をいうのかもしれない。あるいは「崩れ地のある斜面」か。

全国地図には、バンバ地名は67カ所も中・大字として挙げられているが、宛てられている字は「馬場」が55カ所、「番場」が14カ所になっている。

【砂バ】

スナバ。

中央道と県道飯島・飯田線の間の中ほどにあり、アミダ・アレジダ・マチバリ・ミカド・タイザ・コジロの小字に囲まれている。

スナバとは「砂地の土地」をいう。少し離れた所にあるスナハラ（砂原）と同じ由来であろうか、それとも違いがあるのか迷う。伊那谷南部には何ヶ所かにスナバ小字とスナハラ小字がある。スナバには液状化現象を感じているが、証拠は全くないので採らない。

全国地図には、スナバ地名は14カ所に中・大字として挙げられており、その

全てに「砂場」の字が宛てられている。

【アナダ】

この小字は、アカサカ小字とクボタ小字に挟まれている。

アナダとは何を意味するのであろうか。二説を提示したい。

①アナはアナ（穴）で「穴状に入りこんだ地」（語源辞典）をいう。従って、アナダとは「窪地にある水田」あるいは「窪地になっている所」か。隣にクボタ小字が接していることは傍証になるか。

②アナダ←アナタと清音化した語で「神仏や阿弥陀如来」の意もある（国語大辞典）。中国地方や岩手の方言であるが、近くにアミダ小字や薬師堂があるので、可能性が無いとはいえない。

全国地図には、アナダ地名は8カ所に中・大字として記載があり、その全てが「穴田」の字になっている。

【赤坂】

アカサカ。

中央道が貫いており、ジュウオウドウ小字の南西隣にある。

アカサカは字面の通りで「赤土の緩傾斜地」をいうのであろう。

アカサカ地名も各地に多く、全国地図には135カ所が中・大字として記録されている。

【三通】

ミトオリ。

中央道に接しており、アカサカ小字の北東隣にある。

ミトオリとは何か。二説を挙げる。

①ミトオリとは「三枚の平坦地になっている緩傾斜地」であろうか。

②ミトオリ←ミトリ（見取）で「近世、一定の石高によるのではなく年毎の収穫を検見して年貢を定めた田畑」（語源辞典）か。この小字の三つの側面には現在でも水路がある。

全国地図にはミトオリ地名は無いが、ミトリ地名は3カ所に記載されている。

【ラント】

中央道の北西側にあり、ミトオリ・ヨコイ・シロヤマの小字に囲まれている。

ラントはラント（卵塔）で「墓地」をいう（国語大辞典）。

全国地図には、ラント地名は記載されていない。

【大門】

ダイモン。

ジュウオウドウ小字を挟んで中央道の北西側にある。

ダイモンは「寺などの総門」をいう（国語大辞典）。従って、ダイモンとは「寺の総門があるところ」を意味する。この場合の寺は薬師寺のこと。

全国地図にはダイモン地名は93カ所の中・大字として挙げられている。

【十王堂】

ジュウオウドウ。

薬師寺のある小字。中央殿南東側に接している。

ジュウオウドウとは「十王堂が祀られていた土地」をいう。

栃ヶ洞にあった時の円光寺の面影はないというが、天明八年(1788)に当地に移転して薬師堂となり、明治になって光福寺の境外仏堂になったという（上郷史）。

全国地図には、中・大字としてジュウオウドウ地名は6カ所に記載がある。

【カシ垣外】

カシガイト。

中央道が通っており、ゴホンギ小字の北側に接している。

カシガイトとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カシは動詞カシグ（傾）の語幹で「傾斜地」をいう。従って、カシガイトとは「傾斜地にある有力者の屋敷跡」をいう

か。

②カシ←カジ（鍛冶）と清音化した語か。すなわち、カジガイトとは「鍛冶職人の屋敷があったところ」かもしれない。

全国地図にはカシガイト地名は載っていない。

【梶畑】

カジバタ。

黒田のカシガイト小字の北隣にある。

カジバタとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①カジバタはカジ（鍛冶）・バタ（端）で、「鍛冶職人の居住地のあたりの土地」をいうか。南隣にカシガイト小字があり、これを鍛冶職人の居住地とすれば、辻褄は合う。

②カジ←カシと濁音化したもので、動詞カシグ（傾）の語幹から「傾斜地」をいう（語源辞典）。従って、カジバタとは「傾斜地にある畑」であろうか。

全国地図には、カジバタ地名は3カ所の中・大字として挙げられており、「梶畑」の字が2ヶ所、「鍛冶畑」の字が1カ所に宛てられている。

【出口】

デグチ。

黒田の北部に2ヶ所あり、栃ヶ洞川とそこからの井水が流れている。

デグチとは何か。語源辞典を参考にし二説を挙げたい。

①デグチはイデグチ（井出口）の下略型で「用水路の取り入れ口」をいう。すなわち、ここのデグチとは「用水路の取り入れ口のある所」を意味する。

②デグチは「(街道などの) 出口に当たる場所」のこと。したがって、デグチとは「道路への出口のあるところ」をいうのであろうか。

全国地図には、デグチ地名が46カ所の中・大字として挙げられており、その

全てが「出口」の字になっている。

【コアイダ】

黒田の北部にあり、ヤクシマエ・フルイダ・デグチ・ウエノハラの小字に囲まれている。

コアイダとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①コはコ（小）で単なる接尾語（語源辞典）で、アイダはアイダ（藍田）で「藍を植える田」（国語大辞典）をいう。以上から、コアイダとは「藍を植えた田んぼ」をいうのであろうか。藍を刈りとった後に稲を作り、年貢は上田より高かったという。飯沼で染物業が始まったのは江戸中期末の寛政年間で、郡下第一であったらしい（上郷史）。

②コアイダはコア・イ（井）・ダ（処）か。コア←コワとアとワが交替した語（国語学大辞典）で動詞コワス（壊）の語幹から「崩れ地」をいう（語源辞典）。以上から、コアイダとは「崩れ地があり川が流れている所」かもしれない。この小字の端を井水や栃ヶ洞川が流れている。

全国地図にはコアイダ地名は1カ所にあり、「小合田」の字となっている。

【壺畝町田】

イッセマチダ。

黒田北部で、コアイサ小字とウエノハラ小字の間にある小さな小字である。

イッセマチダとは「1畝の区画になっている水田があるところ」を意味するものと思われる。

【上ノ原】

ウエノハラ。

黒田北部のヒラハタ小字の上流側にある。

ウエノハラは「上の方にある平地」をいうか。基準になっているのは、ジュウオウドウ小字にある薬師寺か。あるいは東方にある黒田諏訪神社であらうか。

【平畑】

ヒラハタ。

黒田の中央道を挟んでゴホンギ小字の北西側にある。

ヒラハタとは「緩傾斜地にある畑地」であらうか。

全国地図にはヒラハタ地名は12カ所に中・大字として記載があり、うち11カ所に「平畑」の字が宛てられている。

【砂原】

スナハラ。

黒田のヒラハタ小字の北側にある。

スナハラとは「砂地の平坦地」か。平坦地か緩傾斜地かの判断は難しい。

【ヤクシマエ・薬師前】

ヤクシマエ。

これらの小字は上黒田の最北部の栃ヶ洞川右岸にある。

円光寺は栃ヶ洞にあったが信長の兵火に焼かれてヨコイに移ったのではないかという（上郷史）。この円光寺の本尊が薬師如来である。

従って、ヤクシマエは「栃ヶ洞にあった円光寺の前方の土地」をいうのであろう。

【ノギハ】

ノギワ。

ヤクシマエ小字の南西隣にある。

ノギワとは「野のはずれ」（国語大辞典）をいう。緩傾斜地である野からより勾配の大きな傾斜地に上る麓の部分をいうのであろう。

全国地図には、ノギワ地名は12カ所に中・大字として挙げられており、うち11カ所が「野際」の文字になっている。

【マトバ】

上黒田の八幡社の北側になり、下伊那園芸協同組合の建物もある。

マトバとは「弓を射る場所」（語源辞典）をいう。恐らくは、弓神事が行われたと

ころであろう。すぐ近くに八幡社がある。年頭に行われる神事で狩猟儀礼に根ざすとか神意をト占するものとかいわれているが、年頭に行われ、射手は世襲であったり氏子総代・頭人あるいは特別に選ばれた七歳の男児であったりするという（民俗大辞典）。

全国地図には、マトバ地名は58カ所の中・大字として記載されており、うち57カ所で「的場」の字が宛てられている。

【大林】

オオバヤシ。

黒田北部のハチマンバラ小字やシロヤマ小字に接している。

オオバヤシとは字面の通りで「樹木の生い茂っている広い土地」をいうのであろう。

全国地図にはオオバヤシ地名は46カ所の中・大字として挙げられている。

【切石】

キリイシ。

黒田の北部にあり、チワバタ・マセグチ・ミヤシタ・ヨコイなどの小字に囲まれている。

キリイシとは何か。二説を挙げる。

- ①キリイシとは「五輪の塔」をいう。五輪塔を近くの人達は切石様と呼んでいる。南隣にあるヨコイ小字には、かつてはここにあったという（上郷史）。しかし、キリイシが即五輪塔といえるのかどうか。
- ②キリイシとは「石切場があった所」ではないだろうか。キリイシは「用途に従って種々の形に切った石材」をいう（国語大辞典）。

全国地図には、キリイシ地名は中・大字として4カ所に挙げられている。

【山道】

ヤマミチ。

二ヶ所にある。一つは黒田の北部で、

キリイシ小字やダイモン小字に接している。もう一つは野底川上流にある。

ヤマミチは「山中の道」（広辞苑）である。野底川のヤマミチはこれであろう。

ヤマミチには「仏道修行のために山里の寺などにはいる道」の意もある（国語大辞典）。黒田北部のヤマミチには、こちらを採りたい。山里の寺というのは、かつて栃ヶ洞にあったという円光寺のことではないかと思われる。

全国地図には、ヤマミチ地名は、中・大字として5カ所に記載があり、そのすべてに「山道」の字が宛てられている。

【井戸端】

イドバタ。

黒田北部にある。

イドバタはイ（井）・ド（処）・バタ（端）で「井水の流れている傍」をいうのであろう。

全国地図には、1カ所にだけ中・大字として挙げられている。

【ヨコイ】

上黒田北部にあり、キリイシ小字やシロヤマ小字に接している。

ヨコイは「等高線に沿う方向に流れる井水」をいうのであろう。

ここでは三ツ井の本流が西から東へ流れているという（上郷史）。

全国地図にはヨコイ地名は11カ所の中・大字として記録があり、全てが「横井」に字となっている。

【松ノ木垣外】

マツノキガイト。

上黒田北部にあり、周囲にはハンバ・ヨコイ・シロヤマ・マルヤマなどの小字がある。

マツノキガイトとは、文字通りで「目立つような松の木があった屋敷」か。

全国地図には、マツノキガイト地名は記載が無い。

【カシマ垣外】

カシマガイト。

上黒田に二ヶ所あり、いずれも小さな小字である。ハンバ・マルヤマ・ミツイなどの小字に接している。

カシマガイトとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りつつ二説を示したい。①カシは動詞カシグ（傾）の語幹で「傾斜地」をいい、マ（間）は「場所」を示す。以上からカシマガイトとは「傾斜地にあった屋敷跡」か。

②マはヌマ（沼）の上略形とみることできる。すなわち、カシマガイトとは「湿地のある傾斜地にあった屋敷跡」の可能性もある。

全国地図にはカシマガイト地名は無い。

【山口】

ヤマグチ。

上黒田のハチマンバラ小字の南隣にある。

ヤマグチとは何か。広辞苑に依りながら二説を挙げる。

①ヤマグチとは文字通り「山への入口」をいうか。単に入口というだけではなく、その年の最初の山入りの日には神事が行われたところかもしれない。

②ヤマグチとは「鷹狩のために狩場に入るところ」か。狩場は山側に広がっている八幡原だったのであろう。飯田藩の狩場であったか。

全国地図には、ヤマグチ地名は233カ所にも中・大字として記録されている。

【チワ畑】

チワハタ。

上黒田の「八幡原」小字の南側にある小さな小字である。

チワハタとは何か。二説を挙げる。

①チワは中世末に円光寺住職であったチハン(知範)が転訛したものか(上郷史)。従って、チワハタというのは「知範が居

住していた御堂のあった畑」か。

②チワ←チバーツバ（端）と転訛したもので、「台地などの端」をいう。すなわち、チワハタとは「(八幡原の) 台地の縁にある畑」を意味するか。

全国地図にはチワハタ地名は無い。

【八幡原】

ハチマンバラ。

上黒田の乳用仔牛哺育センターのある小字である。

ハチマンバラとは「八幡神社が祀られているところ」をいう。『伊那郡神社佛閣記』にある八幡宮であろう。

全国地図にもハチマンバラ地名は中・大字として2ヶ所にあり、いずれも「八幡原」の字が宛てられている。

【マセグチ】

ハチマンバラ小字の南側に接している小さな小字である。

マセとは「放牧場の入口の横木」をいう。長野県や静岡県の方言だという（以上は国語大辞典）。従って、マセグチは「放牧場の出入口」をいうのであろう。馬の放牧場が八幡原にあったのであろうか。時代は鷹狩場以前の中世か。

前項地図には、マセグチ地名は6カ所に中・大字として挙げられている。

【井ノ口・大井口】

イノグチ・オオイグチ。

野底川に接しており、オオイグチ小字は野底川の屈曲点に、その下流側にイノグチ小字がある。

いずれも「(野底川からの) 井水の取り入れ口」を意味する。

大井は大井口から取り入れていた井水に名付けられたもので、江戸時代にはここから取り入れていたが、川底が削られて低くなったので、後に少し上流の芦沢口から取り入れるようになったという(上郷史)。

イノグチ地名は全国地図には3カ所に、オオイグチは1カ所が中・大字として記載されている。

【三ツ井】

ミツイ。

野底川左岸の氾濫原の上の段丘上にある。

野底川から取り入れた井水を北井・中井・南井の三本の井水に分けられている。

従って、ミツイとは「三つの井水に分流している場所」をいうのであろう。

【ハウゲ】

光福寺の南側で中央道が中を通っている。

ハウゲは飯田市付近の方言で「尾根の傾斜面の平地の端」であるという（方言大辞典）。

これを、ここ上黒田のハウゲについていえば「段丘崖に臨んだ平地の端」ということになりそうだ。

ハウゲ←ハケ（岨）と転訛した語と思われるがどうであろうか。ハウゲも伊那谷に特徴的な地名であると考えられる。

全国地図にはハウゲ地名は1カ所に中・大字として記録されているが、「法花」の字が宛てられている。

【砂田】

スナダ。

ハウゲ小字の南隣にある。

スナダは「砂地の田」（国語大辞典）であるというが、現在は住宅地と畑地になっている。

スナダとは「砂地の土地」であろう。

全国地図には、スナダ地名は中・大字として16カ所に記録されており、その全てに「砂田」の字が宛てられている。

【スミカマ】

黒田の緩傾斜地にあり、スナダ小字の南東側に接しており、現在は殆どが果樹園になっている。

スミカマとは何を意味するのか。分りにくい小字名である。二説を挙げておきたい。

①スミカマは文字通り「木を焼いて炭に製する竈。」（広辞苑）か。広辞苑には「多く山中に設け・・・」と続けている。中央道の近くとはいえ、人家の多いここで、果たして炭焼きが行われたのかどうかという疑問はあるが、小字名発生時には人家はまだ少なかったのではないかと思い、ここに挙げた。

②スミはス（砂）・ミ（辺）で「砂地」をいい、カマには「墓」の意もある（以上は語源辞典）。従って、スミカマとは「砂地で墓地のある所」か。この小字の南北両端に接して墓地がある。

全国地図にはスミカマ地名は載っていない。

【ヒエ田】

ヒエタ。

野底川の近くで、中央道と県道飯島・飯田線の間にある。

ヒエタとは何か。二説を挙げる。

①ヒエタはヒエタ（稗田）で「田稗を栽培した田んぼ」をいうのであろう。田稗は寒冷に強いので、水の冷たい田んぼで栽培した。あるいは水の取り入れ口に田稗を植えていたかもしれない。

②ヒエタはヒエタ（冷田）で「水温の低い水田」をいうのかもしれない。

全国地図には、ヒエタ地名は1カ所にしかないが、ヒエダ地名は34カ所にあり、うち26カ所に「稗田」が、3カ所に「冷田」の字が、それぞれ宛てられている。

【番匠田】

バンジョウダ。

この小字はヒエタ小字の上流側にある。バンジョウ（番匠）は、中世、大工職人をいう。

バンジョウダとは「大工職人が所有し、免租されていた田んぼ」をいう。

バンジョウダ地名は全国地図には無い。

【川原・川原田】

カワラ・カワラダ。

これらの小字は野底川の左右氾濫原にある。

カワラは「川沿いの平地」であり、カワラダは当然のことながら「川沿いの平地にある水田」をいう。

【町べり】

マチベリ。

野底川の氾濫原に近い平地にあり、現在は果樹園になっている。

マチは「田の区画」で、ベリ＝ヘリで「あたり」をいうのであろう。

すなわち、マチベリとは「水田の付近の土地」をいう。

全国地図にはマチベリ地名は載っていない。

【下ノソコ】

シタノソコ。

中央道の真下、野底川右岸にある。

シタノソコとは文字通りで「ノソコ小字の下流の方にある土地」をいう。

全国地図にはシタノソコ地名は載っていない。

【ナギノシリ】

野底川の氾濫原に2ヶ所ある。

ナギノシリはナギ（薙）・ノ（助詞）・シリ（尻）で、「崩壊地の末端部」を意味する。

全国地図にはナギノシリ地名は載っていない。伊那谷南部にはかなりあるので、伊那谷南部の特徴的な小字に数えることができるのかもしれない。

【ヒカゲ林】

野底川右岸の最下段の傾斜地に広がる長い小字である。北東向きの斜面になっている。

ヒカゲバヤシとは「日当たりのよくない、樹木の生い茂っているところ」をいうのであろう。

全国地図には、ヒカゲバヤシ地名は1カ所にだけ中・大字として記録されている。

【ノソコ・ノソコ原】

ノソコハラ。

いずれも野底川上流部の氾濫原にある。

ノソコとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ノソ←ノセと転じたもので、ノセとは下伊那郡では「傾斜地」をいい、コは接尾語で「場所」を示す。以上から、ノソコとは「傾斜地になっているところ」をいう。

②ノ←ヌの転訛した語でヌマ（沼）のこと、ソコはソコ（底）で「谷」をいう。すなわち、ノソコとは「湿地の谷になっているところ」であらうか。

ノソコハラとは「ノソコ小字付近の緩傾斜地」をいうか。

全国地図には、ノソコ地名は4カ所に中・大字として記載があり、いずれも「野底」になっている。

【城屋垣外】

ジョウヤガイト。

野底川右岸の氾濫原の一つ上の段丘にある。

ジョウヤガイトとは何を意味しているのか。国語大辞典似寄りながら、二説を挙げたい。

①ジョウヤはジオヤ（地親）が変化した語で「地主。土地の所有者」をいう。すなわち、ジョウヤガイトとは「地主の土地所有者の屋敷のあるところ」をいうか。

②ジョウヤはジョウヤ（壤野）で「作物栽培に適した土地」をいう。つまり、ジョウヤガイトとは「作物適地にある有力者の屋敷」かもしれない。

全国地図には、ジョウヤガイト地名は記載が無いが、ジョウヤ地名は2ヶ所ある。

【芦沢口】

アシザワグチ。

上黒田の北西部にあり、野底川の両岸に広がる小字。

アシザワグチとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①アシはアシ(悪)から「交通困難な所」をいう。つまり、アシザワとは「人の入りにくい険しい谷の入口」をいうか。

②アシはアシ(芦)で「芦の生えた湿地」で、クチ(口)は「川の合流点」をいう。すなわち、アシザワとは「芦の生えている谷川の合流点があるところ」か。ここで野底川に芦沢川が合流している。

全国地図には、アシザワ地名は無い。

【一ノセ】

イチノセ。

野底川上流部のもみじ橋付近にある。

イチノセとは何をいうのだろうか。イチには「一番目」の意があるが、ここでは当てはまらないと思われる。語源辞典などに依りながら二説を挙げる。

①イチ←イツ(巖)と転じた語で「けわしい地形」をいい、ノは助詞、セはセ(瀬)で「早瀬」のこと。以上から、イチノセとは「険しい谷を流れる早瀬がある所」か。

②ノセは「坂」のことから、イチノセとは「険しい坂道のある所」か。

全国地図にはイチノセ地名は多く、中・大字として91カ所にものぼる。

【一ノ沢】

イチノサワ。

野底川上流部のイチノセ小字の上流側に2ヶ所ある。

イチノサワとは何か。これも語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①イチ←イツ(巖)と転じたもので「険しい地形」をいう。従って、イチノサワとは「険しい山地の谷川が流れているところ」をいうか。

②イチ←イツ(稜威)と転訛した語で、イチノサワとは「神聖な土地で谷川があるところ」か。小字内には姫宮神社がある。

全国地図には、イチノサワ地名は、中・大字として44カ所が挙げられている。

【姫宮】

ヒメミヤ。

野底川上流部の姫宮のお宮がある小字。

ヒメミヤとは、文字通りで「姫宮のお宮のあるところ」をいう。

姫宮は八王子神社祭神の大山祇命の姫宮ではないかという(上郷史)。もともとは山神であったと思われるがどうであろうか。

ヒメミヤ地名は、全国地図には4カ所が中・大字として挙げられており、うち3カ所に「姫宮」の字が宛てられている。

【柝ヶ洞】

トチガホラ。

上黒田に2ヶ所ある。一つは柝ヶ洞川周辺の広い小字で、もう一つは野底川上流部にある小さな小字である。

トチガホラとは何か。語源辞典に依りながら、三説を挙げておきたい。

①トチはト(戸)・チ(場所)で、「谷の狭まったところにある洞」をいうか。

②トチはトヅ(閉)に関係し「山などがとり囲んだ所」をいう。つまり、トチガホラとは「一部が側稜に囲まれたようになっている洞のある土地」をいうのであるか。

③トチガホラとは、「トチノキが自生している洞」をいうか。トチノキは種子は食用に、材は工芸用に利用されたという。

全国地図にはトチガホラ地名は1カ所

にだけ中・大字として記載があり、「栃ヶ洞」の字になっている。

【不二塚】

フニヅカ。

上黒田北部のトチガホラ小字の北隣にある。

フジヅカは「富士信仰に関わるところ」としておきたい。富士塚が築かれているのか、あるいは近くの峰を富士山にみたてたのかははっきりしないが、富士講がここで行われていたものと思われる。

全国地図には、フジヅカ地名は11カ所にある。

【ブクメン】

黒田北部の栃ヶ洞川の沿岸にあり、南隣はヤクシマエ小字になっている。現在は住宅地と果樹園が多い。

ブクメンはブクメン（仏供免）であろう。すなわち、ブクメンとは「収穫物を寺院を維持する費用に宛てた田畑で免租になっている土地」を意味するのである。

全国地図には、ブクメン地名もブツクメン地名もない。伊那谷南部には、各地にあるので、当地の特徴的な小字なのかもしれない。

【フルイダ】

この小字は、黒田北部で栃ヶ洞川と井水に挟まれた土地になっている。

フルイダとは内を意味しているのか。これも語源辞典に依りながら二説。

①フル（古）・イ（井）・ダ（処）で「昔からの古い井水が流れている土地」を意味しているのであろう。ここを流れている井水が土曾川太郎井であれば、その通りの小字名ということになる。あるいは栃ヶ洞川を「古い井」としたかもしれない。

②フルは動詞フルフ（振）の語幹で「崩壊地形」を示す。すなわち、フルイダと

は「崩壊地で井水のある土地」をいうことも考えられる。

全国地図にはフルイダ地名は記載がない。

【大縄場向島】

オオナワバムコウジマ。

天竜川に土曾川が合流するところがあり、二つの川に接している。

オオナワバは「江戸時代、新田開発後正規の検地を受けて新田年貢を課されるようになるまでの期間、低率の見込年貢を徴される田畑」をいう（国語大辞典）。

従って、オオナワバムコウジマとは「かつては川の向こうの島であったが、新田になって低率の見込み年貢を課せられている土地」をいう。

【大水門・大水門口・大水門中・大水門内・外水門】

オオズイモン・オオズイオングチ・オオズイモンナカ・オオズイモンウチ・ゲスイモン。

これらの小字は飯沼北部の天竜川添いにある。

これらのズイモンは灌漑のための水門ではなくて、洪水に対応できる水門と思われる。

クチは「天竜川に近いところ」をいい、ゲは「外側」を意味するのである。オオズイモンやゲズイモンがあちこちにあるのは、天竜川に向かって新田開発が延びていくにつれて、オオズイモンやゲズイモンも次々に命名されていった経過を示しているのかもしれない。

【大縄場の内中島・大縄場中島】

オオナワバノウチナカジマ・オオナワバナカジマ。

この二つの小字の意味の違いは無いように思える。すなわち、「年貢が軽減されている新田にあって、島のように水路に囲まれている土地」をいうのであろう。

ただ二つを区別するために、一方には「ノウチ」を挿入したのではないだろうか。

【中島】

ナカジマ。

飯沼の東部と南部に数カ所ある。

ナカジマとは、いずれも「流水に囲まれたところ」か「小高いところ」を島に見立てて命名したと思われる。

【大水門道下・大水門通り道下】

オオズイモンミチシタ・オオズイモントオリミチシタ。

飯沼北部の天竜川氾濫原にある。

いずれも同じ意味で、「ダイズイモン小字の通路の下流側にある土地」を意味するのであろう。

【下川原】

シモカワラ。

飯沼の新戸川が天竜川に合流するところにある。

シモカワラとは「下流側にある川原」をいう。

全国地図には、シモカワラ地名は33カ所に中・大字として挙げられており、うち23カ所に「下川原」、10カ所に「下河原」の字がそれぞれ宛てられている。

【藪上・藪下】

ヤブウエ・ヤブシタ。

飯沼の最北部の土曾川右岸にある。

ヤブウエとは「雑草・雑木などが密生している所の上の土地」であるが、「藪神が鎮座している所」の意も含んでいる可能性がある。手を入れると祟られるこのがあると伝えられているヤブであらうか。

従って、ヤブシタとは「雑草・雑木が生い茂っている所の下土地」となる。

全国地図には、ヤブウエ地名もヤブシタ地名も記載が無い。伊那谷南部の特徴的な小字であらうか。

【土曾川】

ドソガワ。

土曾川右岸に三カ所ある。

ドソガワとは何か。語源辞典に依りながら三説を挙げたい。

①ドソ←ノソ←ノセと転訛したもので、ソ⇄ソの交替はよくみられるという。ノセは「緩傾斜地」。従って、ドソガワとは「緩傾斜地を流れる川」か。

②ドソ←ノソ←ノゾと転じた語。ノゾは動詞ノゾク（除）の語幹で「浸食地形」をいう。すなわち、ドソガワとは「浸食の激しい川」であらうか。

③ド←ドウと転訛した語で川音をいう。ソはセ（瀬）を意味し「急流」をいう。以上から、ドソガワとは「川音が激しい川」を意味するか。

【溝口】

ミゾグチ。

土曾川右岸にある。

ミゾは「人工の水路」をいう（語源辞典）。従って、ミゾグチとは「井水の取り入れ口のあるところ」をいうか。

全国地図には、ミゾグチ地名は中・大字として17カ所に挙げられている。

【高見・高見下】

タカミ・タカミシタ。

天竜川を望む段丘の先端部にある。

タカミは「高い所」（広辞苑）をいうが、それだけではなく、「監視所」の役割があったと思われる。

従って、タカミとは「監視所のあった高いところ」を意味するものと思われる。

タカミシタは「タカミの下の方にある土地」をいうのであろう。

全国地図には、タカミ地名は20カ所に中・大字として記録されており、しび全てに「高見」の字が宛てられている。

【晝場】

ヒルイバと字地名大鑑にはあるが、ヒルバかもしれない。

飯沼北部の土曾川の近くにある。

ヒルイバはヒルイ（疲羸）・バ（場）で「つかれ弱ること」（国語大辞典）から、「低湿地になっているところ」を意味するものと思われる。

ヒルのヒルにも「低湿地」の意があり（語源辞典）、ヒルバとは「低湿地になっているところ」を解することができる。

全国地図にはヒルイバ地名もヒルバ地名も載っていない。

【涿田】

フチダ。

飯沼北部のヒルイバ小字の東隣にあり、現在は畑地になっている。

フチダはフチ（縁）・ダ（処）で、「川べりの土地」か「氾濫原の縁、すなわち低位段丘の上の麓の土地」をいうのであろう。

全国地図には、フチダ（涿田）地名は1カ所にある。

【東】

ヒガシ。

飯沼北部のフチタ小字の南隣にある。

ヒガシとは「東側の土地」を意味する。基準になっているのは、西隣にあるテンノウ小字のことであろう。

全国地図には、中・大字に挙げられているヒガシ地名は196カ所と遠く、その全てが「東」になっている。

【新麦田】

シンムギタ。

飯沼北部の低位段丘面にある。

シン（新）は「新開墾地」（語源辞典）をいい、ムギタ（麦田）は「米麦の二毛作の行われる田」（国語大辞典）をいう。

以上から、シンムギタとは「米麦の二毛作の行われる新田」か。天竜川氾濫原より少し高いところがあり、天竜河畔の開墾が進んで二毛作田もつくられるようになったのであろうか。

全国地図にはシンムギタ地名は記載が

無い。

【荒仕知】

アラシチ。

飯沼北部の低位段丘面にあり、現在は殆どが水田になっている。

アラシチはアラ（新）・シチで、シチはシズ（清水）の転じた語か（以上は語源辞典）。従って、アラシチちは「新墾地で清水が湧き出ている土地」をいうか。

ここも天竜川の治水事業によって新たに生まれた耕地であったのだろうか。

全国地図には、アラシチ地名は載っていない。

【正永寺】

ショウエイジ。

飯沼北部の氾濫原より一段上の低位段丘の先端部にある。

ショウエイジ（正永寺）とは何か。ここに寺院があったとは考えにくい。飯田町の江戸町に正永寺がある。下黒田の大念寺と南條の雲彩寺が江戸町正永寺の末社であったという（伊那郡神社佛閣記）。

従って、ショウエイジとは「正永寺の所有地があった土地」をいうのかもしれない。寺田など寺院の免租地である。

【三反田・四反田・五反田・八反田】

サントンダ・シタンダ・ゴタンダ・ハッタンダ。

いずれも、飯沼の北部地区にある。

これらは小字発生時の面積を表しているものと思われる。ダはダ(田)かダ(処)であろう。

全国地図には、サントンダ地名は7カ所に、シタンダ地名は6カ所に、ゴタンダ地名は65カ所に、ハッタンダ地名は24カ所に、それぞれ中・大字として挙げられている。

【安地分】

ヤスチブン。

天竜川氾濫原の一つ上の低位段丘面二

二カ所ある。

ヤスチブンとは何か。分かりにくい地名である。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ヤス←ヤチ (菴) の転じた語で「湿地」のこと、チブン←ツブ (潰) が転訛した語で「崩れ地」をいう。以上から、ヤスチブンとは「崩れ地のある湿地」か。

②ヤスはヤス (安) で「平坦地」をいい、チブン=チモン (地文) で「大地の有様」(国語大辞典)を表す。すなわち、ヤスチブンとは「平坦になっている土地」を意味するのかもしれない。

全国地図には、ヤスチブン地名は載っていない。

【松ノ木田】

マツノキダ。

天竜川氾濫原の一つ上の低位段丘にあり、南端は新戸川に接している。

マツノキダとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①マツノキダとは文字通りで「アカマツが自生している所 (田んぼ)」をいうか。

②マツノキダ←マチ (町)・ノ (助詞)・キダ (階段) で「段丘上の区分された水田のある所」であろうか。マチ (町) は「区分された水田」を意味する。

全国地図には、マツノキダ地名は3カ所の中・大字として挙げられている。

【ソバ田】

ソバタ。

飯沼北部の天竜川氾濫原のより一つ上の段丘面にあり、二つのミチゾイ小字に挟まれている。

ソバタとは何か。二説を挙げる。

①ソバには「わき。脇道」の意がある。つまり、ソバタとは「脇道が通っている所 (水田)」であろうか。この小字に接してほぼ南北に通る道路がある。

②ソバ←サ (砂)・バ (場) と転じたもの

で、「砂礫地」あるいは「砂礫地にある田んぼ」をいうのかもしれない。

全国地図には、ソバタ地名は1カ所の中・大字として挙げられている。

【道添】

ミチゾイ。

飯沼の低位段丘面に二ヶ所ある。いずれも東西の道路に接している。

ミチゾイとは字面の通りで、「道路に接して沿っている土地」であろう。

全国地図には、ミチドイ地名は無いが、ミチゾエ地名は5カ所に記載がある。

【ワリダシ・ワリサシ田】

ワリサシダ。

これらの小字は飯沼北部の低位段丘面にあり、シバザキ小字に囲まれている。

ワリダシ (割出) は「土地などの境を決め区画をつけること。また、その区画」

(国語大辞典)をいう。近世の割地制度のことか。村請村落で社会的・自然的条件によって発生する村内農民間の損益を均分にし、貢租の賦課を公正公平にあうために割地をしたという(国史大辞典)。

おそらくは、災害常襲地を所有していた者の負担を軽くするために、新たに村落共同体から与えられた土地をワリダシとはワリダシダとか呼んでいたのであろう。

全国地図にはワリダシダ地名は無いが、ワリダシ地名は3カ所に挙げられている。

【芝崎】

シバザキ。

飯沼北部に二ヶ所、ひとつは天竜川氾濫原が低位段丘に食い込んでいる谷に接している所、もう一つは国道153号線沿いにある。

シバザキとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①シバは動詞シボル (萎) の転じたもので「扇状地の扇頂」をいい、ザキ (崎) は「先端。末端」の意。以上から、シバ

ザキとは「段丘の先端部で小さな谷の奥に接している土地」をいうか。

②シバはシ(石)・バ(場)で、シバザキとは「小石まじりの段丘先端部」かもしれない。

全国地図には、シバザキ地名は6カ所に中・大字として挙げられている。

【十王堂】

ジュウオウドウ。

飯沼北部の低位段丘面にある。

十王堂は「冥土にいるという十人の王をまつる堂」(国語大辞典)である。

従って、ジュウオウドウとは「十王堂があった土地」を意味する。

十王堂は、中に閻魔や十王・奪衣婆を配した堂が墓地や村境・寺の入口に建っていることが多く、地蔵とともに境にまつる仏とされている(民俗大辞典)。

飯沼のこの地に十王堂があったと思われるが、確証はない。

全国地図には、ジョウオウドウ地名は6カ所に中・大字として記載がある。

【常真田】

ジョウシンダ。

飯沼の低位段丘面の新戸川左岸にある。

ジョウシンダとは何か。よくわからないが、ジョウシンは固有名詞だろうか。であれば、「ジョウシンの所有田」となる。あるいは固有名詞でも僧侶の名前かもしれない。そうなると、免租地となっている可能性がある。

全国地図には、ジョウシンダ地名は記載が無い。

【長橋】

ナガハシ。

小さな小字で、飯沼の新戸川に添って二ヶ所にある。丹保南端付近である。

ナガハシとは「長い橋のたもとにある土地」をいうのであろう。新戸川に架けられた橋である。

全国地図には、ナガハシ地名は12カ所に中・大字として記載があり、うち「長橋」の字が11カ所に宛てられている。

【町割】

マチワリ。

飯沼のミチゾイ小字に接して、二ヶ所ある。

マチワリ(町割)は「町の地割。町を設けるために土地を仕切ること」(広辞苑)をいう。従って、マチワリとは「町割が行われた土地」ということになる。

しかし、飯沼のこの地で、実際にどのような町割が行われたのかは、分からない。

全国地図には、ワチワリ地名はなぜか、一件の記載も無い。

【田中・下田中】

タナカ・シモタナカ。

タナカ小字は国道153号線沿いに二ヶ所あり、その東の方に少し離れてシモタナカ小字がある。

タナカとは、文字通り「周辺に田んぼがあるところ」をいい、シモタナカは「タナカの下流側の土地」をいうのであろう。

全国地図には、タナカ地名は339カ所、シモタナカ地名は6カ所がそれぞれ中・大字として記載されている。

【天王・天王前】

テンノウ・テンノウマエ。

これらの小字は飯沼で、天竜川氾濫原の一つ上の低位段丘面に、それぞれ二ヶ所ずつある。

テンノウとは「天王信仰に因む牛頭天王をいい、祇園社と関係する」をいう(語源辞典)。天王信仰は、近世に入ると疫病除けと五穀豊穰祈願に御利益があるとされて広まった。

従って、ここのテンノウは「牛頭天王を祀った場所か祇園社(津島神社)のあった所」であらう。しかしこれを裏付け

るものについては未確認。

テンノウマエは「牛頭天王が祀られている場所の前の方」をいうのであろう。

全国地図には、テンノウ地名は49カ所、テンノウマエ地名が8カ所、それぞれ中・大字として挙げられている。

【越前】

コシマエ。

飯沼の低位段丘面のテンノウマエ小字とジュウオウドウ小字の間にある。

コシマエとは何か。二説を挙げる。

①段丘面の緩傾斜地の中腹部を人体の腰に見立てて、コシマエとは「緩傾斜地の中腹部の土地」をいうか。

②コシはコシ（古祠）で「年を経た古いほこら」（国語大辞典）をいう。従って、コアシマエとは「古い祠があった場所の前方の土地」をいのかもしれない。コシはテンノウ小字にあったとすることもできそうだ。

全国地図には、コシマエ地名は3カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「越前」の字が宛てられている。

【中村】

ナカムラ。

飯沼の低位段丘面上にあり、南側にテンノウ小字が隣接し、現在も殆どが居住地になっている。

ナカムラとは「（飯沼の）中心的な集落のあるところ」を意味するか。

どこにでもある地名で、全国地図にも中・大字として635カ所に記載がある。

【又木田・マタギ田】

マタキダ。

飯沼の低位段丘面に二ヶ所ある。

マタキダとは何か。二説を挙げる。

①マタギ（又木）は三叉路の道路か分岐する流水を又木に見立てた語で、ダ（処）で「場所」を示すか。すなわち、マタキダとは「道路か流水の分岐点のあるところ」か。

ろ」か。

②キダはキダ（階段）で「段丘」をいい、マタ＝マタギ（又木）を意味する。従って、マタキダとは「道路か流水の分岐点がある段丘」かもしれない。

伊那谷南部にはマタキダ小字はあちこちにあるが、全国地図には、マタキダ地名もマタギダ地名も載っていない。

【前田・前畑】

マエダ・マエバタ。

上郷のどこにでもある小字で、とにかく数が多い。全国地図には、マエダ地名は139カ所、マエバタ地名は2カ所に、マエハタ地名は17カ所にある。

マエダとは「前の方にある田んぼ」をいい、マエダとは「前の方にある畑」をいうのであろう。基準になっているのは、寺社か有力者の屋敷が多い。

【中方】

ナカガタ。

飯沼の低位段丘面に二ヶ所ある。

ナカガタとは、「中心地付近の土地」を意味するものと思われる。北東側にはナカムラ小字がある。

全国地図には、ナカガタ地名が3カ所に中・大字として挙げられている。

【棚田】

タナダ。

飯沼の低位段丘面の先端部分に三カ所ほどある。

タナダは「急な傾斜地を耕して階段状に作った田」（広辞苑）をいう。

ここ飯沼のタナダは「緩傾斜地に作った階段状の田んぼのあるところ」であろうか。

【中方前田】

ナカガタマエダ。

ナカガタ小字の北側に接している。

ナカガタマエダとは「ナカガタ小字の前方にある土地」をいうのであろうか。

【粳田】

モミタ。

飯沼の国道 153 号線の東側の酸化三カ所にある。

モミタとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①モミ←マミ←ママと転じた語で「土手」をいう。すなわち、モミタとは「土手のある田んぼ」を意味するか。

②モミには「共同」の意がある。モミタとは「部落の共有田」であろうか。部落共同の費用に宛てたのかもしれない。

全国地図には、モミタ地名は記録が無い。

【一丁田】

イッチョウダ。

飯沼の低位段丘面にある。

イッチョウダとは「面積が一町歩近くある水田地帯」であろうか。この小字発生時にはそれくらいの面積があったのであろう。

全国地図には、イッチョウダ地名は中・大字として 16 カ所に挙げられており、うち 11 カ所には「一丁田」の字が宛てられている。

【勝田・かち田】

カチダ。

「勝田」小字は飯沼の低位段丘面にあり栗沢川に接しており、「かち田」小字は南条の低位段丘面上の新戸川（栗沢川下流）に接して二ヶ所にある。

カチダとは何か。語源辞典によりながら三説を挙げたい。

①カチ←カッチ←カハ（川）・ウチ（内）で「川谷」をいう。すなわち、カチダとは「川辺にある土地」をいうか。

②カチは動詞カツ（搗）の連用形の名詞化した語で「叩き落とす」の意から「崩れ地」をいう。従って、カチダとは「崩れ地のあるところ」であろうか。

③カチ←カヂ（鍛冶）の清音化した語で、カチダとは「鍛冶職人がいたところ」である可能性も否定できない。

全国地図には、カチダ地名は中・大字として、1カ所にある。

【太刀打・刀打】

タチウチ・カタノウチ。

飯沼の中心地近くに、カタノウチ小字を囲むようにして、タチウチ小字が四カ所にある。

タチウチとは「太刀を鍛え作る職人の作業場のあった所」をいうのであろう。タチ（太刀）とは「人などを断ち切るのに用いる細長い刃物」（広辞苑）で、ウチは動詞ウツ（打）の連用形で「金属を鍛えて、刀剣などを作る」（国語大辞典）ことをいう。

カタナ（刀）は「太刀の小さいもの」（広辞苑）をいい、「刀を鍛え打つ職人の作業場のあった所」をいうか。

この一帯には、金属を鍛え打つ鍛冶職人達が住んでいたと思われる。

全国地図には、タチウチ地名は 1カ所にあるが、カタノウチ地名は載っていない。

【南澤】

ミナミザワ。

この小字は、ナカガタ小字に二面で接しており、また井水も二面に流れている。

ミナミザワとは何か。二説を挙げる。

①ミナミザワとは、字面の通りで「南の方にある流水のある所」をいうか。南となっている、その基準は北方にある安楽寺か。

②ミナミはミ（水）・ナ（助詞）・ミ（廻。接尾語）で、「流水が曲流しているところ」かもしれない。

全国地図には、ミナミサワ地名は 28 カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「南沢」の字が宛てられてい

る。

【北浦】

キタウラ。

飯沼の中部と北部に三カ所ある。

キタウラとは何か。ウラには「水際」の意がある（語源辞典）。中部のキタウラは「(テンノウ小字の) 北方にある井水の傍の地」をいい、北部のキタウラは「(飯沼の) 北部にある井水の傍の地」をいうのであろうか。

全国地図には、キタウラ地名は中・大字として49カ所に記載されており、うち44カ所には「北浦」の字が宛てられている。

【四角】

シカク。

飯沼の低位段丘面にあり、テンノウ小字群に囲まれている。

シカクとは「四隅に角(かど)のある形」(広辞苑)をいう。従って、シカクとは「四角形で四隅にかどのある土地」をいうのであろう。

シカクには「寺院」の意もあるが、盗人仲間の隠語であるという(国語大辞典)ので、魅力のある解釈であるがここでは採り上げないことにした。

全国地図には1カ所にシカク地名があり、「四角」の字が与えられている。

【七草田】

ナナクサダ。

この小字は飯沼に二ヶ所ある。一つは上郷東保育所に、もう一つはその西方にある。

ナナクサダとは何か。二説を挙げたい。

①ナナクサダを字面の通りに解すれば、「七草が自生しているところ」をいうのであろう。七草は春の七草や秋の七草があるが、ここではナズナかセリを指しているものと思われる。

②ナナ←ナナメ(斜)の省略形で、クサ

は動詞クサル(腐)の語幹で「湿地」をいう。すなわち、ナナクサダとは「緩傾斜地にある湿地」を指しているのかもしれない(語源辞典)。

【松葉田】

マツバダ。

飯沼の二つのナナクダサ小字の間にある。

マツバダとは何を意味するのであろうか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①マツバダはマツ(松)・ハ(端)・ダ(処)で、「周辺に松が自生しているところ」であらうか。

②マツ←マチ(町)と転じた語で、バダはバ(場)・ダ(田)をいう。つまり、マツバダは「区画された田んぼのある所」を意味するのかもしれない。

全国地図にはマツバダ地名は記載が無い。伊那谷の特徴的な小字か。

【矢劔】

ヤツルギ。

飯沼の丹保研修センターがある場所。新戸川が中を曲流している。

ヤツルギとは何か。分かりにくい地名である。

ヤツルギはヤ(菴)・ツル(鶴)・ギ(処)で、ヤは「湿地」を、ツルは「曲流する水路のある低地」をいう(以上は語源辞典)。

従って、ヤツルギは「曲流する水路のある湿地」をいうか。

全国地図には、ヤツルギ地名は1カ所記載があるが、宛てられている字は「八劔」。

【屋作田】

ヤサクダ。字地名大鑑にはヤヅサクダとある。

飯沼のヤツルギ小字とアンラクジ小字に挟まれている。

ヤサクダとは何を意味しているのか。

語源辞典に依って三説を挙げる。

①ヤはヤツ(菴)の略で「湿地」をいい、サクダ(作田)は「耕作している田」を意味するか。以上から、ヤサクダとは「湿地にある耕作田」であろうか。

②サクは形容詞サクシ(脆)の語幹で「土壌などの崩れやすく脆い状態」をいう。従って、ヤサクダとは「周辺の土手が崩れやすい湿地で田んぼになっている所」か。

③ヤサクは固有名詞かもしれない。とすれば、ヤサクダとは「屋作の所有田」となる。

全国地図には、ヤサクダ地名もヤズサクダ地名も記載されていない。

【モチ田】

モチダ。

飯沼の国道153号線に沿う小さな小字である。

モチダとは何か。これも語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①モチダは「宮持田」の上略で「お宮に所属し、その収穫で神供をととのえるための水田」を意味するか。そのお宮がどこなのかははっきりしない。少し離れているが、南の方にある田中八幡宮であろうか。

②モチダはモチ(餅)・タ(処)で、「鏡餅形の小盆地」であったかもしれない。

全国地図にはモチダ地名は23カ所に中・大字として挙げられており、そのうちの16カ所に「持田」が、5カ所に「餅田」に字が宛てられている。

【中垣外】

ナカガイト。

安楽寺の北側に1カ所あり、新戸川に沿った細長い小字になっている。さらに栗沢川左岸にも3カ所、小さな小字がある。

ナカガイトとは、「地域の中心となるよ

うな有力者の屋敷があったところ」を意味するのであろう。

ナカガイト地名は全国地図にも12カ所に中・大字として記載があり、カイト地名としては多い。

【安楽寺】

アンラクジ。

飯沼の丹保研修センターがある。この中に阿弥陀如来が安置されており安楽寺と呼ばれているという(上郷史)。

【ヒエ田・ヒエ田】

ヒエダ・ヒエタ。

ヒエダ小字は新戸川の沿岸にあり、アンラクジ小字やシミズダ小字に接している。ヒエタ小字は飯沼の栗沢川沿岸にある。

ヒエダ(タ)とは「田稗を栽培していた田んぼ」であろうか。

田稗は水温の低い水田で栽培することが多い。小字発生時には、近くに流れている新戸川は低い所を流れているのでその水を利用することができずに、自然の湧水に頼っていたのであろうか。

【橋都・橋爪】

ハシヅメ。

これらの小字は新戸川の右岸にあり、丹保橋にも接している。

ハシヅメとは「橋のたもと」をいう。新戸川に架かっていた橋である。

【清水・清水坂・清水田・清水尻・清水上・清水下・雇清水・清水路・南清水】

シミズ・シミズザカ・シミズダ・シミズジリ・シミズウエ・シミズシタ・ヤトイシミズ・シミズミチ・ミナミシミズ。

シミズ小字群である。これらの小字は飯沼地区に広がっているが、特に多いのは県道市場・桜町線の沿線である。シミズ小字群の発生時には街道になっていたところである。旅人もまた、これらの清水で喉を潤したのであろう。

シミズは「自然の湧水のある所」を意味する。

以下、それぞれの小字の意味を考えてみたい。

シミズザカは「清水の出ている坂道」。

シミズダは「清水を利用している田」。

シミズジリは「清水が湧いている土地の末端部」。

シミズウエは「湧水地より高いところ」あるいは「湧水地のほitori」。

シミズシタは「湧水地の下方の土地」。

ヤトイシミズは分かりにくいので、語源辞典などに依って二説。①ヤト（水路）・イ（井）・シミズ（清水）で「水が流れている水路のある湧水地」か、②ヤト（家の戸口のあたり）・イ（井）・シミズで「住宅の戸口あたりに湧き出ている清水」をいうか。

シミズミチは「道路に沿ったところに湧き出ている清水」。

ミナミシミズは「シミズ小字群の南部にある湧水地」か。

【秋成】

アキナリ。

飯沼の新戸川左岸にあり、丹保橋に近い。現在は水田と畑地になっている。

アキナリとは何を意味しているのか。二説を挙げる。

①アキナリは「江戸時代、秋季に納める田の年貢」をいう（国語大辞典）。夏に納めたのは畑の年貢であったという。従って、アキナリとは、「秋に年貢を納めることになっていた田畑」をいうのであろうか。早魃に弱い畑であったのだろうか。隣にはヒヤケ小字がある。

②あるいは逆に、アキナリとは「湿地になっていた所」かもしれない。アキはアクタ（芥）の点で「湿地」をいい、ナリは「～になった所」の意（以上は語源辞典）。

全国地図には、アキナリ地名は、中・大字として3カ所に記載があり、そのいずれにも「秋成」の文字が宛てられている。

【ヒヤケ】

この小字は飯沼のアキナリ小字を挟んで二ヶ所にある。現在は居住地・畑・墓地になっている。

ヒヤケは「ひでりのために、池・田・川などの水がかれること。また、草木などが枯れること」をいう（国語大辞典）。

従って、ヒヤケとは「ひでりの時に、草木などが枯れやすい土地」を意味しているものと思われる。

全国地図には、ヒヤケ地名は2カ所に中・大字として挙げられている。

【ハンバ】

この小字は、飯沼のヒヤケ小字の北隣にあり、中を井水が流れている。

ハンバはハバの転じた語（国語大辞典）で、「崩れ地のある傾斜地」をいうのであろうか。

【井ノ尻】

イノジリ。

飯沼のヒヤケ小字とジュウオウドウ小字の間にある。

イノジリとは「井水の末端部」をいう。土曾川から引いた井水のことであろうか。

【家ノ軒】

イエノノキ。

飯沼北部の低位段丘の先端部にある。

ノキは伊那郡や水窪の方言であり「家の裏手の土地」をいう（語源辞典）。従って、イエノノキとは「屋敷の裏手にある土地」をいうのであろう。

【ブタイ】

この小字には丹保農村公園がある。

ブタイとは何か。二説を挙げておきたい。

①ブタイには「小台地状の地形」の意が

ある(語源辞典)。従って、ブタイとは「小さいが台地になっている所」をいうか。
②ブタイ(舞台)で、寺社で猿樂・田樂や舞踊が演じられた場所と考えられないこともない。すなわち、ブタイとは「芸能が演じられた所」をいうのであろうか。

全国地図には、ブタイ地名は12カ所に中・大字として記載があり、うち8カ所には「舞台」が宛てられている。

【屋敷畑】

ヤシキバタ。

飯沼には三カ所ほどある小さな小字である。

ヤシキバタとは「かつて屋敷があった畑」をいうのであろう。

全国地図にはヤシキバタ地名は無いが、ヤシキハタ地名は1カ所だけある。

【屋敷・屋敷前】

ヤシキ・ヤシキマエ。

ヤシキマエ小字は一カ所、ヤシキ小字は栗沢川左岸に三カ所ある。また、これらの小字は三カ所のナカガイト小字に混じっている。

ヤシキは「屋敷があった所」であり、ヤシキマエは「屋敷があった所の前方の土地」をいうが、この付近一帯は集落であったと思われる。三カ所のナカガイト(中垣外)小字が混在しているのも集落であったことを裏付ける。

全国地図には、ヤシキ地名は73カ所に中・大字として挙げられており、うち72カ所が「屋敷」の字になっている。

【堂垣外】

ドウガイト。

飯沼の座光寺境、土曾川右岸にある。大きな小字と小さい小字が一カ所ずつある。

ドウガイトといえば、一般的には「僧堂のあった所」をいうが、ここではこの由来の成立は難しいか。経蔵寺の開山で

ある日泉聖人は「飯沼村郷士吉川氏(堂垣外)」と上郷史にはあるが、ここに寺院の堂宇があったという記録はない。

では、ドウガイトとは何を意味するのか。

ドウは川音による音響地名であるという(語源辞典)。土曾川に接している小字だから、十分に考えられる。つまり、ドウガイトとは「(土曾川の)川音が響く屋敷のあったところ」を意味するものと思われる。その屋敷は飯沼村郷士の吉川氏の屋敷であったかもしれない。

全国地図にはドウガイト地名が2カ所に中・大字として記録されている。

【金法寺】

キンボウジ。上郷史には「全法寺」と「法全寺」があるが、ここでは『下伊那地名調査』によって「金法寺」としておく。

飯沼の安楽寺の東側にある小字。

金法寺は安楽寺の前身で、金法寺が寛保四年(1744)ころ阿弥陀寺となり、さらに明治になって安楽寺になったという(上郷史)。

【マネゾイ・マネソイ】

マネゾイ小字は土曾川右岸に二ヶ所、マノソイ小字は県道市場・桜町線に二ヶ所ある。いずれも井水が複数流れている。

マネゾ(ソ)イとは何を意味するのか。分りにくい小字であるが、二説を挙げる。

- ①マは単なる接頭語でネは「地上に立っている」意(国語大辞典)であらうか。従って、マネゾイとは「井水に沿って囲まれている土地」としておきたい。流水に囲まれた島のように見立てているのか。
- ②ネ←ヌ(沼)と転じた語で「湿地」をいう(語源辞典)。つまり、マネゾイとは「湿地に沿った土地」をいうのであらうか。

伊那谷南部には何ヶ所かあるが、全国地図には記載は無い。

【ヒヤ田・冷田】

ヒヤダ・ヒエタ。

ヒヤダは飯沼の低位段丘のミゾグチ小字に廻りに二ヶ所あり、ヒヤタ小字は飯沼の県道市場・桜町線の西方にある。

解説は41頁の「ヒエ田・ヒエ田」と同じ。

【神ノ木】

カミノキ。

この小字は飯沼北部のヒヤダ小字とキノポウジ小字の間にある。

カミノキとは何か。三説を挙げる。

①カミノキはカミノキ（紙木）で紙の原料となる楮の異名(国語大辞典)。従って、カミノキとは「楮を栽培していた土地」をいうか。

②カミノキとはカミ（神）・ノキ（軒）で「尊い場所の裏手の土地」かもしれない。この小字発生時は神仏習合の時代であり、寺院をカミと表現したこともあったかもしれない。南側は金法寺境内になる。

③カミノキとは字面の通りで「神の降臨する樹」も考えられないこともない。

全国地図にはカミノキ地名は9カ所に中・大字として記載がある。

【蓮池・蓮田】

ハスイケ・ハスダ。

飯沼の安楽寺（金法寺）付近にある。

二つの小字の位置からみると、いずれも「蓮が植えてあるところ」をいみするものと思われる。安楽寺の放生池であるという（上郷史）。放生とは、仏教で慈悲の行いとされているもので、捕らえた生物をはなちがらすことであるという（広辞苑）。

全国地図には、ハスイケ地名は20カ所、ハスダ地名は2カ所に中・大字として記載されている。

【下り】

クダリ。

飯沼の安楽寺（金法寺）付近にある。

クダリとは「流水のあるところ」（広辞苑）をいうのであろうか。近くには新戸川があり、そこに合流する支流（井水）に接している。

全国地図には、クダリ地名は7カ所に中・大字として挙げられており、うち4カ所に「下り」の字が宛てられている。

【釜ノ口】

カマノクチ。

飯沼を流れる新戸川に沿って三カ所にある。

カマは「川の深くなっている淵」をいう（国語大辞典）。従って、カマノクチとは「川が深くなる場所の上流の所」を意味するものと思われる。

全国地図には、カマノクチ地名は、中・大字として3カ所が記録されている。

【拂免】

ハライメン。

飯沼の新戸川に沿った左岸で安楽寺（金法寺）境内と思われる場所にある。

ハライメンとは「免租地で、収穫物は寺社の諸行事や建物の維持などに宛てられていた耕地」であろうか。

ハライにはミソギの意味もあり、新戸川で禊が行われていたのかもしれない。ミソギは神事の過程の一つであるが、神仏習合の時代に発生した地名であろうか。

全国地図には、ハライメン地名の記載がないが、あるいは伊那谷の特徴的な地名の一つなのであろうか。

【久保田】

クボタ。

飯沼だけでも何ヶ所かある小字である。

クボタとは「窪地で田んぼがあるところ」をいうのであろう。

全国地図にも中・大字として挙げられ

ているクボタ地名は81カ所と多い。

【ケダシ】

飯沼のハスイケ・カミノキ・イノウエなどの小字に囲まれている。

ケダシ（蹴出）は女性が腰巻の上に重ねて着るものであるというが、これだけでは地名にはなりにくい。

ケダシとは「屋敷から本道へ出るまでの私道」（国語大辞典）をいう。新潟や下水内郡の方言であることが気になるが、これより他に考えようがない。

全国地図にはケダシ地名は無い。

【井ノ上】

イノウエ。

飯沼の安楽寺北方にある。

この場合のウエは「ほとり」の意（広辞苑）。従って、イノウエとは字面の通りで「井水のほとりにある土地」をいう。

全国地図には、イノウエ地名は56カ所に中・大字として記載されている。

【金ノ面】

カネノメン。

飯沼北部に二ヶ所ある。

カネ（金）は鉄や鉄製品で、カネ（鐘）は梵鐘のこと。メンはメンデン（免田）か。では、カネノメンとは何を意味するのであるか。二説を挙げる。

①カネノメンとは「鉄製品に関わる職人の所有田があった所」であろうか。免田である。

②カネノメンとは「釜や梵鐘などを製作する職人の所有田があった所」かもしれない。鋳物師である。

全国地図には、カネノメン地名は載っていない。

【西岡】

ニシオカ。

飯沼北部に三カ所あり、いずれもカネノメン小字の北東側、つまり土曾川寄りにある。

ニシオカとは何か。二説を挙げる。

①ニシオカとは文字通りで「西の方にある丘」をいうか。基準は土曾川であろう。土曾川から見て西の方にある丘をいうのであろう。

②ニシは動詞ニジム（滲）の語幹ニジが清音化した語で「湿地」をいう（語源辞典）。「湿地になっている丘」か。自然の湧水もあったと思われる。

全国地図には、ニシオカ地名は17カ所に中・大字として挙げられており、うち15カ所には「西岡」の字が宛てられている。

【川原田】

カワラダ。

飯沼の土曾川の近くにある。

31頁にあるので省く。

【隅田】

スミダ。

飯沼北部の土曾川沿岸の右岸にある。

スミは「囲まれた区域のすみっこ」をいう（国語大辞典）。

従って、スミダとはスミ（隅）・ダ（処）で、「飯沼地区の）すみっこの土地」をいうのであろう。

全国地図にはスミダ地名は5カ所に中・大字として挙げられている。

【長塚】

ナガツカ。

飯沼の北部にある。

ナガツカとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①ツカは「開墾地で耕作に邪魔になる石を寄せて積み上げたところ」をいうのであろうか。その石が田畑の畦などに、積み込まれている状態を指しているのであろう。以上から、ナガツカとは「拾い出された石積みのある所」であろうか。

②ナガは動詞ナガル（流）の語幹で「傾斜地」をいう。従って、ナガツカとは「田

畑の周りに石積みのある傾斜地」をいうか。

全国地図には、ナガツカ地名は中・大字として12カ所にあり、うち10カ所は「長塚」になっている。

【大橋】

オオハシ。

この小字は飯沼の最北部にあり、県道市場・桜町線が土曾川を渡るところにある。

オオハシちは、「大きな橋の架かっているところ」をいう。対岸に座光寺側にもオオハシ小字がある。

全国地図には、オオハシ地名は53カ所に中・大字として挙げられ、うち51カ所に「大橋」の字が宛てられている。

【木ノ元・樹ノ本】

キノモト。

これらの小字は飯沼の北部で県道市場・桜町線の東側沿線にある。

キノモトとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①キはタキ(高)、ツキ(築)の上略で「高所」をいい、モトはモト(下)で「麓」を意味する。以上から、キノモトとは「段丘の麓の土地」をいうか。

②キはキ(城。柵)で「砦」のこと。従って、キノモトとは「砦の麓」をいうのかもしれない。上の段丘端にはキタジョウ(北城)小字がある。

全国地図にはキノモト地名は8カ所に中・大字として挙げられている。因みに、近江の木之本町は牛馬市で、熊野の木本は木材の集散地となっている。

【二反所】

ニタンジョ。

飯沼北部の土曾川に近くであり、国道153号線沿いで西側はキノモト小字に接している。

ニタンジョとは何を意味するのか。語

源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ニタンは面積で、ジョ(所)は「中世以降に発生した漢語地名の語尾として使われた」という。以上から、ニタンジョとは「二反歩の広さの土地」をいうか。

②ニタン←ニ(沼)・タ(処)と撥音便化した語で「湿地」のこと。つまり、ニタンジョとは「湿地になっているところ」か。

全国地図にはニタンジョ地名は記録が無い。

【スナダ】

飯沼北部で、ニタンジョ小字とドソガワ小字に挟まれている。現在は住宅地と水田になっている。

スナダとは「砂地の田」(国語大辞典)であろう。

全国地図には、スナダ地名は中・大字として16カ所に採られている。

【高松】

タカマツ。

飯沼北部にあり、国道153号線に沿う。

タカマツとは何をいうのであろうか。語源辞典に依りながら三説を挙げる。

①タカマツとは字面の通りで「高い松の木があったところ」をいうか。

②タカ←タガフ(違)と転じた語で「食い違った地形」をいい、マツはマチ(町)の転訛したもので「田の区画」のこと。以上から、タカマツとは「低い段差のある水田地」かもしれない。

③タカは「田地」のこと。つまり、タカマツとは「アカマツが自生している田地になっているところ」である可能性もある。

【マノ下】

ママシタ。

飯沼北部のキノモト小字の下方にあり、南西側の縁を井水が流れている。

ママシタとは何か。国語大辞典に依り

ながら二説を挙げる。

①ママは土手の崩れたところをいう。すなわち、ママシタとは「崩れた土手の下の方の土地」か。

②ママには「水辺の窪地」の意もある。つまり、ママシタとは「流水のある窪地」もあるかもしれない。井水が通るようになってからの小字名か。

全国地図にはママシタ地名は1カ所に中・大字として挙げられており、「壙下」の字が宛てられている。

【治郎兵エ田】

ジロウベエダ。

飯沼の北部にあり、国道153号線が貫いている。

ジロウベエダとは、字面の通りで「治郎兵衛の所有田」であろう。

【漆田】

ウルシダ。

飯沼北部のキノモト小字の南隣にある。

ウルシダとは何か。語源辞典に依りつつ二説を挙げる。

①ウルシダはウルシ(漆)・ダ(処)で「漆を採集していたところ」か。自生していたのか、それとも栽培していたのかは分からない。

②ウルシはウル(潤)・シ(接尾語)で「湿地」をいう。従って、ウルシダとは「水田があった湿地」かもしれない。

全国地図には、ウルシダ地名は3カ所に中・大字として挙げられていて、うち2カ所は「漆田」の字が宛てられている。

【山伏塚】

ヤマブシヅカ。

飯沼北部の国道153号線が新戸川を渡るところにある。

ヤマブシヅカとは「昔、山伏を埋めたとか、山伏が生きながらはいつて死んだとかいう伝説をもち、崇りがあるなどといわれる塚」をいう(国語大辞典)。ここ

に山伏伝説が残っているのかどうかは未確認。

もともと山伏の霊魂は一般人それよりも強力であると考えられていたのだけに、運悪く御霊となったときには、強い崇りを発現させるとみられたのであろう。塚を築いてまつことで御霊を鎮め、かえって現世利益をもたらす神に転じようとしたところから、山伏塚の伝説が広く流布することになったのであろう(民俗大辞典)という。

しかし、なぜか全国地図には、ヤマブシヅカ地名は記載がない。

【京傳】

キョウデン。

飯沼北部の国道153号線と県道市場・桜町線の間にある。南隣にはビクニダ小字がある。

キョウデンはキョウデン(経田)で「寺院に寄進された田」(語源辞典)であろう。免租田と思われる。寄進された寺は近くにある北条薬師か。

全国地図には、キョウデン地名は14カ所に中・大字として記録されている。

【ビクニ田】

ビクニダ。

飯沼北部の国道153号線と県道市場・桜町線を結ぶ道路沿いにある。キョウデン小字の南隣になる。

ビクニ(比丘尼)は「出家して具足戒を受けた女子。尼僧」(広辞苑)である。従って、ビクニダとは「尼僧のいる寺院の所有田で免租地になっている田んぼ」を意味するものと思われる。

この小字に近い北条薬師には飯田町専照寺から宗光尼が入って住職となっている。天保年間のはじめ頃だという(以上は上郷史)。

ビクニダ地名も、全国地図には記載が無い。

【北田】

キタダ。

飯沼の北部に三ヶ所あり、国道と県道
の間に位置している。

キタダとは字面の通りで、「(飯沼の)
北部にある田んぼ」をいうのであろう。

全国地図には、キタダ地名は29カ所
にあり、いずれも「北田」の字が宛てら
れている。

【割掛ケ】

ワリガケ。

飯沼の北部、国道153号線の東側、新
戸川の北側にある。

ワリガケは「分割、配分すること」(国
語大辞典)をいう。従って、ここのワリ
ガケとは「分割、配分された土地」をい
うのであろう。しかし、分割配分の内容
はわからない。共同の入会地であったと
ころを個人ごとに分割したときに、その
収穫物を共同の費用に宛てるために残し
た土地であったのかもしれない。

全国地図には、ワリガケ地名は記録さ
れていない。

【池田】

イケダ。

飯沼の北部に大小二つの小字がある。
大きい方のイケダ小字は中を国道153号
線が通り、新戸川が流れている。

イケダはイケ(池)・ダ(処)で「流水
のあるところ」をいう(語源辞典)。小さ
いイケダ小字については水路がはっきり
しないが、かつては大きな方と繋がって
いたのであろうか。

全国地図には、イケダ地名は96カ所
が中・大字として挙げられている。

【木綿田】

モメンダ。

この小字は飯沼の国道153号線の沿線
に二カ所あり、センショウジ小字やヤツ
ルギ小字に混じっている。

モメンダはモメン(木綿)・ダ(処)で
「木綿に関わる土地」であろうか。綿が
栽培されていた畑なのか、綿打が行われ
ていたところなのか。それとも木綿を扱
う振り商(行商人)が住んでいたところ
なのか。はっきりとはしていない。

明治のはじめ頃、農閑期になると上郷
からは美濃・尾張に綿打の出稼ぎに出て
いたという(上郷史)。寛永年間(1624
~1643)には美濃・尾張は綿の産地とし
て挙げられており、1713年(正徳年間)
の記録には三河・尾張が木綿の産地とし
て知られるようになっている(日本職人
辞典・民俗大辞典)。

全国地図には、モメンダ地名は載って
いない。

【竹ノ越】

タケノコシ。

飯沼の新戸川に沿った左岸にある。

タケは「高所」をいい(語源辞典)、コ
シは「人体の腰の部分」に見立てた「中
段の段丘」をいうのであろうか。

従って、タケノコシとは「(飯沼の)中
段の段丘面にある土地」か。飯沼の頭の
部分になる上段は県道市場・桜町線の西
側になるが、その段丘とは20m近い高
低差がある。

全国地図には、タケノコシ地名は2カ
所に中・大字として挙げられている。

【専照寺】

センショウジ。

飯沼の安楽寺(金法寺)西方の国道153
号線の西側沿線に二ヶ所ある。

センショウジとは「かつて専照寺があ
ったところ」を意味する。

伊那郡神社佛閣記によれば、専照寺は
かつては飯沼村にあったが、慶長八年
(1603)に中興明岸禅師が飯田町の伝馬
町に移して再興したという。

【シャクシ田】

シャクシダ。

この小字は飯沼のセンショウジ小字に隣接している。

シャクシダとは何か。二説を挙げる。

①シャクシダはシャクシ(杓子)・ダ(田または処)で、「杓子のような地形のところ(田)」を意味するか。杓子には「頭の部分が平たいものと窪みをもったものと二種類がある」(民俗大辞典)というが、このどちらかに地形が似ていたのであろうか。

②シャクシダはシャクシ(社久司)・ダ(田または処)かもしれない。すなわち、シャクシダとは「シャクジを祀っていたところ」である。シャクジ系の社祠・神座は長野・愛知・静岡・山梨・三重・岐阜の各県に分布し、その呼び名もサクジ・オシャモジ・シャクチ・サクチ・サグチ・サクジン・オサクジン・オシャグチ・ミシャグチ・オミシャグチ・サゴジンなど多様である(民俗大辞典)。

全国地図には、シャクシダ地名は無い。伊那谷の特徴的な地名であろう。

【穴田】

アナダ。

飯沼のセンショウジ小字の北隣にある。

アナダとは字面の通りで「凹地にある田んぼ」か「凹地になっている所」を意味するものと思われる。完全な窪地でなくても、三方向が高ければ窪地とみていたのであろう。

全国地図には、アナダ地名は8カ所に記載があり、いずれも「穴田」の字が宛てられている。

【三通り田】

ミトオリダ。

飯沼の国道153号線と県道市場・桜町線の間であり、ハサイダ小字とキタダ小字に挟まれている。

ミトオリサ←ミトリダ(見取田)と転

訛した語であろうか。すなわち、ミトオリダとは「災害常襲地などで収穫が安定していなので、毎年、検見して租税を決めた田んぼ」を意味するか。

「近世、一定の石高によるのではなく、年毎の収穫を検見して年貢を定めた田畑」をミトリ(見取)といていた(語源辞典)。

全国地図には、ミトオリダ地名は記載されていない。

【ハサイ田】

ハサイダ。

国道153号線と県道市場・桜町線とそれらを繋ぐ道路の三つの道路に囲まれている。

ハサイダはハサ(挟)・イ(井)・ダ(処)か。すなわち「二本の流水に挟まれた土地」をいうのであろうか。二本の流水とは、新戸川と井水を指すものと思われる。

全国地図には、ハサイダ地名は記録されていない。

【一ツ田】

ヒトツダ。

この小字は国道153号線と新戸川に沿っている。

ヒトツダとは何か。二説を挙げたい。

①ヒトツダとは、文字通りで「一枚の田んぼになっているところ」であろうか。

②ヒト←シトで動詞シトル(湿)の語幹で「湿地」のこと、ツは助詞で、ヒトツダとは「田んぼになっている湿地」をいうのかもしれない。

全国地図には、ヒトツダ地名は、1カ所にだけ中・大字として挙がられている。

【正永田】

ショウエイダ。

国道153号線・県道市場桜町線・国道と県道の連絡道の三本の道路に囲まれている。

ショウエイダとは「正永寺の寺田」を

意味するか。正永寺が上郷にあったことはないが、大念寺と雲彩寺は正永寺の末寺になっていたことがある（伊那郡神社佛閣記）。

【街道下・道下】

カイドウシタ・ミチシタ。

カイドウシタは三カ所、ミチシタ小字は七カ所ほどあるが、いずれも県道市場・桜町線や竜西線の南東側にある。

街道は「主要道路」で、道は「一般道」であるが、ここでは同じ意味で用いられている。

カイドウシタもミチシタも、「道路の下側の土地」をいうようだ。

全国地図には、中・大字としてカイドウシタ地名は3カ所しか記載がないが、ミチシタ地名は21カ所にのぼる。この違いは何によるのであろうか。

【薬師・薬師前・薬師下】

ヤクシ・ヤクシマエ・ヤクシシタ。

ヤクシ小字は二ヶ所にあるが、他は一カ所ずつ、いずれも県道市場・桜町線沿いか道路の西方にある。

いずれも北条薬師に関わる小字である。かつて、この薬師堂は県道沿いのヤクシ小字の南西方にあったが、寛文二年(1662)に現在地に再興された（上郷史）。

もう一カ所のヤクシ小字が北条薬師とどう関わっていたのか、はっきりしない。鶏足院があったといわれるインゲボラ小字の方が少し近いが、鶏足院に薬師如来が祀られていた形跡はないように思われる。

【四反田坪】

ヨンタンダツボ。

飯沼のヨンタンダ・ショウエイダ・ハサイダなどの小字に囲まれている。

ヨンタンダツボとは「4反歩ほどの周辺よりやや低くなった田んぼ」をいうのであろうか。全体が窪地になっているわ

けではなく、二面が少し高くなっているもこうした表現になるのであろうか。

【家ノ下・家ノ上・家ノ南・家ノ軒・家ノ裏（浦）・家ノ前】

イエノシタ・イエノウエ・イエノミナミ・イエノノキ・イエノウラ・イエノマエ。

このイエ小字群は県道市場・桜町線の沿線にあり、北条観音堂の南方になる。

イエノノキは「家の裏手の土地」をいうが、あとは字面の通りの意味であろう。

このイエ（家）は「古居家」小字にあった屋敷と思われるがどうであらうか。

【ヒバリ田】

ヒバリダ。

飯沼の旧ジャスコ飯田店裏にある。

ヒバリダとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げておきたい。

①ヒバリダはヒバ（日場）・リ（場所）・ダ（田）か。すなわち、ヒバリダとは「日当たりのいい田んぼ」をいうか。

②ヒバリダはヒ（樋）・ハリダ（墾田）か。つまり、ヒバリダとは「水路がある開墾した田のあるところ」かもしれない。

全国地図にはヒバリダ地名は載っていない。

【押出シ】

オシダシ。

飯沼の県道市場・桜町線に沿って、大小二つの小字がある。

オシダシとは「土石流によって押し出された砂礫が堆積したところ」をいうのであろう。砂礫は急傾斜地から緩傾斜地に変わるところへ堆積し易い。

全国地図には、オシダシ地名は中・大字として7カ所が挙げられており、いずれも「押出」の字が宛てられている。

【サブ田】

サブタ。

福祉企業センター飯沼分場がある。

サブタとは何か。語源辞典に依りながら、対照的な二説を挙げる。

①サブタとは「泥田のあるところ」のことか。中国地方の方言であるという。

②サブタ←サビタと転じた語で、イ段からウ段への変化はかなり多いという（国語学大辞典）。サビタは「乾田になっているところ」か。愛知県の方言であるという。

全国地図にはサブタ地名は2カ所に中・大字として記録があるが、宛てられている文字は「寒田」と「寒風田」となっている。

【一ツ橋】

ヒトツバシ。

飯沼にあり、センショウジ小字に接している。

ヒトツバシとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①ヒトツバシは「一本だけ丸木などを渡した橋」であるという（国語大辞典）。従って、ヒトツバシとは「丸木橋がかかっている所」か。井水に簡単な一本橋が架けられていたのであろうか。

②ヒトツ←シトと転訛した語で「湿地」をいい、ハシはキザハシ（階）のハシで「段丘」のこと。以上から、ヒトツバシとは「段丘上で湿地になっていたところ」をいうのであろうか。

全国地図には、ヒトツバシ地名は6カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「一ツ橋」の文字が宛てられている。

【御蔵前】

オクラマエ。

飯沼公会堂の東側にある、小さな小字である。

オクラとは「江戸時代、米穀を貯蔵した倉庫」をいう。領主の所有する倉庫で家臣に支給したり、飢饉に備えたもので

あったと思われる。

以上から、オクラマエとは「米穀を貯蔵していた倉庫の前方の土地」をいうのであろう。

全国地図には、オクラマエ地名は1カ所にだけ中・大字として挙げられている。

【ヨシイ田】

ヨシイダ。

飯沼の県道市場・桜町線の東側にある。

ヨシイダはヨシ(葦)・イ(井)・ダ(田)で、「井水が流れ田んぼのある湿地」か。葦がはえているような所とは湿地を意味するのであろう。

全国地図には、ヨシイダ地名は記載されていない。

【市場】

イチバ。

飯沼の県道市場・桜町線と国道153号線の間であり、その県道と国道を繋ぐ道路に面している。

イチバとは「定期的に市が開かれる場所」をいう（国語大辞典）。

古くから市が開かれる場所は河原や中洲・山野・坂などであったというが、この飯沼のイチバはどうだったのだろうか。新戸川でも流れていたのであろうか。

全国地図には、イチバ地名は中・大字として164カ所も挙げられている。

【甚作田】

ジンサクダ。

飯沼のイチバ小字の接している、小さな小字である。

ジンサクは固有名詞か。従ってジンサクダとは「甚作の所有田」か、あるいは「甚作が耕作している田」をいうのであろう。

【通りボタ】

トオリボタ。

飯沼の国道153号線と県道市場・桜町線の間であり、イチバ小字と「受法田」

小字に挟まれている。

トオリは「通路」(広辞苑)で、ボタは「田畑の畦」(国語大辞典)で下伊那郡や北設楽郡の方言になっている。

以上から、トオリボタとは「通路になっている田畑の畦があるところ」をいうのであろう。

全国地図には、トオリボタ地名は記録されていない。

【受法田】

長野県字地名大鑑にはウケホウダとあるが、ジュホウデンの可能性もある。

ウケホウダであれば、何を意味しているのか。二説を挙げる。

①ウケ←ウキ(泥)と転じたもので「湿地」をいい、ホウダはホウダ(方田)で「縦横の長さを等分に区切られた田」のこと(以上は語源辞典)。以上から、ウケホウダとは「縦横等分に区切られた田んぼのある湿地」となる。しかし、現在では等分に区切られた形跡はみえない。

②ホウダ←ボタ(畦)と転じたのかもしれない。フケホウダとは「畦が目立つ湿地」であろうか。トオリボタ小字に隣接している。

ジュホウデンであれば由来は何か。ジュホウ(受法)とは「弟子が師から仏法を相承すること」(広辞苑)をいう。従って、ジュホウデンとは「収穫物を仏法相承などの仏事を行うための諸費用にあてる田んぼ」のことかもしれない。一種の寺田か。

全国地図にはウケホウダ地名もジュホウデン地名も載っていない。

【鯉作・鯉田】

コイサク・コイダ。

飯沼の国道153号線と県道市場・桜町線の間にある。

まずコイサクとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げておきたい。

①コイは動詞コユ(肥)の連用形コエの転じた語で「地味の肥えた状態」をいい、サク(作)は「耕作地」をいう。以上から、コイサクとは「地味の肥えた耕作地」を意味するか。

②コイはコ(接頭語)・ヒ(樋)で「水路」をいう。つまり、コイサクとは「水路にある耕作地」をいうのであろうか。

従って、コイダは①「肥沃な田んぼ」か、②「水路のある田んぼ」の意となるだろうか。

全国地図には、コイサク地名は無いが、コイダ地名は2ヶ所に記載があり、いずれも「小井田」の字が宛てられている。

【ウナギ田】

ウナギダ。

飯沼のコイダ小字やコイサク小字に隣接する。

ウナギダとは文字通り「ウナギがいたことのある水田」か。深田や泥田であったと思われる。

全国地図には、ウナギダ地名は1カ所だけであるが、中・大字に挙げられている。

【源光】

ゲンコウ。

飯沼の国道153号線に接しており、南側に接する道路は西の方の飯沼諏訪神社に向かっている。

ゲンコウとは何を意味するのか。これも分かりにくい地名である。国語大辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ゲンコウ(還向)は「社寺に参拝して帰ること」をいう。従って、小字のゲンコウは「お宮へお参りする道のあるところ」をいうのであろうか。

②ゲンコウ(験効)は「神仏の力によって功德を授かること」の意がある。ゲンコウとは「御利益がある土地」をいうか。しかし、御利益があるという詳細は不明

であることが気になる。

全国地図には、1カ所にだけゲンコウ地名が中・大字に挙げられており、「源光」の字が宛てられている。

【源田】

ゲンダ。

飯沼の国道153号線の東方にあり、ゲンコウ小字に近い。

ゲンダとは何か。これもよく分からない地名である。国語大辞典に依りながら、敢えて二説を挙げておきたい。

①ゲンダはゲン(玄)・ダ(田)で、「土の色が黒い田んぼ」をいうか。有機質の多い田んぼであろうか。

②ゲンダ=ゲンダで「山から切り出したヒノキの丸太」をいう。したがって、ここ飯沼のゲンダは「山から切り出した木材の集積場があったところ」かもしれない。

全国地図には、ゲンダ地名は9カ所に中・大字として挙げられていて、うち4カ所に「源田」、4カ所に「元田」の字が宛てられている。

【船越田】

フナコシダ。

飯沼のゲンダ小字の東隣にある。

フナコシダとは何を意味するのか。これも分かりにくい地名である。

フナコシには「船型にくぼんだ山の鞍部」(語源辞典)の意がある。従って、フナコシダとは「船型に窪んだところがある田んぼ」をいうのであろうか。

フナコシダ地名は全国地図には載っていない。

【笛吹田】

フェフキダ。

飯沼の国道153号線より東方の新戸川が曲流しているところにある。

フェフキダとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①フェは動詞フユ(増)の連用形が名詞化した語で「(水や堆積土砂などの)増加するところ」(語源辞典)の意で、フキはフケ(沮)が転じた語で「湿地」をいう。以上から、フェフキダとは「湿地で土砂の堆積しやすい所」をいうのであろうか。

②フキはフイゴ(鞴)の意もあり、「鍛冶屋」をいうのかもしれない。フイゴの音を笛の音としたのであろうか。フェフキダとは「笛のように鞴を鳴らしている鍛冶屋のあるところ」と解することもできそうだ。周辺には、タチウチ小字やカタナウチ小字がある。

全国地図には、フェフキダ地名は載っていない。

【カラス田】

カラスダ。

飯沼の新戸川沿岸に二ヶ所あり、フェフキダ小字に隣接している。

カラスはカラ(涸)・ス(州)で「水の乏しい砂地」の意(語源辞典)、ダはダ(処)。従って、カラスダとは「水はけのいい砂地」をいうのであろう。小字発生時には、栗沢川の自然堤防があったところであろうか。

カラスダ地名は全国地図には無い。

【馬場田】

ババタ。

飯沼にあり、国道153号線が中を通っている。

ババタとは何か。語源辞典に依りつつ二説を挙げる。

①ババタとはババ(馬場)・タ(処)で「馬の調練場があったところ」をいうのかもしれない。飯沼城関係の調練場であろうか。

②ババには「大道」の意もある。ババタとは「大道が通っていた所」か。

全国地図には、ババタ地名は3カ所が中・大字として挙げられていて、うち2

カ所は「馬場田」となっている。

【樋口・小樋口・北樋口・南樋口】

トヨグチ・コトヨグチ・キタトヨグチ・ミナミトヨグチ。

これらの小字は、飯沼の国道 153 号線と県道市場・桜町線の間で、新戸川沿岸にある。

トヨ←トイと転じた語で伊那谷南部の方言か。「水路」をいい、クチ(口)は「水の取り入れ口」をいう。以上から、トヨグチとは「水路から田んぼなどへ水を取り入れるところ」を意味している。

コトヨグチは「小さな水の取り入れ口」、キタトヨグチは「北側にある水の取り入れ口」、ミナミトヨグチは「南側にある水の取り入れ口」である。

全国地図には、トヨグチ地名は 2 カ所に中・大字として記録されており、トイグチ地名は 7 カ所にある。

【沢端】

サワバタ。

飯沼の新戸川右岸にあり、ゴエモンダ小字に囲まれている。

サワバタとは字面の通りで「水路の傍の土地」を意味する。サワとは新戸川をいうのであろう。

サワバタ地名は全国地図に 2 カ所が中・大字として挙げられている。

【五右エ門田】

ゴエモンダ。

飯沼の県道と国道の間の栗沢川沿岸の右岸にある。

ゴエモンダとは、「五右衛門の所有田があるところ」をいう。

【薬師田・ヤクシ田】

ヤクシダ。

これらの小字は飯沼の国道 153 号線と新戸川に隣接している。

ヤクシダとは「収穫物を薬師堂の維持管理と仏事のための費用に宛てる田んぼ」

であろう。その薬師堂は北条薬師であろうか。

全国地図には、ヤクシダ地名は記載が無い。

【番匠田】

バンジョウダ。

飯沼で中を国道 153 号線が通っていて新戸川に沿っている小字。

バンジョウダとは「大工職人の所有田で免租されているところ」であろう。バンジョウは大工のことで日葡辞書にも記載されている。

しかし、全国地図にはバンジョウダ地名は載っていない。

【鎌田】

カマタ。

飯沼のバンジョウダ小字の南隣にある。

カマタとは何をいうのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カマはカミ(嚙)・マ(間)の省略形で、「川の深くなっている淵」をいう。すなわち、カマタとは「傍にある川が深くなっている所がある土地(田)」をいうのであろうか。

②カマは岐阜の方言で「泉」の意もある。カマタとは、「湧水のあるところ(水田)」をいうのかもしれない。

全国地図には、カマタ地名が 2 カ所に中・大字として挙げられている。

【サクラ井】

サクライ。

飯沼の新戸川に沿っており、カマタ小字の北隣に位置している。

サクライとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①サクは形容詞サクシ(脆)の語幹で「土壌などの崩れやすく脆い状態」をいい、ライは「場所」を示す接尾語か。以上から、サクライとは「井水が流れている崩れやすい土壌になっている土地」をいうか。

②サクは動詞サクル（抉）の語幹で「耕地」をいう。従って、サクライとは「井水のある耕作地」を意味するとも考えられる。

全国地図には、サクライ地名は2カ所に中・大字として挙げられている。

【大ラン】

ダイラン。

飯沼の新戸川に沿う段丘崖の麓にあり、南側はサクライ小字になっている。

ダイランとは何を意味しているのか。分かりにくい地名であるが、二説を挙げる。

①ダイはダイ（台）で「台地。段丘」（語源辞典）のことで、ランはラン（濫）で「あふれる」（国語大辞典）から「土石があふれること」をいうのであろうか。以上から、ダイランとは「段丘面に押し出した土石流があった所」をいうか。

②ダイ←タヒ（平）と転じたもの（語源辞典）で、「緩傾斜地」をいうか。すなわち、ダイランとは「土石流が押し出した緩傾斜地」をいうのかもしれない。

全国地図にはダイラン地名は記載されていない。

【タカゴシ・高越】

タカゴシ。

これらの小字は飯沼の段丘崖麓を通る竜西線の沿線にある。

タカゴシとはタカ（高）・ゴシ（腰）で「急傾斜地の麓になる段丘の高いところ」を意味するのであろうか。人体の腰の上部に見立てたものと思われる。急傾斜地（段丘崖）が身体部分か。

全国地図にはタカゴシ地名は記載されていない。

【久保・久保垣外】

クボ・クボガイト。

いずれも飯沼の竜西線の東側にある。

クボは「窪地になっているところ」で

あり、クボガイトは「屋敷があった窪地」を意味しているものと思われる。

全国地図には、クボ地名は265カ所に、クボガイト地名は3カ所に、中・大字として記載がある。

【喜代作田】

キヨサクダ。

飯沼の国道153号線と竜西線の間にある。

キヨサクは固有名詞で、キヨサクダとは「喜代作が耕作していた水田のあるところ」であろう。

【ヤサ田】

ヤサダ。

飯沼の国道153号線と竜西線の間であり、キヨサクダ小字の西隣になる。

ヤサダとは何をいうのか。二説を挙げる。

①ヤサは「名詞の上に付いてやさしく上品である。しとやかであるなどの意を添える」語であるという（国語大辞典）。従って、ヤサダとは「なだらかな土地（水田）」を意味すると考えることもできそうだ。

②ヤはヤ（菴）で「湿地」をいい、サダ（サダ）はシヅ（鎮）に通じ「斜面が水平に安定した所。崖下の平地」の意（以上は語源辞典）。以上から、ヤサダとは「傾斜地の麓で湿地になっているところ」を意味しているか。

全国地図には、ヤサダ地名は載っていない。

【ガッチ】

飯沼に大小が二ヶ所ある。一つは大きいガッチ小字で、竜西線の東側にあり、段丘崖の麓にあたる。小さい方は国道153号線沿いにある。

ガッチ←カハチと促音便化した語であろう。カハチとは何か。二説を挙げる。

①カハチ←カハ（川）・ウチ（内）で「流

水に囲まれた土地」をいうか。ここは三方を川に囲まれている。

②カハチ←カハ(川)・フチ(縁)で「川のほとりにある土地」かもしれない(語源辞典)。

ガッチ地名は全国地図には無い。

【砂田】

スナダ。

飯沼の国道153号線の東側にある。

スナダは、字面の通りで「砂地の田」(国語大辞典)であろう。水漏れのあった田んぼであったかもしれない。

全国地図には、スナダ地名は中・大字として16カ所にあつて、いずれも「砂田」の字が宛てられている。

【シシ場・シシバ・シシ場】

シシバ。

これらの小字は三カ所にあつて、飯沼の国道153号線の東方にあり、近くを新戸川が流れ、ほぼ東西に並んでいる。

シシバとは何か。文字通りに解すれば、「猪の出没する場所」となるが、この飯沼の中心部で当てはまるかどうか。この解釈は採り上げないことにする。

では、シシバとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①シシとはシシ(祠祀)で「神仏をうやまて、まつること」(国語大辞典)をいうか。すなわち、シシバとは「神を祀る神聖な場所」としたい。近くに田中八幡宮があり、かつてはその境内であったことも考えられる。

②シシバはシ(下)・シ(石)・バ(場)で(語源辞典)、「下流側にある小石まじりの土地」をいうのであろうか。

全国地図には、シシバ地名は4カ所にあつて、「猪場」「鹿場」「神々廻」(2カ所)の字が宛てられている。

【ナベウリ】

飯沼のシシバ小字の南隣にあり、井水

に挟まれている。

ナベウリとは何か。二説を挙げる。

①ナベウリは字面の通りで「鍋の類を売り歩くのを業とすること」(国語大辞典)であろうか。鍋の破損を繕うこともしていたのであろう。釜も扱っていたようであるが、鍋は囲炉裏にかけることもできて釜以上に便利であったらしい。鍋釜は中近世には各地方で製造されたという(以上 日本職人辞典)。ナベウリとは「鍋釜の販売や修繕をする職人が住んでいたところ」か。しかし、生業となるほどに需要があったのかどうかという疑問も残る。

②ナベはナメラカ(滑)の意で「平坦地。緩傾斜地」をいい、ウリはウルヒ(潤)の転で「湿地」をいう(語源辞典)。以上から、ナベウリとは「湿地となっている平坦な土地」を意味するか。

全国地図にはナベウリ地名は載っていない。

【桶クルハ】

オケクルワ。

飯沼の新戸川沿いで、中を国道153号線が通っている。

オケは桶屋のことであろう。桶屋は近世の呼び方であるという。桶は用途により形や大きさに種類も多く、それだけ需要が多かったと思われる(以上は日本職人辞典)。

クルハはクルワ(郭)で「集落」をいう(国語大辞典)。

以上から、オケクルワとは「桶職人が複数住んでいた土地」をいうのであろう。

オケクルワ地名は、全国地図には無い。

【ハリマ元】

ハリマモト。

国道153号線と竜西線の間であり新戸川支流が流れている。現在は果樹園と州宅地になっている。

ハリマはハリ(墾)・マ(間)で「開墾地」をいい、モト(下)は「山の麓」をいう(以上は語源辞典)。

従って、ハリマモトとは「段丘崖の麓にある開墾地であったところ」をいうか。

全国地図には、ハリマモト地名は記録が無い。

【フカダ】

南条の国道153号線と竜西線の間ニヶ所ある。

フカダはフカダ(深田)で、字面の通り「泥の深い田」(広辞苑)をいう。段丘録の自然湧水の多い場所か。

全国地図には、フカダ地名は15カ所の中に大字として記載があり、その全てに「深田」の字が宛てられている。

【勇リョウ田】

ユウリョウデン。

この小字は、国道153号線の東側で上郷デイサービスセンターがある。

ユウリョウデンとは何か。小字発生時には未だ無かった語と思われるので、優良田ではないだろう。では、何を意味するのか。二説を挙げる。

①ユウはキ(井)の転じた語で「泉」をいい(語源辞典)、リョウデン(良田)は「一定量以上の収穫を上げる田地」(国史大辞典)をいう。以上から、ユウリョウデンとは「湧水はあるが一定量以上の収穫のある田んぼ」を意味するのであろうか。

②ユウリョウデンはユイ(結)・リョウ(領)・デン(田)で、「ゆいの部落で所有者の欠けた田んぼ」をいうのかもしれない。村請のようなかたちで耕作を続けたのであろうか。

全国地図には、ユウリョウダ地名は記載されていない。

【半夏田】

ハンゲダ。

この小字の中を国道153号線が通っている。周辺には、ユウリョウデン・フカダ・シミズダなどの小字がある。

ハンゲダとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①ハンゲは「農事の半作。五分作」(国語大辞典)をいう。群馬や八王子の方言。つまり、ハンゲダとは「半作になってしまふ田んぼ」をいうか。水温が低いためであろうか。公に認められ貢租も配慮されていたのかもしれない。

②ハンゲ(半夏)は「夏至から数えて11日目のこと。7月2日ころになる」という。全国で植え付けの目安としたらしい(以上は民俗大辞典)。ハンゲダとは「半夏に田植えを終える田んぼ」をいうのかもしれない。他の作物の栽培で田植の遅くなる田んぼであったか。

全国地図には、ハンゲダ地名は載っていない。

【梅香田】

ウメコウダ。

国道153号線の東方、ハンゲダ小字の東隣にある。

ウメコウダとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ウメはウメ(埋)で「砂などの堆積した地」をいい、コウダはカハ(川)・タ(田。処)で「流水のある所(田)」のこと。以上から、ウメコウダとは「砂が堆積し井水が流れている田んぼ」であろうか。南隣にはスナダ小字があり、北側にはフカダ小字が接している。

②コウダ←コウデン(公田)の転で「占有者のいない田」をいう。従って、ウメコウダとは「砂が堆積した所で占有者のいない田んぼ」をいうのかもしれない。近くにユウリョウデン小字がある。

全国地図にはウメコウダ地名は記載が無い。

【サカイ垣外】

サカイガイト。

小さな小字で、近くにJA南条支店がある。

サカイガイトは「境に近いところにある屋敷跡」か。別府との境界が近いことを表現しているのかどうか。

サカイガイト地名は全国地図には無い。

【ツボシリ・つぼの尻】

飯沼の竜西線の西側に二ヶ所、東部の新戸川右岸に一ヶ所ある。

ツボ(ノ)シリとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ツボは動詞ツボム(窄)の語幹で「窪地」のこと、シリは「末端部」をいう。従って、ツボシリとは「窪地の下の方の土地」を意味するか。

②ツボ←ツバ(端)と転訛した語で「台地の端」をいう。つまりツボシリとは「台地の端の土地」をいうか。この場合の台地の端は段丘崖の上り口になっているが、どうであろうか。

全国地図には、ツボシリ地名が1ヶ所だけ、中・大字として記載されている。

【ヨシ原】

ヨシハラ。

飯沼竜西線の東側で、段丘崖の麓にあり、現在は果樹園になっている。

ヨシハラとは「葦の生えている緩傾斜地」であろうか。この段丘崖の麓は自然の湧水の多いところ。

全国地図にはヨシハラ地名は31ヶ所に中・大字として記載があり、うち28ヶ所では「吉原」の字を用いている。

【坂尻】

サカジリ。

飯沼タツザカの傾斜地に二ヶ所ある。

サカジリは「坂道の登り口」をいう。山梨県・上伊那郡の方言であるという(国語大辞典)。ここ飯沼のサカジリも急傾斜

地の上り口にある。従って、サカジリとは「急傾斜地へと上る入口になっている所」を意味する。

全国地図には、サカジリ地名は4ヶ所に中・大字として挙げられている。

【中南・大南】

ナカミナミ・オオミナミ。

ナカミナミ小字は一ヶ所、オオミナミ小字は二ヶ所あるが、いずれも飯沼タツザカの少し緩い方の傾斜地にある。

ナカミナミとは「南の方の中ほどの土地」をいうのであろうか。オオミナミに対する語と思われるが、基準になっているのは飯沼城かオオガイト小字にあった屋敷であろう。

オオミナミとは「ずっと南の方にある土地」を意味していると思われる。ナカミナミに対するオオミナミと考えたい。

全国地図には、ナカミナミ地名は5ヶ所に中・大字として挙げられており、その全てに「中南」の字が宛てられており、オオミナミ地名も同じ5ヶ所で「大南」となっている。

【ヒラ】

タツザカの急傾斜地から緩傾斜地に下ったところにある。

ヒラとは「山中にある相当広い緩斜面」(広辞苑)であろう。

全国地図には、ヒラ地名は44ヶ所に中・大字として挙げられており、うち「平」の字が宛てられているのは39ヶ所ある。

【権現】

ゴンゲン。

タツザカのヒラ小字の北隣の緩傾斜地にある。

ゴンゲンとは「権現様を祀ってあったところ」を意味するのであろう。権現様というのは、現在、飯沼諏訪神社に合祀されている秋葉大権現を指しているのであろうか。

ゴンゲン小字は伊那谷南部には多いが、全国地図には18カ所に中・大字として挙げられている。

【道上・道下】

ミチウエ・ミチシタ。

ミチウエ小字は飯沼の竜西線の沿線にあり、ミチシタ小字は竜西線沿線のグループとそれより北方の飯沼城段丘崖とその麓のグループがある。

ミチウエは「竜西線の上側（西側）にある土地」をいう。ミチシタは「道路の下側の土地」をいうが、その道路はグループによって異なっている。

全国地図には、ミチウエ地名は13カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「道上」となっている。ミチシタ地名は21カ所にあり、その全てに「道下」の字が宛てられている。

【大下】

オオシタ。

タツザカの東側にあり、急傾斜地から緩傾斜地に移る場所にある。

オオは美称の接頭語で、オオシタとは、「下の方にある土地」か。基準がよく分からないが、横手道をいうのであろうか。

全国地図には、オオシタ地名が14カ所に中・大字として挙げられており、うち12カ所で「大下」の字が宛てられている。

【大前】

オオマエ。

タツザカの急傾斜地から緩傾斜地に降りたところにある。

オオは美称であらうか。オオマエとは「前の方の土地」をいう。基準になっているのはオオガイト小字にあった屋敷であらうか。

全国地図には、オオマエ地名は12カ所に中・大字として記載があり、うち11カ所に「大前」の字が使われている。

【横手上・横手下】

ヨコテウエ・ヨコテシタ。

飯沼のタツザカにある。

ヨコテとは「山腹を横に迂回する道」（語源辞典）であらう。

ヨコテウエとは「山腹を横に迂回する道の上の方にある土地」であり、ヨコテシタとは「山腹を横に迂回する道の下方の土地」をいう。

全国地図には、ヨコテシタ地名は無いが、ヨコテ地名は38カ所に記載がある。

【ナギノ洞】

ナギノホラ。

この小字はタツザカにある。

ナギノホラとは「崩崖のある小さな谷」を意味する。

全国地図にはナギノホラ地名は無い。

【大垣外】

オオガイト。

飯沼タツザカの下方の緩傾斜地にある。

オオガイトとは「かなりの有力者の屋敷があったところ」か。飯沼城の城主か有力な家臣であったか。

全国地図には、オオガイト地名は13カ所に中・大字として挙げられている。

【古仕場】

コシバ。

飯沼の竜西線の西側に当たる上側にある。

コシバとは何か。二説を挙げておく。

①コシバとは「川の徒渉点があるところ」（国語大辞典）をいうのであらうか。竜西線か竜西線から枝分かれしている西へ向かう道が新戸川の支流や井水を渡る場所があったところをいうのであらう。

②コシには動詞コス（漉）の連用形で「水が湧き出る地」の意もある。すなわち、コシバとは「自然の湧水があるところ」を意味しているかもしれない。

全国地図にはコシバ地名は2カ所に

中・大字として挙げられているが、宛てられている字は「胡芝」と「小柴」である。

【大手横道下】

オオテヨコミチシタ。

飯沼のオオガイト小字の西隣にある細長い小字である。

オオテヨコミチシタとは「飯沼城の表門に繋がる傾斜地のほぼ等高線添いの道の下側の土地」をいうのであろう。

【大手道上・大手道下】

オオテミチウエ・オオテミチシタ。

飯沼城東側の段丘崖にある。

オオテミチウエとは「飯沼城の表門に繋がる道の上の方の土地」をいい、オオテミチシタは「飯沼城の表門に通じる道の下の方の土地」をいう。

これら二つの小字の境にある道が大手になる。

【平畑】

ヒラバタ。

この小字は、飯沼竜西線の西側沿線にある。

ヒラとは「山中にある相当広い緩斜面」（広辞苑）である。従って、ヒラバタとは「山中の相当広い緩斜面にある畑」を意味するものと思われる。

全国地図には、ヒラバタ地名は4カ所の中・大字として記載があるが、ヒラハタ地名は12カ所になる。

【タキ川】

タキガワ。

飯沼の県道市場・桜町線と竜西線の間にある。

タキガワとは「谷川など、はげしく流れる川」（広辞苑）をいう。あるいは、ここで御祓が行われたのかもしれない。

全国地図には、タキガワ地名は52カ所も中・大字として記録されており、うち51カ所に「滝川」が宛てられている。

【中橋】

ナカハシ。

飯沼のタキガワ小字の上流側にある。

ナカハシとは「中ほどに架かっている橋のあったところ」であろうか。“中ほど”というのは、よく分からないが、県道と竜西線との中ほどとうことか。県道にも竜西線にも、この新戸川を越える橋が架かっていたのであろうか。

全国地図にはナカハシ地名は3カ所が中・大字として記載があり、いずれも「中橋」の字を宛てている。

【タイサワ】

タイザワ。

飯沼のナカハシ小字の上流側にあり、この小字の中を県道市場・桜町線が通っている。

タイザワとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①タイ←ダイ（台）と転じた語（語源辞典）で、「台地から流れ落ちる谷川」をいうのかもしれない。

②タイザワ←タイザ（対座）と変化したもので、伊那谷南部に多いタイザを意味するか。座光寺にもタイザワ←タイザと変化した小字がある。

タイザワ地名は全国地図に1カ所だけ記録されていて、「沙沢」の字が宛てられている。

【モリ下・森下】

モリシタ。

飯沼諏訪神社の南東側段丘崖にある。

モリ（森）は「神社などのある神域で、神霊の寄りつく樹木が高く群がり立つ所」（国語大辞典）である。

従って、モリシタとは「神霊の寄りつく高い樹木のある境内の下の方の土地」をいうのであろう。

全国地図には、モリシタ地名は35カ所の中・大字として採られており、うち

32カ所に「森下」の字が宛てられている。

【中畑】

ナカハタ。

飯沼諏訪神社の段丘から下る段丘崖の中腹部の緩傾斜地にある。

ナカハタとは「段丘崖の中ほどにある畑地」をいうのであろう。

段丘の上の黒田にもナカハタ小字はある。

【宮下】

ミヤシタ。

飯沼諏訪神社南東方の段丘崖にある。

ミヤシタとは字面の通りで「お宮の下の方にある土地」を意味する。

【坂下】

サカシタ。

飯沼の県道市場・桜町線の東側にあり、段丘崖の麓の緩傾斜地になっている。

サカシタとは「崖地の下の方の土地」をいうか。

全国地図には、中・大字として記載のあるサカシタ地名は83カ所と多く、うち82カ所で「坂下」の字になっている。

【門前】

モンゼン。

飯沼の鶏足院の東側にあり、その中を県道が貫いている。

モンゼンは「門の前」の意だが、特に寺院の門前に形成された商業地区である門前町のことだという（語源辞典）。すなわち、モンゼンとは「寺院の門前で商店のあるところ」を意味するのであろう。寺院とは、いうまでもなく鶏足院のこと。

モンゼン地名は全国地図に105カ所も中・大字として挙げられている。その全てが「門前」の字になっている。

【酒屋畑】

サカヤバタ。

飯沼のモンゼン小字の北側で、県土市

場・桜町線の東側沿線にある。

サカヤバタとは、サカ（坂）・ヤ（菴）・バタ（畑）で「緩傾斜地になっていて自然湧水のある畑」とすることもできそうだが、街道筋にあるので採らないことにする。

サカヤバタとは、サカヤ（酒屋）・バタ（端）で「酒造か酒の販売が行われていた場所の周辺」であろうか。自然の湧水の多いところで、酒造の適地と思われる。

上郷史によれば、天保七年（1836）に飯沼村の九右衛門と周三郎が酒造株を得て酒造りを始めている。

全国地図にはサカヤバタ地名は記載が無い。

【マク畑】

マクハタ。

飯沼城の段丘崖の麓にある。現在は墓地や果樹園がある。

マクハタとは何か。マク（幕）・ハタ（畑）で「屏風状の崖が続いているところにある畑地」をいうか（語源辞典）。

全国地図には、マクハタ地名もマクバタ地名も記載されていない。

【蔵屋敷】

クラヤシキ。

小さな小字で、飯沼城の段丘崖の麓の緩傾斜地にある。

クラヤシキとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①クラは「倉庫」のこと。すなわち、クラヤシキとは、単に「倉庫のある有力者の屋敷地」をいうのであろうか。

②蔵屋敷とは「江戸時代、諸大名が年貢米や国産物を販売するために設けた倉庫兼取引所」（国語大辞典）をいうか。中心地は大阪や江戸などの大商業地であったが、地方にもあったことも考えられる。

全国地図には、クラヤシキ地名は7カ所の中・大字として挙げられている。

【屋敷下・屋敷上】

ヤシキシタ・ヤシキウエ。

ヤシキシタ小字は飯沼城の段丘崖のほぼ中ほどのところにある。ヤシキウエ小字は飯沼に二ヶ所、飯沼城社の北側と鶏足院の西側にある。

ヤシキシタとは「ヤシキの下方の土地」をいい、ヤシキウエとは「ヤシキの上方の土地」をいう。

では、ヤシキとは何か。二説を挙げる。

- ①ヤシキとは「有力者の居住地」か。
- ②ヤシキはヤ(菴)・シ(石)・キ(接尾語)で、「湧水のある急傾斜地」をいう(語源辞典)。

改めて、ヤシキシタは「湧水のある急傾斜地の下方の土地」であろうか。ヤシキ=屋敷とするには、屋敷地を急傾斜地にしないと辻褃が合わないと思われる。

ヤシキウエとは、「有力者屋敷地の上方の土地」か、「湧水のある急傾斜地の上方の土地」をいうか。

全国地図には、ヤシキシタ地名は2ヶイ祖、ヤシキウエ地名は1カ所に、中・大字として挙げられている。

【水洞・水ヶ洞】

ミズボラ・ミズガホラ。

これらの小字は、飯沼城段丘の段丘崖の下方にある。

いずれも「自然の湧水のある小さな谷」を意味するのであろう。

全国地図には、ミズボラ地名は2ヶ所に中・大字として記載があるが、ミズガホラ地名は無い。

【ヤブ】

飯沼城段丘崖の麓の緩傾斜地、ミズボラ小字の下流側にある。

ヤブ(藪)とは、①「雑草・雑木などの密生している所」(広辞苑)をいうのであるが、藪をそのまま放置してお居ていることも考えにくいので、②「由緒のわ

からなくなった屋敷神などの藪神がいる所」と思われていたのかもしれない。

全国地図には、ヤブ地名は18カ所に中・大字として挙げられている。

【洞下】

ホラシタ。

飯沼に二カ所ある。一つは飯沼城段丘崖の麓で新戸川添いに、もう一つはミズボラ小字の下流側になっている。

ホラシタとは「小さな谷の下流側の土地」をいうのであろう。あるいは「ミズボラの下流側にある土地」となるかもしれない。

全国地図には、ホラシタ地名は載っていない。

【古居家】

コイケと長野縣町村字地名大鑑にはあるが、フルイエである可能性もあると思われるがどうであろうか。

「古居家」とは何を意味しているのか。三説を挙げる。

①コイケはコ(小)・イケ(池)で、「小さな湧水など自然水をためた池があったところ」であろうか。この池に何か目立つものがあったのかもしれない。

②コイケはコ(接頭語)・ヒ(樋)・ケ(場所)で、「流水があったところ」だったかもしれない。

③フルイエだとすれば「以前に屋敷のあったところ」か。有力者が住んでいたであろう。

全国地図には、コイケ地名は60カ所に中・大字として記載されており、うち58カ所で「小池」の字が宛てられている。しかし、フルイエ地名は載っていない。

【クリヤ・栗屋畑・栗矢畑】

クリヤ・クリヤバタ。

これらの小字は、飯沼城段丘の段丘崖麓にある。

クリヤバタとは「クリヤの畑」であろう。ではクリヤとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①クリヤは御厨と同じ意味で、「神社の直轄領」であるという。免租地であったのであろう。神社とは飯沼諏訪神社か。

②クリヤはクリ(荺)・ヤ(菴)で、「崩崖のある湿地」をいうのかもしれない。

全国地図には、クリヤバタ地名は載っていないが、クリヤ地名は11カ所に中・大字として記載がある。

【大鞆垣外】

オオヒガイト。

この小字は、飯沼の県道市場・桜町線と飯沼城段丘崖の間に3カ所ある。

オオビガイトとは何か。三ヶ所ともに共通する解釈でなければならないと思われる。よく分からないが二説を挙げておく。

①ヒはヒ(檜)で、オオヒガイトとは「大きな檜が自生していた屋敷跡」か。

②ヒはヒ(樋)で、オオは美称の接頭語であるとする、オオヒガイトとは「自然水の流れのある屋敷跡」であろうか。

全国地図には、オオヒガイト地名は無いが、オオヒ地名は3カ所に中・大字として記載がある。

【茶樹畑】

チャキバタ。

県道と飯沼城段丘崖の間にある。

チャキバタとは「お茶を栽培している畑のあるところ」をいうのであろう。南東向きの緩傾斜地で冷気の溜まる場所ではないので、茶の適地だったのだろうか。

全国地図にはチャキバタ地名は載っていない。

【マトバ・的場・的】

マトバ・マト。

これらの小字は、飯沼の県道西側、北

条薬師付近にある。

マトもマトバも同じことを意味していると思われる。

マト(バ)は「的をかけて弓を射る練習をする場所」(広辞苑)をいうのであろう。飯沼城関係の者たちの利用した弓場であったのであろう。

全国地図には、マトバ地名は58カ所、マト地名は3カ所が、中・大字として挙げられている。

【平澤】

ヒラサワ。

この小字は飯沼城段丘崖の裾から緩傾斜地にかかる場所にある。

ヒラは「傾斜地」をいう。従って、ヒラサワとは「傾斜地を谷川が流れているところ」をいうのであろう。

全国地図には、ヒラアワ地名は65カ所が挙げられており、その全てに「平沢」の字が宛てられている。

【山道下】

ヤマミチシタ。

飯沼城段丘のJR飯田線の沿線添いにある。

ヤマミチシタとは「山中の傾斜地にある道の下の方の土地」をいうのであろう。

ヤマミチウエ地名もあるが、Blue Map上でその位置を確認することができなかった。

全国地図にはヤマミチシタ地名は無いが、ヤマミチ地名は5カ所に中・大字として記載がある。

【小西】

コニシ。

この小字は県道市場・桜町線にその西側で接している。

コニシとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①コニシは「親村から西の方向に分村した集落」をいうことがあるという。とす

れば、「複数の農家の分家が東の方からきて定着した土地」をいうのであろうか。

②コニシはカハ(川)・ニシ(西)の転訛した語と考えることもできるという。従って、コニシとは「川の西側の土地」をいう。この川とは新戸川であろう。

全国地図には、コニシ地名は13カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「小西」の字が宛てられている。

【洞】

ホラ。

飯沼の県道市場・桜町線の西方の緩傾斜地にあり、飯沼城段丘崖の麓にあたる。

ホラは「山あいの地」をいう(国語大辞典)。下伊那郡の方言にもなっている。

全国地図には26カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「洞」の文字が宛てられている。

【通り田】

トオリダ。

飯沼の県道市場・桜町線とJR飯田線の間であり、現在は居住地になっている。

トオリダはトオリ(通)・ダ(処)で、トオリは「人や車などの通行する道」か。すなわち、トオリダとは「人が行き来する道のある所」をいうのであろう。かつては主要な道路であったかもしれない。

全国地図には、トオリダ地名は記載されていない。

【院下・院下洞】

インゲ・インゲボラ。

これらの小字は、JR飯田線を挟んで飯沼城段丘崖の裾から麓にかけて、二ヶ所ずつ分布している。

インゲは「寺院の下の方の土地」をいい、インゲボラとは「寺院の下方にある小さな谷」を意味するものと思われる。

寺院とは鶏足院で、かつてはこのインゲボラにあったといい、現在でも院下洞には雑木林の中に方30mほどの屋敷跡

が残っているという(上郷史)。

全国地図にはインゲ地名は記録されていない。

【加山】

カヤマ。

飯沼の県道市場・桜町線の西側で新戸川右岸の沿岸にある。

カヤマとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。組み合わせを交換すれば、四説になる。

①カは強意の接頭語で、ヤマは「耕地」をいう。従って、カヤマとは「耕作地になっていたところ」であろうか。

②カ←カハ(川)の略でヤマは「森林」のこと。つまり、カヤマとは「川辺の森林帯」をいうか。川とは新戸川のこと。

全国地図には、カヤマ地名は12カ所に中・大字として挙げられているが、「加山」の字が宛てられているのは1カ所だけ。

【梅田】

ウメダ。

飯沼の県土市場・桜町線の西方で新戸川沿岸の左岸に二ヶ所ある。

ウメはウメ(埋)で「砂などが堆積した地」をいう(語源辞典)。つまり、ウメダとは「川が運んだ土砂が堆積したところ(田んぼ)」をいうのであろう。

全国地図には、ウメダ地名は25カ所に中・大字として挙げられており、うち21カ所に「梅田」、2カ所に「埋田」の字が宛てられている。

【広町】

ヒロマチ。

この小字は県道市場・桜町線の西側沿岸にあり、ウメダ小字の間に挟まれている。

ヒロマチとは何を意味しているのか。これも語源辞典に依りながら二説を挙げるが、組み合わせを変えれば四説になる。

①ヒロはヒロ（広）で「広いところ」をいい、マチはマチ（町）で「田んぼの区画」をいう。すなわち、ヒロマチとは「広い土地で、田んぼになっているところ」をいうのであろうか。

②ヒロはヒラが転じた語で「緩傾斜地」をいい、マチ（町）は「建物の集まっているところ」か。以上から、ヒロマチとは「建物の集まっているところがある緩傾斜地」か。

全国地図には、ヒロマチ地名は13カ所が中・大字として挙げられており、うち12カ所が「広町」になっている。

【大岩下】

オオイワシタ。

J R 飯田線に沿った飯沼城段丘崖にある。

オオイワシタとは何か。オオ←アフ（アブ）と転じたもので「崖」のこと、イワ（岩）は「小石まじりの地」か（以上は語源辞典）。従って、オオイワシタとは「崖のある小石まじりの地の下の方にある土地」をいうものと思われる。

【西浦】

ニシウラ。

飯沼の県道市場・桜町線の西方、新戸川左岸の沿岸にある。

ニシウラとは何か。二説を挙げる。

①ニシ←ニジと清音化した語で動詞ニジム（滲）の語幹、「湿地」をいい、ウラは「水際」の意（以上は語源辞典）。従って、ニシウラとは「水際にある湿地」をいうか。

②ニシウラとは単に、「西の方にある水際の地」をいうのかもしれない。ただ西に対して東に何かがあるのかははっきりしない。

全国地図には、ニシウラ地名は53カ所も中・大字として挙げられている。

【ツノコ田】

ツツコダ。

飯沼の北部にある小さな小字で、県道市場・桜町線とJ R 飯田線の間となっている。

ツツコダとは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ツツは動詞ツツム（包）の語幹で「山などに包まれた所」をいい、コダはコ（小）・タ（処）で「小平地」の意。以上から、ツツコダとは「微高地に包まれた小平地」を意味するのであろうか。

②ツチには古くは「泥」の意があったといい「湿地」をいう。従って、ツツコダとは「泉のある小平地」かもしれない。

全国地図にはツツコダ地名は載っていない。

【北垣外】

キタガイト。

この小字は、飯沼の座光寺境土曾川の近くで県道市場・桜町線とJ R 飯田線の間にある。

キタガイトとは「（飯沼の）北部にある有力者の屋敷跡」をいうのであろう。

全国地図には、キタガイト地名は10カ所に中・大字として挙げられている。

【井口・井ノ口】

イグチ・イノグチ。

いずれも飯沼北部の土曾川の沿岸にある。

イ（ノ）グチとは、「井水の取り入れ口付近」をいうのであろう。

全国地図には、イグチ地名は12カ所に、イノグチ地名は3カ所に中・大字として記載されている。

【ツカ田・塚越】

ツカダ・ツカゴシ。

いずれも、飯沼の北部、県道市場・桜町線とJ R 飯田線の間にある。

ツカダには古墳があったという記録はあるが、詳細は不明である（上郷史）。従って、これらの小字は二つともツカダ小

字にあった古墳に関係した地名であろう。

ツカダとは「古墳のあったところの田んぼ付近」を意味し、ツカゴシとは「古墳の近くの土地」をいうのであろう。

全国地図には、ツカコシ地名は1カ所にしかないが、ツカゴシ地名は12カ所、ツカダ地名は22カ所に中・大字として記載がある。

【鍛冶屋敷】

カジャシキ。

飯沼北部のツカコシ小字とキノモト小字の間にある。

カジャヤシキとは「鍛冶職人の屋敷があった所」であろう。

鍛冶屋は鉄を打ち鍛えて刀剣・刃物・馬具・農具・釘などを製作し、あるいは修理にあたる職人の総称で、鑄造に当たる鑄物師とは別。近世、農村で鉄製農具が使われるようになって、需要が増えたのであろう。農村で定着する職人が出てきているのであろう。

全国地図には、カジャシキ地名は19カ所に中・大字として記載されている。

【大字畑】

オオジバタ。

飯沼北部のあり、イグチ小字やイノクチ小字に挟まれている。

オオジバタとは何を意味するのか。これも分かりにくい地名であるが、語源辞典によりながら二説を挙げる。

①オオジには「湿地」を意味することもある。ハタはハタ（端）か。従って、オオジハタは、「湿地の縁辺にある土地」をいうか。

②オオジは「大路」か。オオジバタとは「大きな道路の沿線の土地」をいうのか。すぐ近くには座光寺地区にまたがるオオハシ（大橋）小字があり、ここを主要道路が通っていた可能性は高い。

全国地図には、オオジバタ地名は1カ

所に中・大字として挙げられており、「大地畑」の字が与えられている。

【井下・井ノ下】

イシタ・イノシタ。

これらの小字は飯沼の北部にあり、イグチ小字に混じっている。

イシタもイノシタも「井水の流路の下方にある土地」である。

江戸時代になってからの井水と思われる（上郷史）。

【大橋】

オオハシ。

飯沼最北部の土曾川右岸の沿岸にあり、土曾川に沿って長く延びた小字になっている。

オオハシ小字は対岸の座光寺地区にもあり、ここに土曾川を渡る橋が架けられていたのであろう。

オオハシとは「主要な橋があった所」をいうのであろう。

全国地図には、53カ所にオオハシ地名が、中・大字として挙げられており、うち51カ所が「大橋」となっている。

【土曾川平】

ドソガワダイラと長野縣町村字地名大鑑にはあるが、ドソガワヒラかもしれない。

土曾川沿岸ではなく、土曾川との間に側稜を挟んだ所にある。

ドソガワダイラは「土曾川に近い側稜の中腹から麓にかけての土地」だろうか。ダイラには「山の中腹から麓のあたり」（語源辞典）の意がある。新潟県の方言であるという。

ドソガワヒラであれば「土曾川の近くの傾斜地」をいうのであろう。

【天白山】

テンパクサン。

飯沼の北部にあり、南側にはJR飯田線が通っており、田藪神社がすぐ隣にあ

る。

田藺社は北条権現とも呼ばれている。飯沼の北条にあるからである。祭神は大己貴命（大国主命）で、後の時代に諏訪神社と白山神社を合祀している（上郷史）。

テンパクサンとは「天白神を祀る山」を意味する。

天白神は田藺社に祀られている大己貴命を指しているものと思われる。天白神の神格は多様であるが、武蔵などで大己貴命を祭神にしている大天伯社があり、固有名詞を持たない山の神に大己貴命に変わったのであろうか。

全国地図には、テンパクサン地名は2カ所に中・大字として挙げられており、「天瀑山」「天魄山」の字が宛てられている。

【権見北・権見下】

ゴンゲンキタ・ゴンデンシタ。

これらの小字は、飯沼北部のJ R 飯田線の南東側沿線にある。

ゴンゲンキタとは「権現様の北にある土地」であり、ゴンデンシタとは「権現様の下方にある土地」をいうのであろう。

ここでいうゴンゲンとは近くのキタジョウ小字に鎮座する田藺神社をいうのであろう。ここには白山権現が祀られており田藺権現とか北条権現とかやばれている（上郷史）。

ただ、ゴンゲンキタの位置が現在の田藺社から見ると東北東に方角にあるのが気になる。

全国地図にはゴンゲンキタ地名は記載が無いが、ゴンデンシタ地名は2カ所が中・大字として挙げられている。

【北城】

キタジョウ。

飯沼北部のJ R 飯田線の沿っており、インゲ小字群を挟んで二ヶ所にある。

キタジョウとは「飯沼城の北方にある

砦」をいうのであろう。飯沼城の支城であったのだろうか。段丘崖の中腹にあるので堅固な城塞とは思われない。

全国地図には、キタジョウ地名は21カ所に中・大字として記載されている。

【北原】

キタハラ。

南側のキタジョウ小字の南の方にある小さな小字である。

キタハラとは「(飯沼城の)北の方にある段丘崖の中腹部」をいうか。それ以上にどんな意味があるのかは不明。

キタハラ地名の全国地図の中・大字として91カ所に記載があり、うち90カ所が「北原」となっている。

【城山平】

ジョウヤマダイラ。

この小字は、J R 飯田線沿いに二ヶ所ある。キタジョウ小字と飯沼城の間にあり、段丘崖の傾斜地になっている。

ダイラは「山の中腹から麓あたり」(国語大辞典)であろうか。従って、ジョウヤマダイラとは「北城のある傾斜地」をいうのであろうか。

ジョウヤマダイラ地名は、全国地図には記載が無い。

【中道下】

ナカミチシタ。

J R 飯田線に沿った細長い小字になっている。

ナカミチシタとは「段丘崖の上段と麓の間にある道路の下方の土地」をいうのであろう。

【森北・森南】

モリキタ・モリミナミ。

これらの小字は飯沼諏訪社を取り巻いている。

モリ(森)は「神社などのある神域で、神霊の寄りつく樹木が高く群がり立つ所」(国語大辞典)をいう。従って、モリキ

タとは「神社の森の北の方の土地」をいい、モリミナミとは「神社の森の南の方の土地」をいうのであろう。

全国地図には、モリキタ地名とモリミナミ地名がそれぞれ1カ所ずつ記載されている。

【竜坂森・竜坂平】

タツザカモリ・タツザカダイラ。

これらの小字は飯沼諏訪神社の鎮座するところとその東方の段丘崖にある。

タツザカとは、単に「高い所に通じる坂道」ではないであろう。おそらくは「水神に関わる坂道」を意味するものと思われる。水神を祀ってある土地か、あるいは竜神信仰と関わっているかもしれない。

タツザカモリとは、「タツザカにあるお宮の境内」をいうのであろうか。

タウダカダイラとは、「タツザカのある段丘崖の中腹から麓のあたり」を意味する。

全国地図には、タツザカモリ地名もタツザカダイラ地名も載っていないが、タツザカ地名は2カ所に中・大字として記載がある。

【タキバ】

この小字は、飯沼諏訪神社南側の段丘崖にある。

タキバとは「神事などに従う前に身を洗い清める川」をいうのであろう。ここを流れ落ちる谷川で御祓を行ったものと思われる。

伊那谷南部には各地にある小字名で、「滝行をした場所」としたこともあるが、「御祓をした場所」と考えた方がいいかもしれない。伊那谷南部の特徴的な小字の一つではないだろうか。全国地図には、タイバ地名は1カ所にあるだけで、宛てられている字も「滝馬」となっている。

【経塚】

キョウヅカ。

飯沼諏訪神社の近くで、JR飯田線沿いにある。

キョウヅカ（経塚）とは「経典を永く後世に伝えるため、経筒などに入れて地中に埋め納めて塚を築いたもの」（広辞苑）をいう。従って、キョウヅカとは「経塚のあるところ」をいうのであろう。

全国地図には、キョウヅカ地名は26カ所に中・大字として記録され、うち15カ所に「京塚」、11カ所に「経塚」の字が宛てられている。

【イナリ平】

イナリダイラ。

飯沼神社のある段丘の東端にあり、神社の南側になり北隣には稲荷社がある。

イナリダイラとは、「稲荷社のある山中の平坦地」をいうのであろう。

この稲荷社の地は飯沼城の一部になっていたが、大正十二年に伊那電鉄の軌道が通ったために城域から孤立したという（上郷史）。

全国地図にはイナリダイラ地名は2カ所に中・大字として挙げられている。

【横下向】

ヨコシタムキ。

飯沼諏訪神社の段丘崖の上部で、イナリダイラ小字の南側にある。

ヨコシタムキとは「流水に沿って降り、次に等高線に沿って横にそれる道のあるところ」をいうのであろうか。

ヨコシタムキ地名は全国地図には無い。

【山道・山道端】

ヤマミチ・ヤマミチバタ。

これらの小字はJR飯田線と上郷小学校の間にある。

ヤマミチとは「やや高い所にある小道」をいうのであろうか。現在は平坦地になっているので、考えにくい面もあるが。

ヤマミチバタとは「ヤマミチ小字の末端部」であろう。段丘の末端部にあつて

段丘崖を下る手前にある。

【日カゲ】

ヒカゲ。

飯田女子高校の段丘から下る北東向きの段丘崖に二ヶ所ある。

北東向きの斜面であるから「日当たりの良くないところ」を意味しているのか。午後になると日蔭地になるのであろうか。

【古井林】

フルイバヤシ。

この小字は、上郷公民館の東側の段丘崖にある。

イバヤシ（井林）＝イミズバヤシ（井水林）で「江戸時代の保安林の一つ。山林の荒廃と水田の増加による灌漑用水の不足を補う目的で設けられた保護林」である（国語大辞典）。

従って、フルイバヤシとは「古い井水が流れていて保安林であったところ」であろう。新しい井水が流れるようになって、あまり重要視されなくなった井水であろうか。

全国地図には、フルイバヤシ地名は記録されていない。

【大南平】

オオミナミダイラと長野縣町村字地名大鑑にはある。しかしオオミナミヒラの可能性もある。

この小字は、上郷地域振興センターのあるミナミハラ小字とオオミナミ小字に挟まれた段丘崖にある。

オオミナミダイラであれば、「飯沼城（飯沼諏訪神社）の南の方にある、大きな平坦地」をいうのであろう。

オオミナミヒラであれば「飯沼城の南の方にある傾斜地」をいうか。

全国地図には、オオミナミダイラ地名は記載が無い。

【南原・北原】

ミナミハラ・キタハラ。

ミナミハラ小字はキタハラ小字を挟んで二ヶ所にある。

ミナミハラとは「南の方にある大きな平坦地」をいい、キタハラとは「北の方にある大きな平坦地」をいうのであろう。

しかし、南北の基準がはっきりしないが、北側にある「南原」は飯沼城からみた南方であろう。南側にある「南原」はフルジョウ（古城）小字からみて南の方という表現になったのかもしれない。あるいは、二ヶ所の「南原」はかつては繋がっていて、そこへキタハラ小字が割り込んだとも考えられる。

「北原」はフルジョウからみてのキタであろうか。

全国地図には、キタハラ地名は91カ所、ミナミハラ地名は42カ所が中・大字として記載されている。

【イサリ林】

イサリバヤシ。

南条のフルジョウ小字東方の段丘崖の裾にある。

イサリ＝イザリで動詞イザル（壁）の連用形が名詞化した語で「ずれ動く」の意（語源辞典）。

ハヤシは「樹木の群がり生えた所」をいう（広辞苑）。

以上から、イサリバヤシとは、「土砂崩落のあった樹木の群がり生えている場所」をいうか。

イサリバヤシ地名は、全国地図には記載されていない。

【御茶屋台】

オチャヤダイ。

飯田高校のある段丘の東端とその下の段丘崖に懸かっている小字。

「飯田の殿様はこのあたりを禁猟区とし、休憩所のお茶屋を建て、家臣をつれてここに遊び、刈りを楽しんだ。それでお茶屋の台の地名がついた」（上郷地名考）

という。

つまり、オチャヤダイとは「狩場の御茶屋があった台地」をいうのであろう。

全国地図にはオチャヤダイ地名は載っていない。

【フシ塚】

フジツカ。

飯田高校のある段丘の南東端にある小さな小字である。

フジツカとは「富士講の神事がとり行われた所」であろうか。あるいは、富士山に見立てる塚が造られていたかもしれない。

富士講は、江戸中期以降、爆発的に広がったといわれている。伊那谷南部にも富士講にかかわると思われる小字名は多い。

全国地図には、フジツカ地名は中・大字として、8カ所に記載があり、その全てに「藤塚」の字が宛てられている。

【三本松】

サンボンマツ。

飯田高校の段丘の東端にあるフルジョウ小字の東の段丘崖にある。

サンボンマツとは何か。二説を挙げる。

①サンボンマツとは、「同じような赤松が三本自生していた場所」をいうか。

②「同じ所から枝が三つまたになって出ている木。山の神木として伐ることを避ける」(国語大辞典)というのを三本木というが、三つ股の松があったのかもしれない。サンボンマツとは「三つ股になっている神聖な松があったところ」をいうのかもしれない。

【古城・ほり】

フルジョウ・ホリ。

フルジョウ小字は飯田高校の段丘の東端にあり、この小字の北西端にはホリ小字もある。

フルジョウとは、「古い城跡がある所」

をいうのであろう。飯沼城や原ノ城よりも古い時代の砦であろうか。飯沼城ができたときには、飯沼城の支城であったのか、それとも廃城になっていたのかは不明である。

ホリはいうまでもなく、「古城の堀があった所」を意味する。

フルジョウ地名は、全国地図に12カ所が中・大字として挙げられており、そのいずれもが「古城」の字を宛てている。またホリ地名は21カ所に残っている。

【林古シ】

ハヤシコシ。

この小字は飯田高校の東側にあり、敷地に接している。

コシには「越した所」、「傍」の意がある(語源辞典)。従って、ハヤシコシとは「樹木の群がり生えた斜面を越えた所」で、「段丘の先端部の土地」を意味するのであろう。

全国地図には、ハヤシコシ地名は記録が無い。

【山坂・山坂道上】

ヤマサカ・ヤマサカミチウエ。

ヤマサカ小字は三ヶ所、ヤマサカミチウエ小字は一カ所、飯田高校段丘の段丘崖にあり、二ヶ所のヤマサカ小字の上の方にヤマサカミチウエ小字がある。残りの一カ所のヤマサカ小字は段丘端にある。

ヤマサカとは「山中の傾斜地で坂道のあるところ」を意味する。

ヤマサカミチウエとは「山中の傾斜地にある坂道の上の方の土地」をいうのであろう。

全国地図には、なぜかヤマサカミチウエ地名はもちろん、ヤマサカ地名も載っていない。

【古城東平】

フルジョウヒガシダイラと長野縣町村地名大鑑にはあるが、フルジョウヒガシ

ヒラかもしれない。

この小字はフルジョウ小字の東隣にあり、段丘崖の急傾斜地になっている。

フルジョウヒガシヒラとは「フルジョウ小字の東側にある傾斜地」を意味する。

【中島・中じま】

ナカジマ。

これらの小字は二ヶ所ずつ、雲彩寺の周辺に分布している。

ナカジマとは、その小字の地形を島に見立てたものと思われる。従って、ナカジマとは「島のように見える土地」をいうのであろうか。島のように見えるのは、水路だ囲まれていたり、あるいは低い方から見たときに島のようにであったりするのであろう。

【山古瀬】

ヤマコセ。

飯田高校段丘崖の裾から麓にかけての小字である。

コセは「長野県の一部で、一方が山側になった道」をいう（国語大辞典）。従って、ヤマコセとは、「西の方が山側になっている道路が通っているところ」を意味するのであろう。

【庚申原】

コウシンバラ。

南条のコウシンバラ小字は、古城の東側の段丘崖裾にある。傾斜が緩くなった地点で竜西線添いになる。

コウシンバラとは「お庚申様をお祀りしてある緩傾斜地」をいうのであろう。

伊那谷南部には庚申に関わる小字は多い。60日ごとの庚申の日に神事が行われている。室町末頃から庚申供養塔が建てられるようになり猿の信仰と結びつき、近世に至ると腕六本の青面金剛が刻まれるようになった。庚申供養塔は60年ごとに建てることを原則としていたという（民俗大辞典）。

全国地図には、コウシンバラ地名は1カ所にだけ中・大字として挙げられている。

【堀尻】

ホリジリ。

フルジョウ小字の東方にあり、西端は竜西線になっている。

ホリジリとは何か。二説を挙げる。

①ホリジリとは「古城の壕の終わる所」を意味する（上郷地名考）。

②ホリ（堀）は「地を細長く掘り、水を通したもの」の意がある（広辞苑）。であれば、ホリジリとは「井水の末端部のある土地」をいうのかもしれない。念のために挙げておきたい。

全国地図には、ホリジリ地名は載っていない。

【山ノ根】

ヤマノネ。

雲彩寺の北西端にある小さな小字である。

ヤマノネとは「段丘崖の麓にある土地」を意味するのであろう。

全国地図には、ヤマノネ地名は4カ所に中・大字として記載がある。

【天神塚】

テンジンヅカ。

雲彩寺のある場所がテンジンヅカ小字である。

天神塚古墳と呼ばれている前方後円墳がある。小字名より古墳名の方が古いのかもしれない。

テンジンヅカとは「天神様を祀った塚」だと思われるが、天神とどう繋がっているのかわからない。

全国地図にもテンジンヅカ地名は記載が無い。

【道添】

ミチゾイ。

飯沼雲彩寺の北側と栗沢川の北方の二

ヶ所にある。

ミチソイとは「道路に添った土地」をいう。この場合の道路は一つは竜西線でもう一つは栗沢川の北側に並行する東西線である。

全国地図には、なぜかミチゾイ地名は載っていない。

【沢・澤】

サワ。

いずれも飯沼南条にあり、「沢」小字も。「澤」小字も二ヶ所ずつある。

サワとは「谷川の沿岸の地」をいう。谷川とは、もちろん栗沢川をいう。

全国地図には、サワ地名は61カ所が中・大字として記録されている。

【びくに畑】

ビクニバタ。

栗沢川の北方に小さな小字が二カ所、新戸川の南の方に一カ所ある。

ビクニバタとは「比丘尼のいるお寺の所有する畑」か。免租地になっているはずである。

全国地図には、なぜかビクニバタ地名は記載が無い。

【ひばり田】

ヒバリダ。

飯沼南条の竜西線を跨いでいる小字である。

ヒバリダとは何を意味するのか。雲雀が営巣している田んぼではあるまい。

ヒバリはヒ(干)・ワリで、ワリは動詞ワル(割)の連用形が名詞化した語。従って、ヒバリダとは「乾いて割れ目ができている田んぼ」を意味していると思われる。

全国地図には、ヒバリダ地名は記載が無い。

【ひへ田】

ヒエダ。

飯沼南条のヘイクロウダ小字周辺に三

カ所ある。

ヒエダとは何か。二説を挙げたい。

①ヒエダとは「田稗を栽培している田んぼ」か。水温の低い自然の湧水に頼る田んぼには適していると近世の農書にもある。

②ヒエダは「水温の低い田んぼ」であろうか。自然の泉などは冷たいので、そうした水田を指しているのかもしれない。

冷田⇔稗田の交換はいつもあったのではないだろうか。

【平九郎田】

ヘイクロウダ。

飯沼南条の低位段丘上にあり、ホリジリ小字やヒバリダ小字に接している。

ヘイクロウは固有名詞で、ヘイクロウダとは「平九郎が所有する田んぼのあるところ」を意味する。

【赤ぎり】

アカギリ。

飯沼南条の国道153号線と竜西線の間にある。

アカギリとは何か。語源辞典に依りつつ二説を挙げる。

①アカは「赤土」のことか。キリ(伐)は「切り拓いた地」であろうか。アカギリとは「赤土の開墾地」をいうのかもしれない。

②アカ(垢)は「湿地」のこと、キリ(限)は「区切られた土地」をいう。従って、アカギリとは「区切られた土地で湿地になっているところ」か。区切られているのは、地形的なものか、それとも人為的なものかは、はっきりしない。

全国地図には、アカギリ地名は記載が無い。

【北田】

キタダ。

飯沼南条に二ヶ所ある。

キタダとは何を意味するのか。二説を

挙げておく。

①キタダとは「北の方にある田んぼ」であろうか。ただ何を基準にして北の方なのかがはっきりしない。ここでは栗沢川にしておきたい。

②キタ←キダと清音化した語で、キダハシ(階)で、「段差のある土地」であろうか。従って、キタダとは「段差のある田んぼがあるところ」となるが、果たしてどうであろうか。

全国地図にはキタダ地名は29カ所にあり、その全てに「北田」の字が宛てられている。

【榎木垣外】

マキギガイト。

飯沼南条の栗沢川が屈曲するところにある。

マキギガイトとは何か。はっきりはしないが、マキ(牧)・キ(柵)・ガイトで、「牧場の柵があつて屋敷跡になっている所」であろうか。

全国地図には、マキギガイト地名は載っていない。

【屋敷・屋敷畑】

ヤシキ・ヤシキバタ。

飯沼南条に、ヤシキ小字は三カ所、ヤシキバタ小字は一カ所ある。

ヤシキは「有力者の屋敷があつた所」で、ヤシキバタとは「屋敷があつたところで畑地になっている土地」をいうか。

全国地図には、ヤシキ地名は73カ所に中・大字として挙げられているが、ヤシキバタ地名は載っていない。

【いせや】

イセヤ。

飯沼南条の栗沢川の近くにある。

イセヤとは何か。これがよく分からない。三説を挙げておきたい。

①イセ←イソと転じた語で「小石まじりの土地」をいうか。ヤ(菴)は「湿地」

のこと(以上は語源辞典)。従ってイセヤとは「小石まじりの湿地」であろうか。

②イセヤは「伊勢屋」で、「伊勢から来た商人がいたところ」かもしれない。

③イセは「伊勢神社に関わること」で、ヤ(家)は「伊勢神社の関係者が住んでいたところ」かもしれない。少し離れているが、栗沢川の対岸には、シンメイ(神明)小字がある。

全国地図には、イセヤ地名は2カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「伊勢屋」の字が宛てられている。

【藪こし・藪添・藪ぞへ・藪かげ】

ヤブコシ・ヤブゾエ・ヤブカゲ。

これらの小字は飯沼南条にあり、栗沢川の北側にほぼかたまっている。

ヤブコシ・ヤブゾエはいずれも「藪に近い所」をいい、ヤブカゲは「藪の日蔭になっている所」を意味しているものと思われる。

これらヤブ小字群のヤブは単に「雑木・雑草などの密生している所」(広辞苑)ではなくて、手入れできないような事情のあるヤブであろう。それは「由緒のわからなくなった屋敷神などにちなむ」(語源辞典)場所で、そのヤブを荒らすと強い祟りがあると伝えられてきているところではないだろうか。したがって、そうしたヤブには手を入れることができないのでそのままになっている土地と考えられる。

全国地図には、ヤブソイ地名もヤブゾエ地名、ヤブコシ地名、ヤブカゲ地名などの記載は無い。伊那谷南部の特徴的な小字であろうか。

【中垣外】

ナカガイト。

飯沼南条の栗沢川左岸に三カ所がかたまっている。

ナカガイトとは「地域の中心となるよ

うな屋敷のあったところ」であろうか。近くにはヤシキ小字やヤシキマエ小字がある。

全国地図には、ナカガイト地名は12カ所に中・大字として挙げられている。

【さかい畑】

サカイバタ。

この小字は飯沼南条の栗沢川左岸にある。

サカイバタとは「境界地にある畑」を意味するか。境界とは別府との境界を示していると思われる。

全国地図には、サカイバタ地名は記載が無いが、サカイハタ地名は1カ所にあり、「境畑」の字になっている。

【横枕・横まくら】

ヨコマクラ。

これらの小字は飯沼南条の南部にある。近くの小字に比べて、やや大きな面積になっている。

ヨコマクラとは何か。分かりにくい地名になっている。ヨコマクラとは「縦に地割した土地で、横に長い枕状になっている所」であろうか。縦割にした、いくつかの区画を一つにした結果、横長になっているように見えるがどうであろうか。一つのヨコマクラ小字にはシンデン小字が接している。

全国地図には、ヨコマクラ地名は18カ所に中・大字として挙げられており、うち17カ所は「横枕」となっている。

【志ぶん】

シブン。長野縣町村字地名大鑑にはジブンとある。

飯沼の南条にあり、二カ所ともヨコマクラ小字に隣接している。

シブンはシブン（支分）で「こまかにわけること」をいう（国語大辞典）。

従って、このシブンも「地割をしたときの最小の区画地」を意味していると

思われる。新田の地割であったかもしれない。

全国地図には、シブン地名は2ヶ所にあるが、ジブン地名は載っていない。

【新田】

シンデン。

飯沼南条の南部にあり、ヨコマクラ・シブン・ミツダなどの小字に囲まれている。

新田は「新たに開墾した田地。特に江戸時代のものをいい、中世以前には墾田という」（広辞苑）である。

このシンデンとは「新たに開墾された田んぼ」をいうのであろう。近世の新田である。

【フジ本】

フジモト。

飯沼南条の南部で、ヤブ小字群が西側の高みにある。

フジモトとは何を意味するのか。これもよく分からない小字であるが、二説を挙げる。

①フジ=フシ（節）で「盛り上がったところ」をいい、モト（許）は「傍」はか（語源辞典）。すなわち、フジモトとは「微高地の傍の地」をいうのであろうか。

②フシにはフシ（不祀）で「神をまつらないこと」の意がある（国語大辞典）。従って、フジモトとは「神を祀らない場所の傍の地」をいうか。神を祀らない所というのは、ヤブを示しているか。祀らないが祟りをおそれる藪神の神域である。

全国地図には、フジモト地名は6カ所に中・大字として挙げられており、うち5カ所は「藤本」となっている。

【栗沢・栗澤】

クリサワ。

これらの小字は、栗沢川に沿って、四カ所にある。

クリサワとは何を意味するか。語源辞

典に依りながら、三説を挙げる。

①クリ（繰）＝クル（転）で、「曲流」をいう。クリサワとは「曲流する川」で、小字としてのクリサワは「栗沢川が流れている土地」をいうのであろうか。

②クリはクリ（礫）で、クリサワとは「川が流れている小石まじりの土地」をいうか。

③クリサワとは文字通り「栗が自生している沢があるところ」かもしれない。

全国地図には、クリサワ地名は5カ所の中・大字として挙げられており、うち3カ所に「栗沢」の字が宛てられている。

【洞頭・澤洞】

ホラガシラ・サワボラ。

これらの小字は、飯沼南条の南部、栗沢川左岸にある。

ホラガシラとは「小さな谷の奥」をいうのであろう。栗沢川に開口する小さな洞である。

サワボラは「流水のある小さな谷」であろうか。これも栗沢川に開口している。

全国地図にはホラガシラ地名もサワボラ地味も載っていない。

【ひび・ひび畑】

ヒビ・ヒビバタ。

これらの小字は、飯沼南条の栗沢川左岸にある。

ヒビはヒビ（罅）で「谷筋」の意もある（語源辞典）。従って、ヒビは「谷になっている傾斜地」で、ヒビバタは「傾斜地にある畑地」であろう。

全国地図には、ヒビバタ地名は無いが、ヒビ地名は2カ所の中・大字として挙げられている。

【松の木坂】

マツノキザカ。

飯沼南条の南部にあり、南側にはサワボラ小字が接している。

マツノキザカとは、字面の通りで「ア

カマツが自生している坂道がある所」をいうのであろう。

マツノキザカ地名は全国地図には記載が無い。

【三ツ田】

ミツダ。

飯沼南条の南部にあり、シンデン小字やヨツダ小字に接している。

ミツダとは何か。これが意外と難しい。二説を挙げておきたい。

①ミツダを字面の通りに解釈すれば、「三枚になっている田んぼがあるところ」になる。

②ミツとは「ミツイチ」を意味するか。すなわち、三分の一のことで、ミツダとは「地割で一区画を三分割した田んぼのある所」かもしれない。隣にシンデン小字があることから、可能性はありうる。

全国地図には、ミツダ地名は1カ所にだけ中・大字として採用されており、「三田」の字が宛てられている。

【四ツ田・よつ田・四ツ田所】

ヨツダ・ヨツダドコロ。

飯沼南条の南部にあり、「四ツ田」小字は三カ所になる。

ヨツダもヨツダドコロも同じことを意味しているのであろう。二説を挙げる。

①ヨツダとは「四枚の水田がある土地」をいうことがあるか。

②ヨツは「四分の一」を意味しており、ヨツダとは「地割のときに、一区画を四分割した土地にあるところ」を意味するか。

全国地図には、ヨツダ地名は記載が無い。

【柳田】

ヤナギダ。

飯沼南条の南部、田中八幡宮の南側にある。

ヤナギダとは何か。語源辞典に依りな

から二説を挙げる。

①ヤナギダとは、文字通りで「柳が自生している田んぼのあるところ」であろうか。

②ヤナには「斜面」の意もあり、ギ＝キで「場所」を示す接尾語である。従って、ヤナギダとは「田んぼのある斜面」になるか。

全国地図には、ヤナギダ地名は20カ所も中・大字として採られており、その全てに「柳田」の字が宛てられている。

【久保田】

クボタ。

飯沼南条のヤナギダ小字とシブン小字の間にある。

クボタは字面の通りで「田んぼのある窪地」をいうのであろう。

【道下】

ミチシタ。

飯沼南条のクボタ・ヤナギダ・シシバなどの小字に囲まれている。

ミチシタとは字面の通りで「道の下方にある土地」をいう。

ここでいう道とは、この小字の西端が接している道路で、小字発生時には重要な道路であったろうと思われる。いまの高屋線であらう。

【道休田】

ドウキュウダ。長野縣町村字地名大鑑ではミチヤスミダとなっている。

飯沼南条の田中八幡宮の西方、新戸川右岸にある。

ドウキュウダであれば、ドウキュウは固有名詞で「道休が所有している田んぼ」となるか。道休は僧侶名であらうか。とすれば、あるいは免租田になっていたかもしれない。

【残倉】

ノコリクラ。

飯沼南条の新戸川右岸にあり、田中八

幡宮境内の西端に接している。

ノコリクラとは文字通り、「残っていた倉庫のあった所」か。大部分の倉庫が新たに設置された場所に移動した後に、元に場所に残された倉庫があったところであらうか。

クラをクラ（座）として、八幡宮との関わりも考えられそうであるが、思いつかないので、採り上げないことにした。

ノコリクラ地名は全国地図には無い。

【森かけ】

モリカゲ。

飯沼南条の新戸川右岸にあり、田中八幡宮の境内と一部で重なっている。

モリ（森）は「神社などのある神域で、神霊の寄りつく樹木が高く群がり立つ所」（国語大辞典）で、カゲ（蔭）は「日蔭地」をいう。

以上から、モリカゲとは「（田中八幡宮の）神域で樹木が群がり立ち、日蔭地になっているところ」をいうのであろう。

全国地図には、モリカゲ地名は2カ所に中・大字として挙げられている。

【木めこし】

コメコシまたはキメコシ。長野縣町村字地名大鑑にはコノコシになっている。

この小字は飯沼の田中八幡宮の境内に接している。

コメコシとは何か。コメ←クメ（供米）と転じたもの。ウ段からウ段への変化は各時代にわたって極めて多いという（国語学大辞典）。コシ（越）は「付近」の意（語源辞典）。以上から、コメコシとは「（八幡宮に）供える米を作っていた所の付近」を意味するものと思われる。供米田があったのは隣のダイモン小字の地か。

キメコシであれば、キメ（割目）・コシ（漉）であらうか（語源辞典）。すなわち、キメコシとは「隙間があって泉が湧き出ているところ」か。お宮の近くで、そん

なところがあったのかもしれない。

全国地図には、コメコシ地名もキメコシ地名も記載が無い。

【大門】

ダイモン。

飯沼の田中八幡宮にある。

ダイモンとは「参道のあるところ」をいう（語源辞典）。八幡宮の参道である。一般には寺院の総門をいうが、該当しそうな寺院は無い。

全国地図の中・大字には、ダイモン地名は93カ所もあり、うち90カ所で「大門」の字が宛てられている。

【北浦】

キタウラ。

飯沼南条の田中八幡宮の南側にある。

キタウラとは「北部にある流水際の土地」をいうのであろう。北部というのは、南条の北部を示していると思われる。

全国地図には、キタウラ地名は中・大字として49カ所にあり、うち44カ所で「北浦」となっている。

【溝畑】

ミゾバタ。

飯沼南条にあり、北側の一部を八幡宮に接している。

ミゾは「地を細長く掘って水を流す所」（広辞苑）で、バタはハタ（端）か。以上から、ミゾバタとは「傍を井水が流れている土地」をいうか。

この小字の南北の両端を井水が通っている。

【をとぶり畑】

オトブリバタ。

飯沼南条のキタウラ小字の南隣にある、小さな小字である。

オトブリバとは何か。分からない小字であるが、二説を挙げておく。

①オトは動詞オトス（落）の語幹で「傾斜地」をいい、ブリ＝フルで動詞フルフ

（震）の語幹から「崩れ地」をいう（以上は語源辞典）。オトブリバタとは「崩れ地がある傾斜地の畑」か。しかし、それほど傾斜地とも思えない。

②オトブリバタはオト（音）・ブリ（振）・ハタ（畑）で、「川音の聞こえる畑」かもしれない。南の方に栗沢川が流れているが、その川音がこの地で小字名になるかどうか。

その他で、正解があると思われるが、気づかないでいる。

むろん全国地図にはオトブリバタ地名は載っていない。

【つか畑】

ツカバタ。

飯沼南条の栗沢川の北方にある。

ツカバタとは「端に拾い上げた石を積み上げた畑」であろうか。開墾時に拾い上げ、さらに少しずつ拾っては積んだ石積みであろうか。

全国地図には、ツカバタ地名は無い。

【むかへ畑】

ムカエバタ。

飯沼南条の栗沢川の北方、キタウラ小字の南隣にある。

ムカエバタとは「向こう側にある畑」を意味するものと思われる。向側とは北側の低地を隔てた田中八幡宮から見たものか、あるいは南側の栗沢川を隔てた別府地区から見たものか、そのどちらかである。ここでは、八幡宮からみたムカエバタにしておきたい。

全国地図には、ムカイバタ地名は5カ所にあるが、ムカエバタ地名は記載が無い。

【井ド坂】

イドザカ。

飯沼南条の栗沢川左岸にある。

イドザカはイ（井）・ド（処）・サカ（坂）で「坂道で井水が流れている所」をいう。

全国地図には、イドザカ地名は記載されていない。

【とぐ】

トグ。

この小字は、飯沼南条の栗沢川左岸にある。

トグとは何か。二説を挙げる。

①トグ←トコと転じた語で「高くなった所」をいう（語源辞典）。従って、トグとは「微高地になっている土地」をいうか。

②トグは動詞トグ（研）の終止形か。つまり、トグとは「研師の住んでいた場所」かもしれない。金属製品を研ぐことを仕事にしていたと思われるが、田作りも兼ねていたのであろうか。隣にはキュウスケヤシキ小字がある。

全国地図にはトグ地名は載っていない。

【九助屋敷】

キュウスケヤシキ。

飯沼南条の最南部の栗沢川左岸にある。

キュウスケは固有名詞。キュウスケヤシキとは「久助の屋敷があったところ」をいうのであろう。

【平畑】

ヒラバタ。

飯沼南条の栗沢川左岸にある。現在は住宅地になっている小さな小字である。

ヒラは「傾斜地」か。すなわち、ヒラバタとは「緩傾斜地で畑になっている土地」をいうか。

全国地図には、ヒラバタ地名は4カ所に挙げられており、その全てに「平畑」の字が宛てられている。

【ヒへ畑】

ヒエバタ。

飯沼南条南部の小さな小字である。

ヒエバタとは何か。二説を挙げたい。

①ヒエは動詞ヒウ（轟）の連用形が名詞化した語で、「崖」の意（語源辞典）。従って、ヒエバタとは「崖のある畑」をい

うのであろうか。

②ヒエはヒエ（稗）で、ヒエバタとは「稗を栽培していた畑」と思われる。

全国地図には、ヒエバタ地名は2カ所に中・大字として記載がある。

【高田】

タカダ。

飯沼南条の南部にある小さな小字である。

タカダとは「土地の高いところにつくられた田」（国語大辞典）であろう。

全国地図にはタカダ地名は多く、中・大字として109カ所に挙げられており、うち107カ所が「高田」になっている。

【木ノ根畑】

キノネバタ。

飯沼南条の南部にあり、タカダ小字に隣接している。

キノネバタとは何か。キはサキ（崎）の略で、ネは「麓」か（以上は語源辞典）。従って、キノネバタとは「段丘先端部の麓にある畑地」をいうのであろうか。

全国地図には、キノネバタ地名は載っていない。

【松葉】

マツバ。

飯沼南条の田中八幡宮の東方に2ヶ所あり、西端はダイモン小字に接している。

マツバとは何か。分かりにくい小字である。二説を挙げたい。

①マツバ←マトバ（的場）と転訛した語（長野縣の地名その由来）か。オ段からウ段への変化は各時代に渡ってきわめて多いという（国語学大辞典）。以上から、マツバとは「弓神事が行われた場所」であろうか。田中八幡宮の神事であったと思われる。流鏝馬であったか歩射であったかは不明。因みに鎌倉の鶴岡八幡宮は流鏝馬で知られている。近くにヤオチ小字があるので傍証となるであろう。

②マツバとはマツバ(松場)で、単に「赤松が自生している場所」であるかもしれない。

全国地図には、マツバ地名は40カ所中で中・大字として挙げられており、うち31カ所に「松葉」、7カ所に「松場」の字が宛てられている。

【ひろには】

ヒロニワ。

この小字は飯沼南条のマツバ小字に囲まれている。

ヒロニワは「広場」の意で水窪の方言であるという(国語大辞典)。従って、ヒロニワとは「広場になっていたところ」を意味する。田中八幡宮の弓神事を行う的場の一部であったと思われる。

全国地図には、ヒロニワ地名は中・大字として2ヶ所に挙げられており、いずれも「広庭」となっている。

【やおち】

ヤオチ。

飯沼南条のダイモン小字とマツバ小字に挟まれている。

ヤオチ(矢落)は「的の下の、射た矢の落ちる所」(国語大辞典)だから、的場の一部になっていたところであろう。従って、ヤオチとは「弓神事での的の付近の地」をいうのであろう。田中八幡宮の弓神事が行われた場所と思われる。

全国地図には、ヤオチ地名は2カ所に中・大字として挙げられており、「矢落」の字が宛てられている。

【畑田】

ハタダ。

飯沼南条のモリカゲ小字とダイモン小字の間にある。

ハタダとは何か。二説を挙げたい。

①ハタダはハタ(端)・ダ(処)で「(お宮の)縁辺になっている所」であろうか。お宮は田中八幡宮である。

②ハタダはハ(端)・タ(処)・ダ(田)で「(お宮の)傍にある田んぼ」かもしれない。

全国地図には、ハタダ地名は12カ所に中・大字として挙げられており、うち11カ所が「畑田」になっている。

【清水尻】

シミズジリ。

飯沼南条のモリカゲ小字の東隣にある小さな小字である。

シミズジリとは「自然の湧水のある末端部」をいう。

全国地図には、シミズジリ地名は中・大字として5カ所に挙げられている。

【石原】

イシハラ。

飯沼南条で新戸川とそこに合流する井水に二面で接している。

イシハラとは「小石まじりの平坦地」を意味するのであろう。

【法福】

ノリブクあるいはハウフクか。

飯沼南条の新戸川右岸の沿岸にあり、西側にはビクニバタ小字が接している。

ハウフクとかノリブクは何を意味しているのであろうか。二説を挙げる。

①ハウフクはハウフク(法服)＝ハウエ(法衣)で「僧尼の着る衣服」のこと(国語大辞典)。従って、ハウフクとは「その収穫物を法衣など寺院の賄いに当てる費用にする水田」であろうか。ビクニバタ小字が隣接していることが傍証となるか。②ではノリブクとは何か。ノリ←ネリと転じた語で「湿地」のこと、ブク＝フクで動詞フクル(脹)の語幹で「(河流の)脹らんだ所」をいう(以上は語源辞典)。従って、ノリブクとは「川が脹らんで曲流している湿地」をいうのかもしれない。

全国地図にはハウフク地名は1カ所が中・大字として挙げられており、「方福」

の字が宛てられているが、ノリブク地名は載っていない。

【水かさ】

ミズカサ。

飯沼南条の新戸川右岸に二カ所ある。

ミズカサとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ミズは「川」のこと、カサはカ（上）・サ（接続詞で「場所」）をいう。従って、ミズカサとは「川の上の方にある土地」をいうか。川は新戸川をいう。

②ミズは「湿地」をいい、カサ（嵩）は「高み」か。すなわち、ミズカサとは「湿地の上の方の高み」を意味するか。

全国地図には、ミズカサ地名は無い。

【鳥居前】

トリイマエ。

飯沼南条の田中八幡宮の東方にある。

トリイマエとは「(田中八幡宮の)鳥居の前の方にある土地」をいうのであろう。

全国地図には、トリイマエ地名は中・大字として3カ所が挙げられている。

【いんでん】

インデン。

飯沼南条の田中八幡宮の東方に二カ所あり、大きい方はミズカサ・マツバ・トリイマエなどの小字に囲まれている。

インデン＝オンデン（隠田）で「中世・近世に、国家や領主に隠して租税を納めない田地」（広辞苑）をいう。幕府には知られない飯田藩のオンデンもあったという（上郷史）。

全国地図にはインデン地名は1カ所に中・大字として挙げられているだけで、宛てられている字も「印田」となっており、オンデン地名は一つも無い。

【ふか田】

フカダ。

飯沼南条のマツバ小字の東隣にある。

フカダは沼田のことで「泥の深い田」

をいう（広辞苑）。自然の湧水がある田んぼだったのであろう。

全国地図には、フカダ地名は15カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「深田」が宛てられている。

【なりせる】

ナリセル。

飯沼南条の南部で、栗沢川左岸にある。

ナリセルとは何か。二説を挙げる。

①ナリは動詞ナル（鳴）の連用形が名詞化した語（語源辞典）で「川音の響くところ」か。セルは動詞セル（迫）の連用形で「迫っているところ」をいうのであろうか。以上から、ナリセルとは「川音が響き、段丘先端部が迫っている場所」をいうか。

②ナリ←ナル（平）の転で「緩傾斜地」をいい、セルはセ（瀬）・ル（「場所」の接尾語）のこと（以上は語源辞典）。従って、ナリセルとは、「流水のある緩傾斜地」をいうか。流水とは栗沢川を指す。

全国地図には、ナリセル地名は記載されていない。

【なりわる】

ナリワル。

飯沼南条の東部にあり、新戸川右岸になる。

ナリワルとは何を意味するのか。ナリはナル（鳴）の連用形で、ワ（曲）は「川の曲がりくねったあたり」をいい、ルは漠然とした「場所」を示す（以上は語源辞典）。従ってナリワルとは「川音が響く、川の曲がりくねったあたりの土地」をいうのであろうか。川は新戸川である。

全国地図には、ナリワル地名は載っていない。

【山崎】

ヤマザキ。

飯沼南条の南部で、栗沢川左岸にある。

ヤマザキとは「段丘の先端部の土地」

をいうのであろう。

ありふれた地名で、全国地図にも中大字として125カ所も挙げられていおり、うち122カ所が「山崎」になっている。

【瓜籠】

ウリカゴ。

飯沼南条の東部、新戸川と栗沢川の間、二ヶ所ある。

ウリカゴとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ウリ←ウルヒ（潤）で「湿地」をいい、カゴはカコが濁音化した語で「崩崖」のこと。以上から、ウリカゴとは「崩崖にある湿地」をいうのであろうか。

②ウリはウレ（末）の転じた語で「先端部」をいう。すなわち、ウリカゴとは「段丘の先端部で崩崖のある土地」を意味するか。

全国地図には、ウリカゴ地名は記載が無い。

【ひっそり】

ヒッソリ。

飯沼南条南部の新戸川と桐沢川の間にある。細長い池が隣接している。

ヒッソリ←ヒソリと促音便化した語であらうか。ヒソリとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①ヒソは汚れや垢をいい、「湿地」を意味しており、リは「場所」を示す接尾語か（語源辞典）。以上から、ヒソリとは「湿地になっている土地」を意味するか。

②ヒソには「細い角材」や「丸太」の意がある（国語大辞典）。屋根を草で葺くときなどの骨組みなどに使われたという。ヒソリとは「細い角材や丸太などの集積場があった所」かもしれない。

全国地図にはヒッソリ地名は2カ所に中・大字として挙げられている。いずれも上伊那に地名である。

【ぼた下】

ボタシタ。

飯沼南条の南部にある。ヒッソリ小字の東隣になる。

ボタは下伊那・愛知県北設楽の方言で「田畑の畦」をいう（国語大辞典）。従って、ボgタシタとは「田んぼの畦の下の方にある土地」をいうのであろう。

全国地図にはボタシタ地名は無いが、伊那谷南部には多い。この地方の特徴的な小字であらう。

【そふ志ん】

ソウシン。

飯沼南条の二つのマツバ小字に挟まれている。

ソウシンとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①ソウはソウ（惣）で「中世、農民の自治組織」（国語大辞典）で、シン（心。芯）で「中心になる場所」をいうか。以上から、ソウシンとは「農民の自治組織である惣の中心部になっていた場所」であらうか。田中八幡宮に関わるマツバ地名の中にあることも頷ける。

②ソウはソフ（添）から転じた語（語源辞典）で、シン（神）は「神霊」をいう（国語大辞典）。すなわち、ソウシンとは「神霊に添う土地」すなわち神聖な土地をいうのかもしれない。

全国地図には、ソウシン地名は2カ所に、中・大字として挙げられている。

【竹ノ内】

タケノウチ。

飯沼南条の南部で、新戸川右岸の沿岸にある。

タケノウチとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①タケノウチは「窪地」のこと。従って、タケノウチとは「窪地になっている所」を意味する。新戸川添いでやや低地になっているのであろう。

②タケノウチは「豪族屋敷跡を示す」ともいう。つまり、タケノウチとは「有力者の屋敷があった所」ともとれる。

全国地図にはタケノウチ地名は、中・大字として105カ所に挙げられている。

【新戸川端】

シントガワバタ。

飯沼南条の南部、新戸川右岸の沿岸にある。

シントガワバタとは、字面の通りで「新戸川添いの細長い土地」をいう。

【鎌田】

カマタ。

飯沼南条の低位段丘面にあるシントガワバタ小字に接している。

カマタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カマタとはカマ(釜)・タ(処)で、「えぐられたような崖地があったところ」をいうのであろうか。

②カマには「泉」の意もある。岐阜の方言であるという。すなわち、カマタとは「自然の湧水のあるところ」をいうか。

全国地図には、カマタ地名は28カ所の中・大字として挙げられている。

【びく田】

ビクタ。

飯沼南条の南部にある。新戸川の右岸になる。

ビクタとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①ビクはビク(比丘)で「仏門に帰依して具足戒を受けた男子。修行僧」(広辞苑)をいう。従って、ビクタとは「僧侶の所有田」をいうか。免租地となっている寺田であろう。

②ビク←ヒク(低)と濁音化した語で「低湿地」をいう(語源辞典)。すなわち、ビクタとは「低湿地にある田んぼ」を意味しているかもしれない。

前項地図には、ビクタ地名は記載が無い。

【川原端】

カワラバタ。

飯沼南条の南部、栗沢川左岸にある。

カワラバタとは「川原の傍にある土地」をいう。川原とは栗沢川の川原を指す。

【た巴志ろ】

タワシロ。

飯沼南条のヤマザキ小字の東隣にある。段丘から氾濫原に降りる付近にある。

タワシロとはタワ(撓)・シロ(田地)で、「撓んだような地形になっている田地」だろうか。

もっと適切な解釈がありそうだが、思いつかない。

全国地図には、タワシロ地名は1カ所にだけ中・大字として挙げられており、「田代」の字が宛てられている。

【川原田】

カワラダ。

飯沼南条南部の氾濫原にある大きな小字である。

新戸川が天竜川に合流する地点にあり、カワラダとは「川原にある土地」を意味するが、どちらの川の川原なのかは決められないのではないだろうか。

【なさか】

ナサカ。

飯沼南条の南部で新戸川右岸にある。

ナサカとは何か。分かりにくい地名であるが、語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ナスはナル(鳴)の古形ナスと関係し「音響のする所」をいい、カは「処」のこと。以上から、ナサカとは「川音の響くところ」を意味するか。

②ナサ←ナザと清音化したもので「崩壊地」をいう。すなわち、ナサカとは「崩れ地のあるところ」をいうのかもしれない。

い。

全国地図には、ナサカ地名は3カ所にあり、いずれも「名坂」の字が宛てられている。

【下川原】

シモカワラ。

飯沼の天竜川氾濫原で新戸川が合流する地点の北側にある。

シモカワラとは「下の方にある川原」を意味すると思われるが、どこに対して“下の方”なのかははっきりしていない。下流側にあるカワラダ小字は氾濫原の上の段丘にもかかっているの、このカワラダに対してシモと表現したことも考えられる。

全国地図には、シモカワラ地名は中・大字として33カ所が挙げられている。

【澤】

サワ。

別府の最北部で、栗沢川右岸にある。

サワは「比較的小さな谷川の流れている土地」をいう。

全国地図には、サワ地名は61カ所に中・大字として挙げられている。

【高屋・高屋下】

タカヤ・タカヤシタ。

別府北部のサワ小字の南側にある。

タカヤはタカヤ（鷹屋）であろうか。「鷹狩りの小屋があった所」(上郷地名考)をいうのであろう。さらに「人や鷹の姿が見えると鳥が逃げるので、小屋をかけて小屋の中から様子を伺って鷹をしかけた」とある。禁猟区になっていて、飯田藩の殿様と上級家臣の狩猟区であったという。

以上から、タカヤシタとは「鷹狩りの小屋があったところより下方の土地」を意味しているものと思われる。

全国地図には、タカヤ地名は44カ所に中・大字として記載があり、うち28

カ所が「高屋」となっているが、「鷹屋」は無い。

【岡見】

オカミ。

別府最北部の栗沢川右岸の沿岸にある。

オカミとは何か。三説を念のため。

①オカミはオカミ（霽）で「水の神。雨雪をつかさどる神」(広辞苑)で、サンショウウオかイモリをいうこともある(風土記注記)という。雨乞などに関わる神であったらうか。以上から、オカミとは「水神を祀った土地」であろうか。

②オカミは、文字通りで、オカ(丘)・ミ(辺)で「丘の周辺部の土地」を意味するか。

③オカミ(岡見)は「大晦日の夜、蓑をさかさに着て岡に上がり、わが家の方を望んで来年の吉凶を占うこと」(広辞苑)だという。従って、オカミとは「大晦日の夜、岡に上って来年の吉凶を占った場所」かもしれない。

全国地図には、オカミ地名は11カ所に中・大字として挙げられており、うち3カ所は「岡見」、4カ所に「男神・尾神・夫神」の字を宛てている。

【山崎】

ヤマザキ。

別府の北部に二ヶ所ある小字で、同名の小字が栗沢川の向こう側である飯沼にもある。

ヤマザキとは「段丘の先端部の土地」をいうのであろう。

【三反田・三段田】

サンタンダ。

別府北部にあり、二つは接している。

サンタンダとは「三反の面積のあった田んぼ」を意味する。

この場合、「三段田」小字は分筆の時に、「三反田」小字から分けられたために名づけられたのかもしれない。

【御代崎】

ミヨザキ。

別府の北部にある非常に大きな小字で、周辺にはタカヤ・トヤバなどの鷹狩関係の小字がある。

ミヨザキとは何を意味するのか。国語大辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ミヨには「溝」の意がある。従って、ミヨザキとは、「複数の井水が流れている段丘の先端部」を意味するか。

②ミヨには「大水で溢れた河水で土の掘り取られた跡が残っている所」という意味もある。すなわち、ミヨザキとは、「大水で掘られた跡が残っている段丘の先端部」かもしれない。

全国地図には、ミヨザキ地名もミヨサキ地名も記録は無い。

【初崎】

ハツザキ。

別府の天竜川氾濫原にある。

ハツザキとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ハツはハツ（果）で、「終端の地」をいう。ハツザキとは「井水などの流水の末端部になる土地」をいうのであろうか。井水は天竜川に合流して、その使命を終える。

②ハツは動詞ハツル（削）の語幹で「崩崖」の意もある。すなわち、ハツザキとは「崩崖のある段丘崖のあるところ」をいうか。

全国地図には、ハツザキ地名は3カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「初崎」の字が宛てられている。

【佃】

ツクダ。

別府の氾濫原の上の低位段丘面に、二ヶ所ある小さな小字であり、いずれもミヨザキ小字に囲まれている。

ツクダとは何か。語源辞典に依りなが

ら二説を挙げる。

①ツクダはツク（ツキ）・ダ（処）で、ツキは「突出した所」で「台地」をいう。従って、ツクダとは「段丘上にある土地」をいうのであろうか。

②ツクにはツク（尽）と関連して「台地の端の崖」の意もある。従って、ツクダとは「段丘先端の崖があるところ」となる。

二ヶ所のツクダが二つの解釈に添っているように思えるがどうであろうか。

全国地図には、ツクダ地名は14カ所に中・大字として採られており、うち9カ所が「佃」となっている。

【菜摘垣外】

ナツミガイト。

別府の低位段丘面にある小さな小字である。

ナツミガイトとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①ナツミは動詞ナヅム（泥）の連用形が清音化した語で、「湿地」をいう。つまり、ナツミガイトとは「湧水のある屋敷跡」をういか。

②ナツミはナ（接頭語）・ツミ（積）で「高くなったところ」をいう。ナは単なる接頭語か。以上から、ナツミガイトとは「少し高くなっている屋敷跡」か。

全国地図には、ナツミ地名は3カ所にあるが、ナツミガイト地名は記載されていない。

【半中田】

ハンナカダ。

天竜川氾濫原からその上の段丘に上る段丘崖の裾部分にある。

ハンナカダとは何を意味するのか。語源辞典などに依りながら、二説を挙げたい。

①ハンハナ（端）の転訛した語で、「氾濫原の端、すなわち氾濫原から段丘崖へ

上るところ」をいうか。ナカダは「中稲を植えてある田」（国語大辞典）をいう。以上からハンナカダとは「段丘崖の麓で、中稲（なかて）を栽培していた田んぼのあるところ」をいうか。

②ハンハはハマなどの転じた語で「水際に沿った平地」をいう。ナカダはナガ（長）・タ（田）で「細長い田んぼ」か。合わせて、ハンナガタとは「井水が流れている平地にある細長い田んぼ」をいうのかもしれない。

なお①と②を半分ずつに分けて入れ替えた解釈も成り立つ。これを合わせると、四説になる。

全国地図には、ハンナカダ地名もナンナカタ地名も記載は無い。

【鍵田】

カギダ。

別府の東部にある。

カギダは「鍵状に曲がった地形になっている所」（語源辞典）をいうのであろう。ダ＝タ（処）である。

伊那谷南部には数カ所あるが、全国地図には、カギダ地名もカギタ地名も記載されていない。

【掘口】

ホリグチ。

別府のミヨザキ小字とハツザキ小字に囲まれた、大きな小字である。

ホリ（堀）は「地を細長く掘り、水を通したもの」で、ホリグチ（掘口）は「堀の水の流れ出る口、または流れ入る口」をいう（以上は広辞苑）。

従って、ホリグチとは「井水の水の出口や入口のある土地」を意味するのであろう。

全国地図には、ホリグチ地名は18カ所に中・大字として挙げられており、いずれも「堀口」の字が宛てられている。

【合田】

アイダ。長野縣町村字地名大鑑はアワセダとなっている。

別府の低位段丘面にある小さな小字である。

アイダ、アワセダは何を意味するのか。アイダについては二説を挙げる。

①アイダはアイ（藍）・ダ（処）で「藍を栽培していたところ」であろうか。藍染めが盛んであった上郷だから、この解釈も可能であろう。

②アイダはアイ（合）・ダ（処）で、「二本の井水が合流しているところ」の意か。

アワセダとはアイダの②と同じ解釈であろうか。

全国地図には、アイダ地名は14カ所に中・大字として採られているが、アワセダ地名は記載が無い。

【掘口竹田】

ホリグチタケダ。

別府の段丘面にあり、アイダ小字の下流側になる。

タケダ←タカ（高）・ダ（処）と転じた語であろうか。すなわち、ホリグチタケダとは「井水の出入り口のある小高い土地」か。

【表田】

オモテダ。長野縣町村字地名大鑑はタワラダになっている。

別府の低位段丘面にあり、ホリグチ小字の三方を囲まれている小さな小字である。

オモテダとは何か。オモテは「(何かの)正面」をいい、ダは「処」か（語源辞典）。何の正面であるのか迷うところであるが、道路には接しているが主要な道ろではなさそうなので、道路ではないだろう。とすれば、天竜川であろうか。正面に天竜川が見える場所である。以上から、オモテダとは「正面に天竜川がある土地」をいうのであろうか。

タワラダであればどうか。二説をあげたい。①タは単に語調を整える接頭語で、ハラ（原）は「平地」をう（語源辞典）。従って、タワラダとは「平坦な土地」となるが、どうであろうか。②タワラダとは「米俵のような形をした土地」かもしれない。

全国地図には、オモテダ地名は記載が無いが、タワラダ地名は4カ所に中・大字として記載があり、うち3カ所には「俵田」の字が宛てられている。

【大三角田・小三角田】

オオサンカクダ・コサンカクダ。

これらの小字は、別府にあり、天竜川氾濫原の上の段丘先端部になっている。

オサンカクダとは「大きな三角形の形をした田んぼ」をいうか。コサンカクダ（小三角田）小字もあるが、これは小字図の⑩と⑪の間に入ってしまい、場所を示すことはできないが、「小三角田」に対応する「大三角田」であろう。

全国地図には、オオサンカクダ地名は載っていない。

【五反田・八反田・下八反田】

ゴタンダ・ハッタンダ・シモハッタンダ。

いずれも別府の松川が天竜川の合流する地点にある。

それぞれが、小字名成立当時の面積を示していると思われる。

ハタンダは四カ所ほどにあり、小字成立後に分断されるなどの変遷があったと思われる。

シモハッタンダも二ヶ所にあり、「八反田小字の下流側にある土地」をいうのであろう。

【長田】

ナガタ。

別府の松川が天竜川に合流するところの岬にある。

ナガタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①ナガタはナガ（長）・タ（処）で、「長く伸びた地形になっているところ」をいう。

②ナガタとは「竜神を祀っていたところ」も考えられる。スイジン小字に隣り合っている。竜神は「水神信仰・蛇の信仰に中国から渡来した竜宮・竜神信仰が照合した信仰の神」（仏教民俗辞典）であるという。洪水時には竜神に頼ったのであろうか。

全国地図には、ナガタ地名は108カ所も中・大字として挙げられており、うち55カ所に「長田」、47カ所に「永田」の字が宛てられている。

【兼田】

カネダ。

松川が天竜川に合流する岬に二ヶ所ある。

カネダとは何を意味しているのか。二説を挙げる。

①カネはカネル（兼）の語幹で「合わせる」の意（語源辞典）。すなわち、カネダとは「何枚かの田んぼを合わせた土地」をいうのであろうか。

②カネは、お歯黒の色をいうのかもしれない。つまり、カネダとは「お歯黒の色をした田んぼ」ということになるが、どうであろうか。泥田であったのだろうか。

全国地図には、カネダ地名は15カ所にあり、うち11カ所に「金田」、4カ所に「兼田」が宛てられている。

【小手抜】

コデヌキ。

松川天竜川合流点に突き出た岬に三カ所ある。

コデヌキとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①コデはクテの転じた語で「湿地」をい

い、ヌキは動詞ヌク（抜）の連用形が名詞化した語。以上から、コデヌキとは「湿地で崩れ地のある土地」をいうのであろうか。

②ヌキはヌ（沼）・キ（接尾語）で、コデヌキとは同義反復の形で「湧水のある湿地」をいうのであろうか。

全国地図には、コデヌキ地名もコテヌキ地名も記載されていない。

【垣外】

カイト。

別府の天竜川氾濫原の上の段丘先端部にあり、コデヌキ小字とコサンカクダ小字の間になる。

カイトは「屋敷のあったところ」と思われる。遠見を兼ねていたのであろうか。

【水田】

ミズタ。

別府の低位段丘面に二ヶ所ある。

ミズタとは「水の多い土地の田」（国語大辞典）をいう。あるいは、単に「水の多い土地」かもしれない。

全国地図には、ミズタ地名は5カ所にあり、いずれも「水田」となっている。

【角田】

カクダ。

松川が天竜川に合流する岬にあり、ハッタダ小字に囲まれている。

カクダとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カクダ←スミ（澄）・ダ（処）の転じた語で「泉」をいう。すなわち、カクダとは「自然の湧水のある土地」をいうか。

②カクは動詞カクス（隠）の語幹で「隠れ地」をいうか。カクダとは「租税のがれの隠れ地」であったところをいうのであろうか。

全国地図には、カクダ地名は2カ所にあり、いずれも「角田」となっている。

【大田・太田】

オオタ。

松川が天竜川に合流する地点の先端部に、「大田」小字が二カ所、「太田」小字が一カ所ある。そのうちの二ヶ所は、現在畑になっているが、一カ所は水田である。

オオタとは何を意味するのか。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①オオタは文字通りで「大きな田（土地）」をいうか。

②オオタ←アブ・タ（処）と転じた語で、オオタとは「崩れ地のあるところ」をいうのかもしれない。

全国地図には、オオタ地名は162カ所も中・大字として挙げられており、うち121カ所に「太田」、38カ所に「大田」の字が宛てられている。

【渡場・下渡場】

トバ・シモトバ。

松川・天竜川合流点の岬に、トバ小字が四カ所、シモトバ小字が一カ所ある。

トバ＝ドバ（土場）で、トバとは「川を流し下す材木の受渡しをする場所」（国語大辞典）をいう。飯田などの方言であるという。伊那谷南部の特徴的な小字であろう。

シモトバは「トバ小字の下流側の土地」をいう。シモトバ小字の下流側にもトバ小字はあるが、これは新たに設置された渡場であろうか。材木の需要が増えたためか。

トバ地名は、全国地図に13カ所あるが、うち7カ所が「鳥羽」で、3カ所が「戸羽」となっている。

【下田】

シモダ。

松川・天竜川合流点の岬の先端部にあり。

シモダとは「下流側にある土地」を意味するが、漠然と「下流の方」というこ

となのか、それとも「水神小字の下流の方」をいうのか、はっきりはしない。

【桑原田】

クワバラダ。

天竜川に松川が合流する岬に二ヶ所あるが、かつては繋がっていたと思われる。

クワバラダとは何か。菅原道真に関わる地名とは考えにくい。そこで二説を挙げる。

①クワバラダとは、字面の通りで「桑の樹を植えた畑」(広辞苑)であったのであろうか。

②クワとクエ(崩)と同系統の語で「崖」をいう(語源辞典)。ハラ(原)は「平らで広く、多く草などが生えた土地」(広辞苑)をいう。特に耕作していない平地をいうらしい。以上から、クワバラダとは「崩れ地のある野原だった所」か。

全国地図には、クワハラダ地名は無いが、クワバラダ地名は中・大字として1カ所にだけ記載がある。

【町張・下町張】

マチハリ・シモマチハリ。

松川・天竜川合流点の岬にある。

マチハリとは何か。二説を挙げる。

①マチは「水田」で、ハリはハリ(墾)で「開墾地」をいう。従って、マチハリとは「中世に開墾された田」(以上は長野県の地名その由来)をいうのであろうか。

②マチ(町)は「建物が集まっている所」をいい、ハリはハ(端)・リ(「場所」を表す接尾語)のこと(以上は語源辞典)。以上から、マチハリとは「建物が多いた所の傍の土地」をいうか。

シモマチハリは「マチハリ小字の下流側にある土地」を意味する。

【水神】

スイジン。

松川・天竜川の合流点岬にあり、ドバ小字とナガタ小字に挟まれている。

スイジンとは「水を司る水神を祀っているところ」をいう。満水時の水害の被害を最小限にとどめるように願っているのであろう。

全国地図には、スイジン地名は7カ所の中に中・大字として挙げられている。

【水神大縄場・町張大縄場・太田大縄場】

スイジンオオナワバ・マチハリオオナワバ・オオタオオナワバ。

いずれも、松川が天竜川に合流する岬にある。

オオナワバは「江戸時代、新田開発後正規の検地を受けて新田年貢を課されるようになるまでの期間、低率の見込年貢を徴される田畑」(国語大辞典)をいう。従って、オオナワバとは「新田で見込年貢が課されている見取場のある土地」か。

スイジンオオナワバとは「スイジン小字に近い大縄場」であり、マチハリオオナワバもオオタオオナワバも同様であろう。

【三畝町田】

ミセマチダ。

松川・天竜川合流点の岬にある。

メセマチダかサンセマチダか。

ミセマチダとは何か。マチダ(町田)は「区画によって区分された田。区分された特別の田。神領の田」(国語大辞典)であるという。そこで二説を挙げておきたい。

①ミセマチダとは、単に「三畝に区分された田んぼ(ところ)のある土地」か。面積にしたのは字面に従ったが、この方が分かりやすいと判断した。

②ミセマチダとは「三畝の面積があるお宮の所有地」か。当然ながら、免租地であろう。お宮は「チゴノ宮」のことであろうか。

全国地図には、ミセマチダ地名は記載が無い。

【二ツ田】

フタツダ。

松川と天竜川の合流点にある。

フタツダとは何を意味しているのか。二説を挙げる。

①フタツダとは「二枚の田畑になっている所」をいうか。一区画を二枚にしたか、地形の関係で二枚にしたか。

②フタツダとは「分割された一区画の半分の田畑」をいうのかもしれない。

全国地図にはフタツダ地名は1カ所だけに中・大字として挙げられており、「二ツ田」の字になっている。

【前田・前畑】

マエダ・マエバタ。

いずれも、松川・天竜川の合流点にある。

マエダとは「前の方にある土地(水田)」で、マエバタとは「前の方にある畑」であろう。マエとは、この地域の中心地であるヤザキ小字をいうのか、それともヤクシ小字であろうか。

【婦人田】

フシクタ。

天竜川への合流点に近い松川左岸にある。

フシクタとは何か。国語大辞典に依りながら二説を挙げる。

①フシン(普請)には「禅宗の寺で多くの人々に請い、労役に従事してもらうこと」という意がある。フシクタとは「そこから上がる米を禅寺の普請の費用に宛てる田んぼ」をいうのであろうか。寺田の一種か。

②フシクタ←フジン(夫人)・タ(田)と清音化した語で、フジンは「貴人の妻」をいう。従って、フシクタとは「貴人の妻の所有田」か。貴人は飯田藩主か上級家臣であろうか。

全国地図には、フシクタ地名もフジン

タ地名も記載は無い。

【矢崎】

ヤザキ。

別府の天竜川の合流点に近い松川の右岸の二カ所にある。

ヤザキとは何か。二説を挙げる。

①ヤザキとは字面の通りで、「矢のように尖った岬になっている土地」をいうのであろうか。

②ヤ(菴)・サキ(崎)で、「自然の湧水のある岬」をいうのかもしれない。

全国地図には、ヤザキ地名は13カ所に中・大字として挙げられており、うち12カ所が「矢崎」になっている。

【小倉田】

オグラダ。

別府のヤザキ小字の東隣にある。

オグラダとは何を意味しているのか。語源辞典などに依りながら二説を挙げる。

①オグラダはオグラ(御倉)・ダ(処または田)で「倉庫があったところ(田)」か。飯田藩が別府の穀類を一時、収容管理した倉庫であったらうか。

②オグラとは木地屋との関わりも考えられないことはない。すなわち、オグラダとは「木地屋の住まいがあった所」かもしれない。小椋姓からの連想であろうか。近くには木材の一時的な貯蔵場でもあるトバ(渡場)小字がある。

全国地図にはオグラダ地名は記載されていない。

【見尻】

ミシリ。

別府の天竜川への合流点に近い松川左岸にある。

ミシリとは何か。分かりにくい地名である。語源辞典に依りながら二説を挙げておく。

①ミシリはミズ(水)・シリ(尻)の略で「湧水地の下流側の土地」をいうか。近

くにはイケダ小字もある。

②ミシリのミ（美）は美称の接頭語、シリ＝ジリで形容詞ジルの略で「水気の多い状態」をいう。従って、ミシリとは「湧水のある湿地がある土地」をいうか。シリ（尻）なので美称を頭にしたのであろうか。

全国地図には、ミシリ地名は記載されていない。

【方限】

ハウゲン。

別府の天竜川合流点に近い松川の左岸にある。

ハウゲンとは何を意味するのであろうか。二説を挙げたい。

①ハウゲン←ハウケ（法花）と転じた語で、「丘陵山地の片岸」をいう（語源辞典）。従って、ハウゲンとは「川の一方の岸の傾斜地」をいうか。湧水のあるところをいうのであろうか。

②「法源」「法眼」「法験」はハウゲンと読むが、いずれも仏語になっている。ハウゲンとは仏教に関連する固有名詞とも考えられる。すなわち、ハウゲンとは「寺院の所有地」かもしれない。これもまた寺田であろうか。

全国地図には、ハウゲン地名は記録されていない。

【新田】

シンデン。

別府の天竜川合流点に近い松川左岸の岬にある。

シンデンとは何か。敢えて二説を挙げる。

①シンデンとは字面通りで「新たに開かれた田んぼのあるところ」をいうのであろう。

②可能性は少ないが、シンデンをシンデン（神田）とすることがあるかもしれない。すなわち、シンデンとは「神社の所

有する田んぼで、収穫された米はお宮の神事や建物の維持管理に宛てられていた田んぼがあった所」かもしれない。

全国地図には、シンデン地名は、中・大字として572カ所という膨大な数字が挙げられており、うち561カ所に「新田」が、3カ所に「神田」の字が宛てられている。

【池田】

イケダ。

別府の松川の最下流域にある。

イケダとは、字面のとおりで、「自然の湧水が溜まった池のあった所」であろう。

全国地図には、イケダ地名は96カ所も中・大字として挙げられている。

【松川端】

マツカワバタ。

別府の松川最下流域の左岸にある。

マツカワバタとは文字通り、「松川の川端の土地」をいう。

全国地図にはマツカワバタ地名は載っていない。

【三角畑】

サンカクバタ。

別府の松川にかかる上溝橋の下流側にある。

サンカクバタとは「三角形に近い形になっている土地」をいう。

全国地図には、サンカクバタ地名は記載されていない。

【家ノ前】

イエノマエ。

別府のヤザキ小字に接する小さな小字である。

イエノマエとは「有力者の家の前の土地」をいうのであろうが、有力者の家とは、おそらくはヤザキ小字にあったのであろう。

全国地図には、イエノマエ地名は9カ所に中・大字として挙げられている。

【畑田】

ハタダ。

この小字は、別府のヤザキ小字に二面で接している。

ハタダとは、ハタ（端）・ダ（処）で、「丘陵の先端部になっているところ」であろうか。この先端部に沿って井水も流れている。

全国地図には、ハタダ地名が12カ所に中・大字として挙げられており、うち11カ所には「畑田」の字が宛てられている。

【羽場】

ハバ。

別府のハタダ小字の西隣にあり、三方をヤザキ小字に囲まれている小さな小字である。

ハバはハバ(岨)で、「土手などの斜面」をいう(国語大辞典)。群馬・山梨・長野・岐阜の方言であるという。

全国地図には、ハバ地名が中・大字として40カ所にあり、うち19カ所に「羽場」、10カ所に「幅」、6カ所に「巾」の字が宛てられている。

【市場崎】

イチバザキ。

別府の上溝橋に近い松川左岸付近に五カ所ほど分布している。

イチバザキとは「丘陵の先端部で定期的に市が開かれていたところ」か、あるいは「岬にある定期的に市が開かれていたところ」であろう。市の立つことが多かったという村境で川の傍に位置している。

全国地図には、イチバザキ地名は載っていない。

【薬師・薬師前・薬師下・薬師裏】

ヤクシ・ヤクシマエ・ヤクシシタ・ヤクシウラ。

これらの小字は別府の松川沿いで上溝

橋の付近に分布している。

ヤクシ小字は、明治七年(1875)まで別府薬師が祀られていた所と思われる。松川のほとりで臨松庵と呼ばれていたが、松川の氾濫をおそれて現在の庚申原に移したという(上郷史)。

「薬師裏」小字と「薬師前」小字は薬師堂の山手側にあり、「薬師下」小字は松川側にある。

全国地図には、ヤクシ地名は15カ所に中・大字として挙げられており、ヤクシマエ地名は8カ所、ヤクシシタ地名は1カ所が記載されているが、ヤクシウラ地名は無い。

【川端】

カワバタ。

別府の松川沿岸に二ヶ所ある。

カワバタとは字面の通りで「川の岸边」をいうのであろう。

【井ノ下】

イノシタ。

別府南部の松川左岸に二ヶ所ある。

イノシタとは「井水より下方の土地」をいう。

全国地図には、イノシタ地名は記載が無い。

【富貴免】

フッキメン。

別府の松川沿岸にあり、ヤクシ小字やヤクシシタ小字に接している。

フッキメン←ブツクメン(仏供免)と転じた語である(上郷地名考)。ウ段→イ段という変化はかなり見られるという(国語学大辞典)。

ブツクメンとは「収穫物を仏に供える物を整えるための費用に宛てる土地」をいうのであろう。免租地になっている寺田のことか。

全国地図にはフッキメン地名もブツクメン地名も記載されていない。

【チゴノ宮】

チゴノミヤ。

別府の松川近くに二ヶ所ある。

チゴノミヤには熊野三山の祭神十二所の中の児宮（ちごのみや）をいう場合と神宮皇后との関係で八幡神をいう児子宮（ちごのみや）の場合がある。

別府のチゴノミヤは後者の八幡神をいうのであろうか。従って、チゴノミヤとは「応神天皇である八幡神を祀ったところ」ということになるが、具体的なことはわからない。

全国地図には、チゴノミヤ地名は記録されていない。

【文助屋敷】

ブンスケヤシキ。

別府のイチバザキ小字に二方向を囲まれている。

ブンスケは固有名詞で、ブンスケヤシキとは文字通りで「文助の屋敷があったところ」を意味するものと思われる。

【屋敷田・屋敷畑】

ヤシキダ・ヤシキバタ。

別府にあり、イチバザキ小字にほぼ囲まれている。

ヤシキダとは、単に「屋敷があったところで田んぼになっている土地」か、あるいはもっと具体的に、「文助が所有していた田んぼのあるところ」かもしれない。近くにはブンスケヤシキ（文助屋敷）小字がある。

ヤシキバタとは何か。二説を挙げる。

①ヤシキバタとは「屋敷があったところで畑になっている土地」か、「文助の所有していた畑のあるところ」であろうか。

②ヤシキバタはヤシキ・バタ（端）で「屋敷跡のそばの土地」かもしれない。小さな小字である。

全国地図には、ヤシキダ地名は5カ所にあるが、ヤシキバタ地名は記載が無い。

【カニ田】

カニダ。

別府のミズタ小字の周りに三ヶ所ある。

カニダとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カニ←カネ（矩）と転じたもので、「曲がった地形」をいう。従って、カニダとは「田んぼがある曲がった地形の土地」か。

②カニ←カナ（搔薙）と転じた語で「崩れ地」をいうか。つまり、カニダとは「崩れ地もあり田んぼになっているところ」かもしれない。

全国地図には、カニタ地名は6カ所に記載があり、うち5カ所には「蟹田」の字が宛てられている。

【清水】

シミズ。

別府の丘陵上にある。

シミズとは「泉の湧き出ている所」をいうのであろう。井水が流れている場所であるが、自然の湧水もあるのか。

【鳥屋場】

トヤバ。

別府のタカヤ小字とミヨザキ小字に接する大きな小字である。

トヤバとは何か。二説を挙げる。

①トヤバとは「網を張って小鳥をとる所」（国語大辞典）をいう。栃木県や下伊那郡の方言であるという。伊那谷南部には多い。

②トヤバとは「その中に隠れて鳥をいるための鳥屋がけをした所」をいう。鳥屋は数本の丸太の一端をゆわえて円錐形に立て、それをソバ柄や栗柄で覆ったという。禁猟区になっていて藩主や高級武士たちの猟場になっていたともいう（以上は上郷地名考）。

全国地図には、トヤバ地名は2ヶ所の中・大字として挙げられており、「止屋場」

「鳥谷場」の字になっている。

【窪・久保】

クボ。

別府には、「窪」小字が二カ所、「久保」小字が四カ所ほどある。

クボとは「凹地になっているところ」をいうのであろう。段丘上の凹地である。

全国地図には、クボ地名は265カ所に挙げられている。

【五輪田】

ゴリンダ。

別府の丘陵上にあり、カニダ・オオタ・イチバザキなどの小字に囲まれている。

ゴリンダとは「五輪塔のあるところ」を意味するのであろう。ここには、五輪塔が三基確認されている。五輪塔は中世の後半からは、機内を中心に一石で小さく作る一石五輪塔も多くなる。こうした塔には一人か夫婦の法名が刻まれるなど、墓標的色彩が濃いという。中世に作られた石塔の中でもっとも一般的で数が多い石塔だという（民俗大辞典）。

全国地図には、ゴリンダ地名は載っていない。

【西田】

ニシダ。

別府の松川ベリにある、比較的に大きな小字である。

ニシダとは何を意味するのか。二説を挙げたい。

①ニシダとは、「西の方にある土地」をいうか。ニシが問題であるが、薬師堂のニシか、中心地と思われるヤザキ小字のニシをいうのか、どちらかと思われる。

②ニシは動詞ニジム（滲）の語幹の清音化で「湿地」をいう（語源辞典）。すなわち、ニシダとは「湿地の多い土地」を意味することも考えられる。

全国地図には、ニシダ地名は27カ所に中・大字として挙げられており、その

全てに「西田」の字が用いられている。

【川原・下川原】

カワラ・シモカワラ。

これらの小字は、別府の松川沿岸にある。カワラよりシモカワラの方が松川の上流側になる。

カワラは「川辺の、水がなくて砂石の多い所」（広辞苑）であろう。

シモカワラは二説を挙げておきたい。

①シモカワラとは「下流側にある川沿いの平地」と思われるが、上流側にカワラとかカミカワラを確認できないでいる。

②シモは動詞シモル（沈）あるいはシモル（滲）の語幹で「湿地」の意もある（語源辞典）。つまり、シモカワラとは「湧水のある川沿いの平地」かもしれない。

全国地図には、カワラ地名は126カ所、シモカワラ地名も33カ所に、中・大字として挙げられている。

【岩窟・岸屈】

ガンクツ。

いずれも、別府の松川の川辺にある。

ガンクツとは「岩穴があるところ」をいう（広辞苑）。ここにどんな岩穴があるのかは未確認。

全国地図には、ガンクツ地名は記載が無い。

【小松原】

コマツバラ。

別府の松川沿岸部にある。松尾との境界が左岸側にまで食い込んでおり、かつてはここまで松川が蛇行していたのであろうか。

コマツバラとは何をいうのか。二説を挙げたい。

①コマツバラとは、「小さい松が多く生えている原」（広辞苑）をいう。氾濫が常習的な土地で、松も大きくなると流されてしまうのであろうか。

②コマ←コロ（転）・マ（間）で「川の曲

流点」をいい、ラは「場所」を示す接尾語（以上は語源辞典）。従って、コマツバラとは「川の曲流点にある原」か。

全国地図には、コマツバラ地名は20カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「小松原」の字が宛てられている。

【下垣外】

シモガイト。

別府の松川に近い所にある。

シモガイトとは「カイト小字よりも下の方にある屋敷跡がある土地」をうのであろう。斜面の上の方にはカイト小字がある。

全国地図には、シモガイト地名が7カ所に、中・大字として挙げられている。

【歳ノ神】

サイノカミ。

別府の栗沢川が曲流する場所にあり、松川が近い。

サイノカミ＝サエノカミで「境にあって外部から村落へ襲来する疫神や悪霊などをふせぎ止めたり、追い払ったりする神。また行路の神、旅の神、生殖の神ともされる」（国語大辞典）。

従って、サイノカミとは「村境にあって、外部から襲ってくる疫神や悪霊などを防ぐ塞神を祀った場所」をいうのであろう。

全国地図には、サイノカミ地名は29カ所に中・大字として挙げられている。

【水口】

ミズグチ。

別府の段丘上に大小のミズグチ小字が三ヶ所にある。

ミズグチとは「井水からの水の取入口のある所」をいうのであろう。

全国地図には、ミズグチ地名は8カ所に中・大字として挙げられ、その全てが「水口」となっている。

【天狗】

テング。上郷町小字地図と長野縣町村字地名大鑑ではテンパク（天白）となっている。

別府のミヤガイト小字やトヤバ小字に接しており、近くには護老神社がある。

天狗は山の神霊の中世的な表現であり（修験道辞典）、天伯はおしなべて東北から中部にかけての山岳地帯では山の神的性格がみられるという（民俗大辞典）。

従って、テングとは「山の神を祀っていたところ」としておきたい。

なお、護老神社には天伯大山住命が祀られている。

全国地図には、テング地名は3カ所に中・大字として挙げられており、うち2カ所には「天狗」が宛てられている。

【宮垣外・宮ノ前・宮下・宮脇・宮前垣外】

ミヤガイト・ミヤノマエ・ミヤシタ・ミヤワキ・ミヤマエガイト。

これらの小字は、別府の護老神社の周辺にある。

ミヤガイトは「お宮の所有地」を、ミヤノマエは「お宮の前方の土地」を、ミヤシタは「お宮の下の方の土地」を、ミヤワキは「お宮の脇にある土地」を、ミヤマエガイトは「お宮の前にある境内(所有地)」をいうものと思われる。

【神明】

シンメイ。

別府の最北部である栗沢川右岸にある。

神明は単に神を意味することもあるが、多くは祭神として天照大神を祀っているところか、あるいは伊勢信仰に関わる地名をいうのであろう。明治初年に神明社は消えていったが、小字で残っているところはある。

シンメイとは何か。二説を挙げておきたい。

①シンメイとは「伊勢神宮関係の神が祀られていたところ」か。別府の護老神社には伊雑皇大神が祀られている。

②シンメイとは「伊勢講の代参費用のための共有の田んぼがあった所」か。飯沼の伊勢講については上郷史に記載があるが、別府でも伊勢講が行われていた可能性はある。

全国区地図にはシンメイ地名が36カ所に中・大字として挙げられており、うち32カ所に「神明」の字が宛てられている。

【北垣外】

キタガイト。

別府の最北部にあり、栗沢川に接している広い小字である。

カイトには「名田を含めた名主の屋敷」の意もある(国語大辞典)。従って、キタガイトとは「(別府の)北部にある名主の屋敷を含めた所有地があったところ」であろうか。

全国地図には、キタガイト地名が10カ所、中・大字として挙げられている。

【八右エ門】

ハチエモン。

別府の北部にあり、キタガイト・カヤマ・タカヤの小字に囲まれている。

ハチエモンとは「八右衛門の所有地であったところ」であろう。ここには屋敷もあったのかもしれない。

【永通】

ナガドオリ。長野縣町村字地名大鑑ではエイドオリとなっている。

別府の北寄りのところにある。

ナガドオリとは何か。二説を挙げる。

①ナガドオリはナガ(長)・トオリ(通)で「道路に沿って長く伸びた土地」であったか。

②ナガドオリ←ナカ(中)・ドオリ(通)と転じた語で、ナカドオリには「中央部

の往来」(国語大辞典)の意がある。つまり、ナガドオリとは「(別府の)中央部を通る道路のあった所」かもしれない。その道は現在はないが、痕跡はあるように思えるがどうであろうか。

エイドオリであれば、どうか。エイ←イイと転訛したもので「小高い所にある土地」(語源辞典)であろうか。すなわち、エイドオリとは「小高い所にあり、道路が通っているところ」か。

全国地図には、エイドオリ地名もナガドオリ地名も記載が無い。

【墓所田】

ハカショダ。

この小字は、ナガドオリ小字とトヤバ小字に挟まれている。

ハカショダとは字面の通りで、「墓地のあったところ」あるいは「水田だが、墓地があったところ」をいう。近くには今でも墓地がある。

全国地図には、ハカショダ地名は載っていない。

【弓矢】

ユミヤ。

別府の護老神社の北方にある。

ユミヤとは何を意味するのか。広辞苑に依りながら二説を挙げたい。

①ユミヤはユミ(弓)・ヤ(屋)か。すなわち、「弓を作り商う家のあったところ」をいうのであろうか。弓は武士だけではなく、神社の弓神事でも欠くことはできないものであった。弓師がいても不思議では無いと思われる。

②ユミヤと「弓と矢」で、武士を指している。従って、ユミヤとは「武家屋敷があったところ」かもしれない。

全国地図には、ユミヤ地名は2ヶ所に中・大字として挙げられており、いずれも「弓矢」の字が宛てられている。

【洩田】

フチダ。

別府のクボ小字とトヤバ小字に挟まれており、二面を井水に接している。

フチダとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①フチはフチ（縁）で「縁に井水が流れている田んぼ（土地）」をいうか。

②フチダとは「丘陵の縁になっている土地（田んぼ）」も考えられる。

全国地図には、フチダ地名は1カ所のみ中・大ああととして挙げられている。

【坂畑】

サカバタ。

東端が別府のテング小字に接している小さな小字である。

サカバタとは何か。二説を挙げる。

①サカバタとは、字面の通りで「緩傾斜地にある畑地」をいうか。

②バタ＝ハタ（端）で、サカバタとは「傾斜地の傍の土地」をいうか。段丘崖の近くにあることを指しているのであろうか。

全国地図には、サカバタ地名は無いが、サカハタ地名は2カ所にあり、「坂畑」の字が宛てられている。

【向バタ】

ムコウバタ。

別府の護老神社の北方にある。

ムコウバタとは「向の方にある畑」をいうのであろう。どこから見て“向の方”なのか。恐らく、基点は護老神社と思われるが、あるいは南東方向にある「文助屋敷」かもしれない。

【丸山】

マルヤマ。

別府にあり、テング・サイノカミ・ミヤガイトの小字に囲まれている。

マルヤマとは、「少し高くなっている丸い丘」をいうのであろう。この小字は東側から見ればそのように見えるか。現在は墓地になっているが、その他に何らか

の意味があるのだろうか。

【釘抜】

クギヌキ。

別府のキタムラ小字とミズグチ小字に囲まれている。

クギヌキとは何を意味しているのか。二説を挙げておく。

①クギヌキには「墓の周囲にある簡単な柵」（国語大辞典）をいう。現在は、ここに墓地は無いが、小字発生時には墓地があった可能性はあるので挙げておきたい。

②クギはクキの濁音化した語で「山間の窪んで入りこんだ所」をいい、ヌキはヌ（沼）・キ（「場所」を示す接尾語）であるという（語源辞典）。以上から、クビヌキとは、「入りこんだ低地になっている湿地」をいうか。

全国地図には、クギヌキ地名は3カ所に中・大字として挙げられている。

【泉前】

イズミマエ。

別府のミヤガイト小字とサイノカミ小字に挟まれている。

イズミマエとは、字面の通りで「湧水のある下方の土地」をいうのであろう。丘陵の先端部で、湧水のありそうな場所になっている。

全国地図には、イズミマエ地名はなぜか記載が無い。

【北村】

キタムラ。

別府北部に三カ所ある。そのうちの一つは栗沢川に接している。かつては繋がったいたとすれば、広大な面積になる。

キタムラとは何か。ムラはムラ（斑）で「凹凸の多い土地」をいう（語源辞典）。

従って、キタムラとは「（別府の）北部にある凹凸の多い土地」を意味するのであろうか。

全国地図には、キタムラ地名は58カ

所に中・大字として記載があり、うち57カ所が「北村」の字を宛てている。

【重造屋敷】

ジュウゾウヤシキ。

別府のミヤガイト小字の北西側にある。

ジュウゾウは固有名詞か。従って、ジュウゾウヤシキとは「重造が住んでいた屋敷のあったところ」をいうのであろう。

【前田】

マエダ。

別府の護老神社の北方に二ヶ所ある。

マエダとは、「前の方にある田んぼ（土地）であろうが、マエとは重造屋敷の前方を意味するものと思われる。

【札場】

フダバ。

別府の国道153号線沿いにあり、御殿山を下る道と交わっている。

フダバとは「江戸時代、人通りの多い辻や橋のたもとなどにあつた、種々の布告や禁令の制札を立てておく場所」（国語大辞典）である。国道153号線は、小字発生時にも、主要街道であつたと思われる。

全国地図には、フダバ地名は18カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「札場」の字が宛てられている。

【石佛】

イシボトケ。

別府のフダバ小字の北西隣でコウシンバラ小字との間にあり、国道153号線に沿って細長く伸びている。

イシボトケとは、文字通りで「石で造つた仏像が置かれているところ」であろう。文字を刻んだ石塔であつたかもしれない。

全国地図には、イシボトケ地名は中・大字として19カ所に挙げられており、うち18カ所には「石仏」の文字が宛てられている。

【古セ・古瀬】

コセ。

これらの小字は、別府の国道153号線の西側に分布する。

コセとは何か。二説を挙げる。

①コセは「長野県の一部で、一方が山側になつた道をいう」（国語大辞典）であるという。従って、ここでもコセとは「一方が山側になつた道」をいうのであろう。別府の段丘崖を北側に見ながら通行する道路が複数通っている。

②コセはコ（小）・セ（瀬）で、「小さな流水のある所」（語源辞典）と解することも可能である。ここには、比較的大きな栗沢井が流れている。

全国地図には、コセ地名は17カ所に中・大字として挙げられており、うち9カ所に「小瀬」が、4カ所に「古瀬」が宛てられている。

【車田】

クルマダ。

別府の国道153号線と別府線の三叉路の北西側隅にある。

車田は「田の中央から螺旋状に田植えを行う慣行の田」をいう（国語大辞典）。しかし、この場合は、クルマダとは「ほぼ円形になっている土地（田んぼ）」（語源辞典）としておきたい。

全国地図には、クルマダ地名は4カ所に中・大字として記載があり、その全てが「車田」になっている。

【角田】

スミタ。

別府の国道153号線の城東交差点の南東側隅にある。

スミタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げたい。

①スミはスミ（角）で「曲がり角」のこと。従って、スミタとは「道路の曲がり角にある土地（田んぼ）」をいうのであろう。

うか。

②スミはス(砂)・ミ(廻)で「砂地」のこと。つまり、スミタとは「砂地になっている土地(田んぼ)」かもしれない。

全国地図には、スミタ地名は無いが、スミダ地名は5カ所に中・大字として挙げられている。

【仲井通】

ナカイドオリ。

別府国道153号線の城東東交差点の南側隅にある。

ナカイドオリとは何を意味するのか。二説を挙げる。

①ナカイはナカ(中)・キ(居)で「集落の中心部」をいう(語源辞典)。従って、ナカイドオリとは「部落の中心部を通る道路のあるところ」をいうのであろうか。

②ナカイはナカイ(中井)で、野底川から引いている井水をいうのかもしれない。すなわち、ナカイドオリとは「井水の中井の流れに沿った道路が通っているところ」をいうか。

全国地図には、ナカイドオリ地名もナカイトオリ地名も記載されていない。

【砂田】

スナダ。

別府国道153号線の城東交差点の南東側隅にあり、スミタ小字の南隣になる。

スナダとは字面の通りで「砂地になっている土地(田んぼ)」であろう。この小字発生時に田んぼであったのかどうかは不明。

【渡瀬】

ワタリセ。

別府のスナダ小字の南側、国道153号線の三叉路東側にある。

渡瀬とは「歩いて渡ることのできる浅瀬をいう(広辞苑)。従って、ワタリセとは「歩いて渡ることのできる浅瀬になっている場所」をいうのであろうか。75

mほど南は永代橋になっており松川が流れている。浅瀬になっているのは松川のことであろうが、やや離れているのが気になる。この小字発生時にはもっと近かったのであろうか。

全国地図には、ワタリセ地名もワタリゼ地名も記録されていない。

【隠田】

インデン。

別府の永代橋より上流の松川端に川に沿った細長いインデン小字が一つ、護老神社の西隣と北の方に小さな小字が二ヶ所ある。

インデン=オンデン(隠田)で「中世、近世に、領主に隠して租税を納めない田地」(広辞苑)であろう。

松川端のインデンは、永流地として認められていたらしいという。飯田藩二万石以外の土地で藩では自由に耕作させて収穫のあった年は相応の年貢を納めさせたという(上郷地名考)。幕府には内緒の隠田であったのだらう。

これに対して、護老神社周辺の小さな隠田は藩の知らない隠田で、村や集落の隠田であったのかもしれない。

それでも全国地図には、インデン地名が1カ所だけ中・大字として挙げられている。

【化石】

バケイシ。

別府の雲彩寺のすぐ南側にある。

化石は「ばけて人をおどかすとか怪音を出すなど怪異をあらわすという石」(国語大辞典)である。

バケイシ小字には「化け石」と呼ばれている高さ1mほど、周囲3mくらいの石があり、この石はいろいろなものに化けて、道を通る人を化かしたという言い伝えがあるという(上郷の民俗)。

以上から、バケイシとは「化け石のあ

る土地」を意味する。

全国地図にはバケイシ地名が2カ所にあり、いずれも「化石」となっている。

【大沢垣外】

オオサワガイト。

別府北部の栗沢川右岸にある。

オオサワガイトとは、「大きな沢沿岸で屋敷跡があるところ」を意味するものと思われる。

全国地図には、オオサワガイト地名は載っていない。

【榎戸・下榎戸】

エノキド・シモエノキド。

これらの小字は、高松原段丘崖と麓の平坦地に分布している。

エノキドとは何を意味しているのか。語源辞典に依りながら二説をあげる。

①エノキはエ（江）・ノキ（抜）で、「流水の傍で崩れ地のあるところ」をいい、ドはド＝トで「場所」を示す接尾語か。以上から、エノキドとは「流水に沿った崩れ地のあるところ」をいうか。流水とは栗沢川のこと。

②エノキドとは「エノキが植えられていた場所」かもしれない。エノキは神聖な樹木であった。古い街道があったとすれば、この解釈が生きてくるがどうであろうか。

シモエノキドは「エノキド小字の下流側にある土地」をいうのであろう。

全国地図には、エノキド地名は15カ所に中・大字として挙げられており、うち14カ所は「榎戸」となっている。

【スソ坂】

スソザカ。

別府の経蔵寺の段丘から下る段丘崖の麓にある。

スソザカとは「段丘の麓にある土地」をいうのであろう。段丘端に沿って細長く伸びている。

全国地図には、スソザカ地名は記載が無い。

【中井】

ナカイ。

別府のスソザカ小字の南の方にあり、テンノウ小字に囲まれている。

ナカイとは「野底川から引いているナカイ（中井）の井水が流れている土地」をいうのであろう。

全国地図には、ナカイ地名は77カ所に中・大字として挙げられており、うち39カ所が「中井」となっている。

【加々沢・賀々沢・加賀沢】

カガサワ。

別府の野底川やその支流の流域に分布している。

カガサワとは何か。二説を挙げる。

①カガはカ（欠）・ガ（処）で「崩崖」をいう（語源辞典）。従って、カガサワとは「崩崖のある谷川が流れている土地」をいうか。

②カガはカガ（炫）で「きらきらと輝くこと」（国語大辞典）をいう。すなわち、カガサワとは「川面がきらきらと輝いている谷川が流れている所」か。

加賀沢は野底川の支流であるのか、あるいは野底川の下流側の名称であったのであろうか。

全国地図には、カガサワ地名は3カ所に中・大字として挙げられており、すべてが「加賀沢」になっている。

【向垣外】

ムコウガイト。

別府にある。高松原段丘の南側にある下の段丘上にあり、ナカジマ小字に囲まれている。

ムコウガイトとは「向にある屋敷跡」であろう。どこから見てムコウになるのか、はっきりしないが、西の方にあるイエノウラ小字のイエに当たる屋敷が基準

になっているのだろうか。

全国地図にはムコウガイト地名は1カ所に中・大字として挙げられており「向垣外」の字が宛てられている。

【久造畑】

キュウゾウバタ。

別府の大きなナカジマ小字に囲まれている小さな小字である。

キュウゾウは固有名詞であろう。従って、キュウゾウバタとは「久造が所有する畑」であろうか。

【新屋敷】

シンヤシキ。

別府の南保育園のあるところで、段丘崖とその麓の緩傾斜地になっている。

シンヤシキとは何か。広辞苑に依りながら、二説を挙げておく。

①シンヤシキとは字面の通りで「新築された屋敷のあったところ」か。

②シンヤシキとは「分家して新たに作られた屋敷があったところ」であろうか。

全国地図には、シンヤシキ地名は64カ所に中・大字として挙げられ、うち「新屋敷」の字が宛てられているのは63カ所となっている。

【山岸】

ヤマギシ。

高松原・南原段丘から下る段丘崖の急傾斜地にある。

ヤマギシとは「山の、切り立った絶壁」をいう（国語大辞典）。

全国地図にはヤマギシ地名は37カ所に中・大字として挙げられており、うち36カ所が「山岸」となっている。

【家ノ裏・家ノ前】

イエノウラ・イエノマエ。

別府にあり高松原段丘の下の段丘で南の方にある。

イエノウラは「屋敷の裏手にある土地」で、イエノマエは「屋敷の前方にある土

地」をそれぞれ意味するが、二つの小字は離れているので、対象となっているヤシキは異なっていると思われる。

【ドメキ】

ドドメキ。

別府の野底川左岸にあり、カガサワ小字にも接している。なお、黒田の高陵中学校の北方にもあるが、近くを流れるのは新戸川である。

ドドメキ＝ドドメキ（轟）である。由来については広辞苑に依りながら二説を挙げておきたい。

①ドドメキとは「川音のとどろく所」をいうのであろうか。近くには野底川（加賀沢）や新戸川が流れている。

②ドドメキとは「川が合流するところ」か。野底川とその支流が合流している。黒田のドドメキについては成立しないか。

全国地図には、ドドメキ地名は3カ所にあり「百々目木」となっているが、ドドメキ地名はない。伊那谷南部には多いので、この地の特徴的な地名かもしれない。

【海老田】

エビタ。

別府の高松原段丘の下の段丘上にある。

エビには山葡萄の意があるが、ここには当てはまりそうにない。エビタとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①エビタとは「海老のように段差がある所（田んぼ）」を意味するか。

②エビは動詞エブ（笑）の連用形で「地盤のほころんだ所」か。すなわち、エビタとは「崩れ地のある所（田んぼ）」かもしれない。

エビタ地名は全国地図に3カ所に中・大字として挙げられており、全てが「海老田」となっている。

【茶ノ木畑】

チャノキバタ。

別府の高松原段丘の南西向きの緩い傾斜地にある。

チャノキバタとは文字通りで「お茶を栽培していた畑のあったところ」をいうのであろう。

全国地図には、チャノキバタ地名は記載されていない。

【川底・下川底】

カワソコ・シモカワソコ。

野底川とその支流の流域に、それぞれ複数箇所ある。

カワソコとはカハ（川）・トコ（床）が転訛した語で、「洪水のさい河水が流れるところ」をいう（語源辞典）。

シモカワソコは「カワソコ小字の下流側の土地」をいうのであろう。

全国地図にはカワソコ地名は10カ所、カワゾコ地名は2カ所が、中・大字として記載があり、それらの全てに「川底」の字が宛てられている。

【見内】

ミウチ。

別府の野底川支流と思われる流水の右岸にある小さな小字である。

ミウチ←ミズ（水）・フチ（縁）と転じたものか（語源辞典）。すなわち、ミウチとは「縁に流水がある土地」をいうか。現在は二面に流水がある。

全国地図には、ミウチ地名は10カ所に中・大字として挙げられ、うち5カ所が「見内」となっている。

【堤下】

ツツミシタ。

別府のカワソコ小字群に接している。上郷考古博物館の下流側にある。

ツツミは「水を溜めた池」をいう（国語大辞典）。従って、ツツミシタとは「水を溜めた池の下流側にある土地」をいうか。

全国地図には、ツツミシタ地名は8カ

所に中・大字として記載され、すべて「堤下」となっている。

【道下】

ミチシタ。

別府には竜西線に沿うミチシタ小字が三ヶ所ほど、いずれも竜西線の東側にあり、西部には県道市場・桜町線と県道から分かれた道路傍に三カ所ある。

ミチシタとは「主要道路の下側の土地」を意味する。

全国地図にはミチシタ地名は21カ所に中・大字として記録され、その全てに「道下」の字が宛てられている。

【辻】

ツジ。

別府西部の三ヶ所のミチシタ小字を長辺に沿って延ばせば一点に集まる、そこがツジ小字になっている。

ツジとは「二本以上の道が交わる場所がある土地」をいう。

辻は自分たちの世界と他の世界の境界地であり、諸霊の集まる場所で占いや芸能の場であり、商業が盛んになるにつれて市が開かれる場となり、にぎやかな中心的な場でもあったという（民俗大辞典）。

全国地図にはツジ地名は123カ所が中・大字として挙げられており、さすがに多い。

【観音】

カンノン。

別府西部のツジ小字に接する細長く小さな小字である。

カンノンとは「観音様が祀られている場所」をいうのであろう。馬頭観音などが安置されていたか。

全国地図には、カンノン地名は9カ所に中・大字として挙げられている。

【道添】

ミチゾエ。

別府西部のミチシタ小字とツジ小字に

挟まれた小さな細い小字になっている。

ミチゾエとは字面の通りで「道路に沿った土地」をいう。

全国地図には、ミチゾエ地名が5カ所の中・大字として挙げられており、その全てが「道添」となっている。

【駒形】

コマガタ。

別府西部の飯田境にあり、野底川沿岸で都出橋が架かっている。

コマガタとは何か。三説を挙げる。

①コマ←コロ(転)・マ(間)で「川の曲流点」をいい、ガタは「川岸で水の浸かりやすいところ」を指す(以上は語源辞典)。従って、コマガタとは「川の曲流点で水の浸かりやすかった所」か。

②コマ←カハ(川)・マ(間)と転訛したもの(語源辞典)。従って、コマガタとは「流水に挟まれていて、水の浸かりやすい土地」をいうか。野底川がここで曲流している。

③コマガタとは「将棋の駒の形をしたもの」(国語大辞典)のこと。従って、このコマガタとは「将棋の駒のような形になっている土地」をいうのかもしれない。二本の流水に囲まれた形は将棋の駒と見られないことも無い。

全国地図には、コマガタ地名が18カ所の中・大字として挙げられており、うち14カ所は「駒形」の文字を宛てられている。

【障子垣外】

ショウジガイト。

別府西部の野底川沿いに二ヶ所ある。

ショウジガイトとは何か。三説を挙げておきたい。

①ショウジ←ショウズ(清水)と転じたもので「細流。泉」をいう(語源辞典)。すなわち、ショウズガイトとは「清水が湧き出る屋敷跡の地」をいうか。

②ショウジ←ショウジン(精進)と略した語で、「精進潔斎をした場所」をいう(語源辞典)。『上郷地名考』は、この解釈にし、梵鐘を鋳るために、ここで心身を浄め行いを慎んだ、としている。梵鐘を造ったのは隣にあるカネイバラ小字ではなかったかという。

③ショウジはショウジ(庄司)で、ショウジガイトとは「荘園の管理に従事した庄司の屋敷跡があったところ」(語源辞典)かもしれない。

全国地図には、ショウジガイト地名は記録されていない。

【川尻】

カワジリ。

JR飯田線が野底川を越える、その南東隅付近にある、小さな小字である。

カワジリは「川しも」の意(広辞苑)であるから、このカワジリも「流水の末端部になっている土地」をいうのであろうか。末端部というのは、野底川に合流する野底川の支流なのか、井水なのかは分からない。

全国地図には、カワジリ地名は17カ所があり、うち16カ所には「川尻」の文字が使われている。

【か祢い原】

カネイバラ。

野底川左岸の県道飯島・飯田線とJR飯田線の間二ヶ所ある。

カネイとはカネイ(鐘鋳)で「鐘を鋳造すること」をいう。

カネイバラとは「鐘を鋳造したところ」をいうか。鐘は銅の合金で作られ撞木などで叩いたりついたりして鳴らした。寺院で用いる釣鐘(梵鐘)や小形の半鐘があり、これも寺院や陣営での合図に使用したという(国語大辞典)。

原ノ城も飯田町の大雄寺もここからは近い。大雄寺の梵鐘を鋳造した可能性が

あるという（上郷地名考）。

南西向きの傾斜地になっているというのは、風の強さも考慮したのかもしれない。

全国地図には、カネイバラ地名は無く、カネイハラ地名は1カ所に中・大字として記載があり、「金居原」の文字が宛てられている。

【野底】

ノソコ。

上街道が野底川を渡る野底橋付近の左岸にある。

ノ（野）は「比較的平らな地形で小高い所のため、水がかりが悪く、耕作すること、特に水田を開くことが困難で雑木林や竹林になっているところが多い」（地図から読む歴史）という。ソコ（底）は「川などくぼんだ地形の下の部分」（国語大辞典）のこと。

以上から、ノソコとは「緩傾斜地で雑木林や竹林になっていた場所を流れる川の縁」をいうのであろうか。

全国地図には、ノソコ地名は4カ所に中・大字として挙げられており、全てに「野底」の字が宛てられている。

【柏原】

カシワバラ。

姫宮の野底川溪谷の西側にある広大な小字である。

カシワバラとは何か。語源辞典に依りながら二説を挙げる。

①カシワはカシ（傾）・ハ（端）で、「傾斜地の末端部」をいうか。ハラ（原）は「耕地や宅地として利用されていない緩傾斜地。水利の番が悪く、採集や狩猟の場」（民俗大辞典）か。以上から、カシワバラとは「採集や狩猟が行われている傾斜地の末端部」をいうのであろうか。

②カシワバラとは字面の通り「植物のカシワが自生している傾斜地の末端部」を

いうのかもしれない。柏餅など食物を包んだり盛ったりするのに葉を用いたり、樹皮を染料にしたのであろうか。

全国地図には、カシワバラ地名は36カ所に中・大字として挙げられており、うち35カ所が「柏原」となっている。

【松洞】

マツボラ。

別府のナカジマ小字の南隣にある小さな小字である。

マツボラとは、字面の通りで「アカマツが自生している小さな谷」があった所をいうのであろうか。

全国地図には、マツボラ地名は載っていない。

【大洞】

オオボラ。

黒田の土曾川上流部にある。土曾川沿いの長い小字になっている。

オオボラとは「大きな谷」を意味するか。土曾川が開析した谷である。

全国地図には、オオボラ地名は20カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「大洞」の字が宛てられている。

【澤ノ田】

サワノタ。

黒田の座光寺境にあり、土曾川と栃ヶ洞川の間にある。

サワノタとは何か。二説を挙げる。

①サワ（沢）・ノ（助詞）・タ（田）で、「谷川に囲まれた水田のある所」をいう。現在は水田が多い土地になっている。

②サワ（沢）・ノタ（ヌタ）で「谷川の近くにある湿地帯」をいうか。

全国地図にはサワノタ地名は記載が無い。

【浄法・浄法洞】

ジョウホウ・ジョウホウボラ。

黒田の座光寺境、土曾川右岸の沿岸にある。

ジョウホウとは何か。難しい地名である。広辞苑に依りながら二説を挙げたい。
①ジョウホウはジョウホウ(城堡)で「外敵を防ぐための建造物」か。すなわち、ジョウホウとは「北からの外敵を防ぐために土曾川を利用した砦があった所」であろうか。しかし痕跡はない。臨時の砦であったかもしれない。

②ジョウホウ(上方)は「山寺」をいう。したがって、ジョウホウとは「山寺があったところ」をいうのであろうか。これも根拠はない。

ジョウホウボラとは「ジョウホウ小字の近くにある洞」か。

全国地図にはジョウホウ地名は1カ所だけあり、「上法」の字になっている。

【垣外尻】

カイトジリ。

キタジョウ小字のある段丘から下る段丘崖にある。

カイトジリとは「北城など城のある区画の末端部」をいうのであろう。

【坂上】

サカウエ。

飯沼城のある段丘の先端部にある。

サカウエは「坂をのぼりきった所」(国語大辞典)をいう。従って、このサカウエとは、「飯沼城段丘に下から登り切ったところ」を意味するのであろう。

全国地図には、サカウエ地名は10カ所に中・大字として挙げられており、その全てに「坂上」の字が宛てられている。

【森西】

モリニシ。

飯沼諏訪神社の西方、モリミナミ小字の西隣にある。

森は「神社などのある神域で、神霊の寄りつく樹木が高く群がり立つ所」(国語大辞典)である。

従って、モリニシとは、「神社のある森

から西の方にある土地」をいうか。神社とは飯沼の諏訪神社のこと。

全国地図にはモリニシ地名は1カ所だけ中・大字として挙げられている。

【大手畑】

オオテバタ。

飯沼諏訪神社の西から南の方へ広がる大きな小字である。現在、高陵中学校がある所。

オオテバタとは「城の大手門付近にある畑」をいう。城はもちろん、飯沼城である。

全国地図には、オオテバタ地名もオオテハタ地名も載っていない。

【大畑】

オオハタ。

飯沼諏訪神社の北方にある。

オオハタとは「大きな畑」をいうのであろう。小字そのものは、それほど大きくはないが、小字発生時にはもう少し大きかったか、あるいは一枚の畑の面積が大きかったのかもしれない。

全国地図には、オオハタ地名は75カ所に中・大字として挙げられており、うち67カ所には「大畑」の字が宛てられている。

【金浄上】

キンジョウウエ。

飯沼諏訪神社の北方にあり、オオヒガイト・オオバタ・ジョウバタの小字に囲まれている。

キンジョウとは「城の本丸」をいい(広辞苑)、ウエは「傍。ほとり」か(語源辞典)。従って、キンジョウウエとは「城の本丸の近くの地」をいうのであろう。

全国地図には、キンジョウウエ地名もキンジョウ地名も載っていない。

【久保畑】

クボバタ。

飯沼諏訪神社の段丘上にあり、ナカジ

マ小字の北側にある。

クボバタとは「畑になっている凹地」をいうか。

全国地図には、クボバタ地名は1カ所、クボハタ地名は3カ所が、中・大字として挙げられている。

【城畑】

ジョウバタ。

飯沼諏訪神社の近くにある。かつての飯沼城内であろう。

ジョウバタはジョウバタ（上畑）ではないであろう。やはり、字面のとおりで「城跡であった畑」としたい。

全国地図には、ジョウバタ地名は1カ所に記載があるが「上畑」の字が与えられている。

上郷公民館 1988

13. 林登美人「上郷の民俗」
上郷史学会 1999
14. 楠原佑介他「地名用語語源辞典」
東京堂出版 1983

《参考資料》

1. 市村威人編「下伊那地名調査」
下伊那教育会所蔵 1957～1958
2. 滝澤主税編著「明治初期長野縣町村
字地名大鑑」長野県地名研究所 1987
3. 新村出編「広辞苑」第六版
岩波書店 2008
4. 「日本国語大辞典」縮刷版第一版
小学館 1981
5. 福田アジオ他「日本民俗大辞典」
吉川弘文館 2000
6. 「国語学大辞典」東京堂出版
1980
7. 「仏教民俗辞典」新人物往来社
1993
8. 神田より子他「神事と芸能」
吉川弘文館 2010
9. 遠藤元男「日本職人史の研究」
雄山閣 1961
10. 日下部新一「上郷史」 1979
11. 日下部新一「上郷町小字地図」
上郷公民館 1988
12. 日下部新一「上郷地名考」